

TEAM GUIDE
チームガイド
 &
国際大会状況
報告
 REPORT

2021

亜細亜大学
テニス部



World
Tennis

Mens Futures
Mens Circuit
Tokyo, Japan

UNIVERSITY
ASIA
TENNIS
MENS FUTURES, ITF WOMEN'S

ASIA 2019
TENNIS

ITF World



テニス部の
 ホームページを
 開設しました!

新1号館



13
学生生活に関する各事務室や教員の研究室、会議室などがある校舎です。

2号館



6
ガラス張りの外観がひととき目立つ校舎。中・大規模教室と、屋上庭園があります。

3号館



3
演習や語学の授業で使われる小規模教室と、講義用の大教室、講堂があります。

5号館



1
大小24の教室。授業の合間には多くの学生が行き交い、ベンチで談笑する光景も。

7号館



2
南門に接した教室メインの校舎。正面にはコミュニティバスの停留所があります。

8号館(国際交流会館)



14
国際交流センター、附置機関、大学院生用の自習室、留学生別科の教室などがあります。

太田耕造記念館



4
約68万冊の蔵書と最新設備を備えた図書館、学園史展示室などで構成されています。

ASIA PLAZA



5
食堂とグループ学習スペースを擁する、多目的施設です。

体育館



16
競技用のフロアのほか、柔道場、剣道場、リング、トレーニングセンターなどがあります。

Hinode Campus

日の出キャンパス

グラウンドやテニスコートを擁する総合運動場をはじめ、合宿などで利用する宿泊施設があります。最寄り駅はJR五日市線「武蔵引田」駅。



日 本テニスの育成には大きな課題があります。ひとつは18歳以上の強化です。多くのジュニアや高校生は、指導者や親とともに夢と希望をもってテニスに取り組んできています。テニスは決して18歳までに完成することができない、奥の深いスポーツですが、それを18歳以上でどのように磨くかが日本テニス最大のテーマのほずです。ということは、大学の役割は非常に大きく、特に重要になるのが指導力です。選手が転戦するだけでは身につかないもの、または、それ以上のものを大学が提供できなければ意味がありません。

次に重要となるのが環境の強化です。関東の大学では春関（関東学生）、夏関、新進戦、リーグ戦と4つの大会のみです。全国大会はインカレ、インカレ・インドア、大学王座の3つの大会です。これらの大会は同世代だけが参加します。しかし、実は戦う相手はもっと別の世界にもいます。知っている人と戦うことよりも、まったく知らない人と戦うことがどれだけ人をワクワクさせるのでしょうか。大学4年間であらゆる世代やレベルや地域を越えたテニスを体験し、挑むことほど、素晴らしいものはありません。自分がいままでつくり上げたテニスを試す“最高ステージ”は、大学テニスの世界以外にもあるのです。

当然、「負け」や「失敗」が付きまとい、自分を見失うこともあることでしょう。しかし、「負け」を嫌い、「失敗」をたくさんしない学生が、いっとうやってそこから這い上がる精神を身につけることができるのでしょうか。私は学生こそ

「失敗することが仕事」だと思っています。そこからしか創意工夫や独創性は生まれてきません。

能力があるにもかかわらず、挑戦を恐れ、安全で安定な道にすぎている精神のテニスには、困難を乗り越える力が備わりません。いつかラケットを置いたときに、就職したときに残るのは、テニスの技術や記録だけではなく、未知を乗り越えてきた精神力であってほしいのです。

私はその一環として、アメリカの大学との対抗戦、韓国体育大学との交流合宿を行なってきました。1月のオーストラリアン・オープン観戦では「これが本物」と感じることができます。そして、いまは春に男女の国際テニス大会（1万5千ドル）を学内で開催しています。学生主体のこの大会は、まさに選手しか経験のない学生たちに、テニスへの取り組み方から、技術、体力、精神力、戦術、歴史、経済、経営、哲学にいたるすべてを、外国選手やスポンサー、観客など、テニスにかかわる人々から学ばせてもらっています。国際大会は最高のコーチングになっているのです。

初めは国際大会レベルのパワーやスピードや意識の違いに弾き飛ばされていたものの、徐々にそれに近づくための行動が起こってきました。「機会」が学生を育てていることを実感します。国際大会という環境は学生に大学テニスに明け暮れる＝守りの伝統を、攻める「機会」へと発展させていることは間違いありません。

私は亜細亜大学に奉職して34年になりますが、冒頭の理想には残念ながらもまだまだ到達しません。それでも、これまで理想に向かっていっしょに闘った多くの学生たちや卒業生には感謝しています。永遠にチームは完成できないかもしれませんが、しかし、向上に悩める学生に出会ったときには、自分の未来を信じて戦う意思がある学生と出会ったときには、いっしょに青春時代を闘いたい。私は自らの可能性を信じる本気の選手を歓迎します。

テニスは18歳までには決して完成しません。自らの可能性を信じて未来に向かって挑戦する本気の選手を歓迎します。

堀内昌一

（亜細亜大学教授 / テニス部監督）



日の出キャンパス 紹介

ここがテニス部のホームです!

最寄り駅はJR五日市線「武蔵引田」駅です。ここにはテニスコートをはじめ、野球場、サッカー場、陸上トラックなど、スポーツ関係の研究施設があります。屋外競技のクラブは主にここで練習をします。



テニスコート

ハードコート8面と砂入り人工芝コート2面の合計10面のテニスコートがあります。面数が多いので、少人数で効率よく、充実した練習ができます(全面ナイター完備)。



トレーニングセンター

機材が整っており、学生はいつでも自由に利用することができます。夜遅くまで筋トレをしている学生もいます。トレーニングルームに隣接して鏡張りの大きな部屋があり、雨の日でもラダーなどのフィールドトレーニングを室内で行なうことができます。

クラブハウス

2010年に完成しました。男子部室、女子部室、監督・コーチ室のほか、ユーティリティがあります。ユーティリティでは、全体ミーティングを行なうほか、テレビやスライドを使って映像の確認や勉強会を行ないます。

日の出 キャンパス 案内図



セミナーハウス(宿泊施設)

テニス部は、12月の年末合宿、2、3月の強化合宿、国際大会開催期間などに利用します。また、他校の学生が練習に訪れているときに宿泊することも多くあります。施設内には大広間もあり、ミーティングや講義が行なわれます。

※学生2000円、ビジター3000円(朝夕食付)

アクセス

武蔵引田駅まで
 ・「新宿駅」から約90分、「東京駅」から約100分(JR中央線、青梅線、五日市線利用)
 ・「大宮駅」から約120分(JR埼京線、川越線、八高線、五日市線利用)
 武蔵引田駅から日の出キャンパス「亜細亜大学セミナーハウス」まで
 ・武蔵引田駅の改札口は北口1ヵ所、下車後、踏切まで戻り、北(左)に向かって徒歩7分

所在地

〒190-0182東京都西多摩郡日の出町平井1449-1 TEL042-597-0714



私 達、亜細亜大学硬式庭球部は男女共に毎年10月に行われる全日本大学対抗王座決定試合（王座）で優勝することを目標に日々活動しています。昨年は新型コロナウイルスの影響で関東大学対抗テニス選手権大会（リーグ戦）を始めに、全日本大学対抗王座決定試合（王座）も開催が出来ずに終わってしまいました。緊急事態宣言の影響で外に出歩けない時期があったり、生活様式が変わってしまったり数々の大会が無くなってしまったりと皆が慣れない中での日々が続いたと思います。ですが、様々な事が制限されていた中でこの自粛期間を皆がポジティブに捉え、自分を見つめ直すきっかけや時間を作れたのではないかと私は思います。今まで当たり前であった毎日が当たり前ではない事に気付かされた期間であり、改めて仲間の大切さやいつでも自分達を受け入れてくれる家族の温かさに気づく事が出来たと思います。初心に戻るきっかけとなり今こうしてテニスが出来ていること、自分達の為にサポートをして下さっている人達が沢山いらっしゃる事を痛感したと思います。人への優しさや温かさ、感謝の気持ちを常に持つことは競技力向上へと繋がりがあると感じる事ができたとても貴重な時間であったのではないかと私は思います。今年度は先輩達が死ぬ気で勝ち取った1部リーグ4位という位置からのスタートとなりますが、私は必ず王座優勝を成し遂げられると信じています。その理由としては、このような状況下の中でも常に変化を求めようとしている学生が増えてきていて、着実に力をつけている学生が多く在籍しているからです。また、亜細亜大学にはハードコート8面、オムニコート2面計10面のテニスコート、トレーニングセンター、400mトラックという好環境と堀内昌一監督をはじめ森稔詞コーチ、長久保大樹コーチ、高橋準コーチが指導に当たって下さりとても充実した練習を実現することが出来ているからです。それに加えて今泉智仁トレーナー、鈴

木歩トレーナーが試合期間には帯同して下さり、毎日治療や身体についてのご指導頂き、様々な面から競技力向上に努めています。コーチングの面で充実はしていますが亜細亜大学のモットーとして、常に答えを与えられる存在になるのではなく、自らが考えて行動し常に感謝の気持ちを忘れずに誠実な人柄になれるような人間を育てることにあります。なので、私を含めた4年生が中心となって練習メニューからトレーニングメニューや今部員に何が必要か、などを毎日試行錯誤して助け合いながら取り組んでいます。意見がすれ違うことや価値観の違いも出てくることはありますが、その時間とプロセスが自分自身を1番成長させてくれるものだと思います。テニスはコートに立つと1人で、常に自分で考えて自分で判断して自分で決断するスポーツだと思います。このような自分で考えるといった自主性を重んじた環境で過ごしていることは人生の糧となると思いますしテニス以外の面でも絶対に役に立つと思っています。それを学べる亜細亜大学は最高だと思います。また、毎年3月にはプロテニスプレイヤーの登竜門といえる国際大会を男女共に開催をしています。昨年度はこの国際大会も新型コロナウイルスの影響で残念ながら開催することは出来ませんでした。ですが、私達はこの大会での「機会」を大切にしています。大会を学生自ら資金を集めたり、様々なイベントを行って盛り上げたりして運営をできている機会もそうですが、実際に大会に出場して自らを強くする機会や国内や国外からレベルの高い選手が集まって来てくれるといった機会など様々です。このような数々の機会を学生自ら拾い上げて自分のレベルアップに繋げていくのがこの国際大会であります。亜細亜大学では、テニスを通して人間性や社会性や自分磨きができる環境が整っており、一緒に切磋琢磨し合える仲間もいます。気軽に亜細亜大学硬式庭球部に体験に来てみてください。是非私達と本気で高みを目指しましょう。



最高の仲間とともに
日本で1番熱い
4年間にしましょう!

濱口 昌孝

(亜細亜大学硬式庭球部主将/4年)

はまぐち・まさたか◎1999年11月15日生まれ。大阪府出身。清風高校卒。17年全日本ジュニアテニス選手権ベスト16。2020年度関東学生テニストーナメント大会単ベスト16。2020年度全日本学生テニス選手権大会単ベスト16。2020年度全日本学生室内テニス選手権大会単ベスト8。

入学案内

スポーツ・文化活動入試のご案内 (2022年度)

亜細亜大学のスポーツ・文化活動入試は「経営学部経営学科」「経済学部経済学科」「法学部法律学科」「国際関係学部国際関係学科」「国際関係学部多文化コミュニケーション学科」「都市創造学部都市創造学科」の5学部6学科があります。

テニス部は2022年の今年は、上記の5学部6学科より選択してもらえることとなっております。テニス

部には「経営学部」「経済学部」「法学部」「国際関係学部」「都市創造学部都市創造学科」の学生が在籍しています。

私たちの中には、スポーツ・文化活動入試だけでなく一般入試やAO入試、指定校推薦や公募推薦などで入部した学生もいます。みんなテニスが大好きな学生ばかりです。部員一同、みなさんの入部をお待ちしています。

亜細亜大学が求める学生像
募集するスポーツの技能に優れた将来性のある者

スポーツ・文化活動入試の詳細は亜細亜大学HPにてご確認ください



亜細亜大学

〒180-8629 東京都武蔵野市境5丁目8番
入試・広報センター TEL.0422-36-3273

<https://www.asia-u.ac.jp/admissions/sports/>
e-mail:nyushi@asia-u.ac.jp



2004年度卒業の北崎悦子です。私の高校時代の最高戦績は、全国大会ベスト8でした。高校卒業時には、同期のトップレベルの選手たちがプロの世界にチャレンジしていく姿を見て、私は「大学テニスで強くなってプロになりたい」という目標を持って、亜細亜大学に進学しました。

入学当初から、私はすでに大学テニスのトップレベルで活躍されていた先輩方とともに、学生大会のみならず、JOP大会や国際大会を転戦することによって、実戦経験を積み上げる機会に恵まれました。そこでは、常に高いレベルの技術や戦術、精神力を求められたため、私は堀内監督やコーチから熱心にご指導いただき、時に挫けそうになりながらも、その技術や戦術を必死に習得しようとチャレンジし続けました。

このような亜細亜大学での4年間の取り組みを通して、私はプロとしてテニスに向き合う姿勢や考え方を学ぶことができたと思っています。それは、大学テニスで強くなるために、①自分のプレーを分析して課題を見つけ出し、②年間の出場試合を考慮しながら課題に取り組む計画を立てて実行し、③その課題がどの程度改善できたかについて自己評価す

るという思考を繰り返すことでした。この考え方は、テニスに取り組むためだけに必要なことではなく、卒業後の人生においても仕事や日常生活で起こるさまざまな問題を解決するときに役立つと思います。

現役引退後、私は亜細亜大学での学びと8年間のプロ活動の経験を大学生に伝えていきたいと思い、指導者になる道を選択しました。そして現在、私はトップ選手の指導に関する事例について、指導者がどのような点に着目して選手を指導したのかという指導の観点を明らかにする研究を行い、そこから得た知見を踏まえて実践の現場で指導しています。また今年度4月から、大学の専任教員としてのスタートを切ったばかりなので、学生にテニスの楽しさや奥深さを感じてもらうための練習方法や計画についても日々試行錯誤しています。

皆さんも4年間の学生生活を通して、常に明確な目標に向かって、成功や失敗を繰り返しながらも怯むことなく、前向きにチャレンジし続けてください。そして、さまざまな出会いを大切に、その自分のチャレンジを楽しむ気持ちも忘れないでください。その経験はきっと、皆さんにとってかけがえのない貴重な財産になると思います！



亜細亜大学テニス部での 学びと経験を振り返って。

北崎悦子

(学習院大学 スポーツ・健康科学センター 准教授)

きたざき・えつこ◎1982年10月14日生まれ。東京都出身。東海大学付属浦安高校卒。98年全国高等学校総合体育大会 単ベスト16。99年国民体育大会(千葉県代表)少年女子 第8位。2000年全国日本ジュニア選手権18歳以下 単ベスト8。2001年亜細亜大学に入学。2001年全国日本学生テニス選手権 単ベスト4。2001年全国日本学生室内テニス選手権 単 準優勝。2002年全国日本学生選手権 混合複ベスト4。2003年全国日本学生室内テニス選手権 複優勝。2005年に卒業後にプロ転向し2007年広島国際テニストーナメントで国際大会のシングルス初優勝。WTA最高ランキングは単514位、複419位。JOP最高ランキングは単28位、複29位。2013年に現役を引退し、筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程(体育学)、3年制博士課程(コーチング学)を経て、2020年4月から現職。日本スポーツ協会公認コーチ、ユニバーシアード女子コーチ。

1 995年卒業の宮地弘太郎です。私の同期には、昨年引退した本村剛一プロと2つ下に岩淵聡プロがおり、柳川高校時代から良きライバルでした。彼らはプロの道を選択し、私は大学進学を選択。亜細亜大学入学当初から、「大学テニスに留まらない競技生活を送る」ことをテーマに4年間を過ごしました。

なぜ亜細亜大学に進学したのか——亜大には日本のトップジュニアが多数在籍しており、大学を経由して世界を目指す集団、大学からプロを目指すというイメージが定着していたことに加え、大学テニスのパイオニアでもある堀内先生の「大学はさらなる飛躍に挑戦する場所であり、大学からグランドスラムに挑戦する」という考えに共感したからです。

卒業後、さまざまな企業のサポートを受け、約8年間プロテニス選手として、ATPランキング100位を目指し、世界を転戦しましたが、目標に到達することはできませんでした。

その後、28歳で現役を引退し、指導者の道へ進むことを決意しました。そこでの主たる研究テーマは、硬式テニス（球技/対人/ネットラケット型）のゲーム分析（エリート選手、大学生選手の技術や戦術の様相）や、競技特性に応じた体力組成の分析により効果的な指導方法論を導き出し、大学生選手の技術に関しては縦断的研究を行ない、ドリルの効果も検討していくことを目指しました。

選手から研究者へという転身は、テニス選手では珍しく、テニス漬けで過ごした私とその道に進むことに周りは驚いて

いましたが、当の本人は、これから新たな人生に向けて30歳手前ながら、胸ときめいていました。私の強みは、実体験で得た知見や、経験で培った実技ですが、現在大学テニスを指導する上でのテーマは、主観的コーチング+客観的コーチングです。テニスは日々進化し、トレーニング方法も年々変容してきています。現場+研究からの知見を学生にフィードバックし、大学生からでも世界を目指す環境整備や、大学テニスの醍醐味を学生に伝えていくことが私の使命ではないかと考えています。

近年、残念なことは高校生プレーヤー、大学生プレーヤーに夢がないことです。大学進学のための「テニス」ではなく、夢の実現のための『テニス』でしょう。私の夢は“日本のテニスを自分が変える！”ことでした。日本のテニスを変える＝大学出身者がグランドスラムに出場すること。そのためには、大学や国内一般の試合だけに留まらず、海外へトライし、さまざまなプレーヤーと対戦し、自分のスタイルを確立することです。いま日本のテニスは世界と拮抗しています。錦織圭選手、添田豪選手、伊藤竜馬選手と世界のトップ選手＝「テニスで飯が食える」時代に突入してきました。これは、先を見据えたJTAの強化活動の成果だと思います。私はいまこそ、大学テニスプレーヤーがそこに食い込んでいく絶好のタイミングと考えています。

亜細亜大学時代に培われたもの——「考える」ことが「人間を成長させる」ことに繋がり、上達に「近道」はなく、強くなるには「人と違うこと」を「人の倍努力する」ということを学びました。高校生のみなさん、大学生活はあっという間です。「夢」を持って「夢」の実現に向けて精進してください。

学生時代の私の夢は“日本のテニスを変える!”ことでした。いまは大学出身者がグランドスラムに出場する——その夢をもって指導しています。

宮地弘太郎

(大阪体育大学専任教授/テニス部監督)

みやちこうたろう◎1974年2月18日生まれ。広島県出身。柳川高校卒。91年インターハイ団体準優勝、単ベスト8、複ベスト4。92年亜細亜大学に入学。93、95年インカレ優勝。94年全日本準優勝。95年ユニバーシアード銅メダル獲得(27年ぶり)。卒業後プロ転向し、ジャパンオープンベスト16。99年全豪予選決勝敗退。元デ杯日本代表。ATP最高位は303位(98年7月)、JOP3位。03年に現役を引退し、日本体育大学大学院を経て、07年4月から現職。ユニバーシアード男子監督。S級エリートコーチ



CONTENTS

大学案内

- 02 武蔵野キャンパス 04 日の出キャンパス 06 令和3年度入学案内

PART 1 部活動紹介

- 03 挨拶～堀内昌一(亜細亜大学教授 / テニス部監督)
12 部活の素晴らしさ、信念
14 テニス部主要Topics[年表]
19 2019年度リーグ戦結果 20 過去(1988～)の主な戦績
24 亜細亜の部活 入学前から卒業までの流れ
26 1年間の流れ
28 我々は本物のテニスを追求する。
29 挨拶～森稔詞(亜細亜大学テニス部コーチ)

PART 2 チーム紹介

- 05 挨拶～濱口昌孝(4年/男子主将)
30 大島正克学長挨拶 31 宇田川裕部長、金子国彦部長挨拶
32 指導スタッフ紹介 34 男女部員名簿 39 練習風景
40 寮生の1日/中島美夢(3年)・自宅生の1日/目黒志和(4年)
41 寮とは
42 「部員からひと言」高校生のみんなへ
44 文武両道 ～学生は部活と授業の両立を目指す。
学部紹介 46 法学部 中川杏子(2年)の場合
47 経済学部 安井愛乃(3年)の場合
48 国際関係学部 吉川ひかる(2年)の場合
49 経営学部 ホスピタリティ・マネジメント学科
50 経営学部 経営学科 芳谷仁(2年)の場合
51 都市創造学部 李光輝(2年)の場合
52 大学に入って、こんなに変わりました!
濱口昌孝(4年)/山崎郁美(2年)/古藤嵩大(4年)/吉川ひかる(2年)

PART 3 卒業後の進路

- 07 挨拶～北崎悦子(亜細亜大学テニス部OB)
09 挨拶～宮地弘太郎(亜細亜大学テニス部OB)
54 大学から世界へ 亜細亜大学、メルボルンに行く。
「大学に行ったら世界に行けないなんて言わせない」 文◎吉松忠弘 記事提供◎テニスマガジン
56 プロ転向学生対談～熊坂拓哉・高見澤岳飛・堀内竜輔・松田美咲～
58 卒業生、それぞれの道 高田充/駒田政史//西岡靖雄/岡村麻千香/平良和巳/遠藤真理子
中村聡利/新谷啓/城間和人/加藤彰馬/福田弓乃/田中文彩
67 主な就職先～島亮太郎 橋本大貴/高橋玲奈/三上英知/平沼かおる/柴廣一/恒松拓未
69 就職ガイダンス～清水奎吾

PART 4 国際大会報告

- 70 私たちはこうやって大会を作りました
第1回亜細亜大学国際オープン2007『国際大会開催までの全記録』
74 2021国際大会状況報告
75 日の出に世界がやってきた。 文◎武田 薫 記事提供◎テニスマガジン
79 亜細亜大学主催 チャリティクリニックのお知らせ
81 参加者の声
83 亜細亜大学国際オープン2022大会告知

2021 亜細亜大学 テニス部

チームガイド
TEAM GUIDE



国際大会状況報告
REPORT

◎ここに掲載する記事、写真、および図版の無断転載を厳禁します。

STAFF

●Editorial supervisor
堀内昌一 Shoichi Horiuchi
森稔詞 Toshitsugu Mori

●Editor in chief
岡悠多(4年) Yuta Oka

●Editor
安井愛乃(3年) Aino Yasui
矢崎梓紗(3年) Azusa Yasaki
日野知紀(2年) Tomoki Hino
木下菜々花(2年) Nanaka Kinoshita

●Design / Printing
株式会社 文伸 Bunshin Corporation



Editor's MEMO

●2年生からアジパン作成を担当してきましたが、今年で最後になります。みんなで力を合わせて作りました。ぜひご覧ください。
(岡悠多/写真左上)

●今回2度目のアジパン作成に携わらせて頂きました。時間を掛け、アジパンメンバーと協力し合い良いアジパンを作り上げました。是非様々な方に見て頂きたいです。
(安井愛乃/写真右下)

●今回初めて少しだけですが、アジパン作成に携わらせて頂きました。たくさんの方に見て頂けると嬉しいです。
(矢崎梓紗/写真中央)

●今回初めてアジパンの作成に参加させて頂きました。手間隙かけて作ったので沢山の方に見て頂きたいです。
(日野知紀/写真右上)

●今回初めてアジパン作成に携わらせて頂きました。とても楽しく、やりがいのある作業でした。亜細亜大学テニス部の魅力がたくさん詰まっていますので、ぜひご覧ください。
(木下菜々花/写真左下)





大 学に勤めて33年になります。最近では教え子の結婚式に毎月のように招待されるような歳になりました。ひと回りもふた回りも大きくなった教え子の成長を見るたびに、ただ驚くばかりです。そこには同期たちも集まってくるから、その成長ぶりにも驚かされてしまいます。

あれほどやんちゃだった学生時代からは想像もできないくらい、社会でもまれ、成長した姿を見るにつけ、たった4年の間だったけれど、ともに過ごした時間のありがたさを感じています。同期や同僚たちが披露するエピソードを聞き、スナップ写真を見て、当時を想い出し、私はうなづくばかりです。

入学式に卒業式、そして結婚式と、繰り返される“集合写真”こそ、まさに“部活”の証。それぞれが真剣にテニスに取り組み、いっしょに戦ってきたからこそ迎えられる瞬間だと思います。その当時は、そんな未来を想像することもできなかったでしょうが、大人になり、みんなで再び顔を合わせたときに、“部活”のすばらしさを感じてくれていると私は確信しています。

“部活”は一見ややこしそうですが、実はとてもシンプルなものです。

私はいつも学生たちに「できるまでやれ」と指導しています。課題を与えると、すぐにできるヤツ、すぐにできないヤツ、まったくできないヤツに、できるまでやろうとしないヤツと、さまざまですが、いずれに対しても“部活”は容赦しません。ヒントは与えますが、答えは自分で見つけなければならないのです。私が答えをあげることはありません。答えを見つけるのは自分。見つけるまでにはおそらく相当な時間がかかります。でも、“待つこと”も私の仕事。そうしているうち、失敗してしまうこともしばしばありますが、それでもいいと思っています。失敗が教えてくれるものもある。それがまた、大きな財産となるからです。

コートにはコーチと部員がいますが、最終的

には、部員自身が課題を解決する力を身につけなければ意味がないと思っています。課題や目標を達成するために必要となるのは、自身の力であるとともに、重要なのは仲間の力。そのことに気づき、みんなで結束してこそ、乗り越えられるものがあることにも気づいてほしいのです。そのことに気づき、その力の大きさを知ったときに、喜びを分かち合える関係になります。ひとりでは到底できないことにも、みんなの力を合わせれば必ず近づくことができる、達成できる。私はそれが“部活”だと思います。

部活って、本当にすばらしい！ 高校生諸君、私たち亜細亜大学でいっしょに部活をやろう！

文◎堀内昌一

高校生諸君、私たち亜細亜大学でいっしょに部活をやろう
部活すばらしい！

亜細亜大学テニス部

過去33年間の
主要Topics

1987年(昭和62年)

- ・衛藤瀧吉学長就任(1987-95年)。一芸入試を導入。(写真①)
- ・堀内昌一が講師およびテニス部監督に就任。

1988年(昭和63年)

- ・男子7部リーグ優勝/6部リーグ昇格 ・女子5部リーグ3回戦敗退

1989年(平成元年)

- ・男子6部リーグ優勝/5部昇格 ・女子5部リーグ優勝/4部昇格
- ・亜大初となる全国タイトル。インカレ・インドアで山崎史子が単優勝。
- ・アメリカプログラム(AUAP/正規単位取得型の留学プログラム)開始。

1990年(平成2年)

- ・男子5部リーグ優勝/4部昇格 ・女子4部リーグ優勝/3部昇格
- ・男子初となる全国タイトル。インカレ単優勝・森稔詞、複優勝・岡田岳二/坂口雄二。
- ・国際関係学部国際関係学科開設。

1991年(平成3年)

- ・男子4部リーグ優勝/3部昇格 ・女子3部リーグ優勝/2部昇格
- ・日の出トレーニングセンター完成。
- ・海外のITFサーキットに岡田・森・高田の3名が参戦。約4ヶ月間、オーストラリア・アメリカ・韓国を回る。そこで亜大生初となるATPポイントを獲得(岡田3ポイント、森1ポイント)。
- ・第16回ユニバーシアード(イギリス)日本代表選手に森、伊東新、山崎、赤堀奈緒の4名が選ばれる。また堀内昌一監督も日本代表コーチに就任。

1992年(平成4年)

- ・男子3部リーグ優勝/2部昇格 ・女子2部リーグ優勝/1部昇格
- ・ITFサーキットに単身、宮地弘太郎が遠征(フィリピン)。ATP3ポイント獲得。
- ・女子初となるインカレ・タイトルを獲得。赤堀が単優勝。

93年、女子が大学王座初制覇



衛藤瀧吉学長



93年、UCLAへ。堀内監督の隣りの女性はヒート・サンプラス姉

1993年(平成5年)

- ・男子2部リーグ優勝/1部リーグ昇格
- ・女子1部リーグ初優勝/女子王座初優勝(写真②)
- ・全米遠征(93年~97年)で、強豪大学(USC/UCLA/スタンフォード大など)と対抗戦。(写真③)
- ・第17回ユニバーシアード(アメリカ)で赤堀が平木理化(青学)とのペアで銀メダル獲得。
- ・日本経済短期大学と亜細亜大学が統合、亜細亜大学短期大学部開設。

1994年(平成6年)

- ・男子1部リーグ初優勝/大学王座初優勝(写真④)
- ・女子1部リーグ優勝2連覇/大学王座3位
- ・関東1部リーグで初のアベック優勝。
- ・全日本選手権複で、佐藤博康/駒田政史が学生として33年ぶりに優勝。(写真⑤)

1995年(平成7年)

- ・男子1部リーグ優勝2連覇/大学王座2連覇
- ・女子1部リーグ優勝3連覇/大学王座3位
- ・関東1部リーグで2度目のアベック優勝。
- ・全日本選手権男子単で宮地が決勝進出。
- ・第18回ユニバーシアード(福岡)男子単で宮地が27年ぶりに銅メダルを獲得。
- ・ジャパンオープン男子単で宮地が3回戦進出(ベスト16)。

1996年(平成8年)

- ・男子1部リーグ優勝3連覇/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
- ・関東1部リーグで3度目のアベック優勝。

1997年(平成9年)

- ・男子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝5連覇/大学王座2度目の優勝
- ・関東1部リーグで4度目のアベック優勝。



94年、男子が初の大学王座日本一

・第19回ユニバーシアード(イタリア)女子複で岡本聖子が銅メダル獲得。

1998年(平成10年)

- ・男子1部リーグ優勝5連覇/大学王座4位
- ・女子1部リーグ優勝6連覇/大学王座2連覇達成(3度目の優勝)
- ・関東1部リーグ5度目のアベック優勝。
- ・コーチ帯同で3週間、岡本聖子がアメリカのITFサーキットに参戦。(写真⑥)

1999年(平成11年)

- ・男子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝7連覇/大学王座3位
- ・ITFサーキット(アメリカ/メキシコ)参戦。
- ・第20回ユニバーシアード(スペイン)の日本代表監督に堀内昌一が就任。

2000年(平成12年)

- ・男子1部リーグ6度目の優勝/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ8連覇/大学王座準優勝
- ・関東1部リーグは6度目のアベック優勝。

2001年(平成13年)

- ・男子1部リーグ準優勝/大学王座3位
- ・女子1部リーグ4位(関東リーグ9連覇ならず)

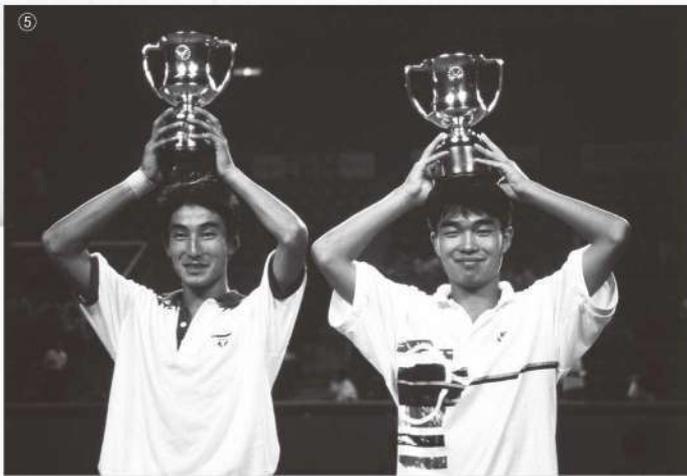
2002年(平成14年)

- ・男子1部リーグ3位
- ・女子1部リーグ9度目の優勝/大学王座3位
- ・テニス部専任コーチにOBの森稔詞就任。

2003年(平成15年)

- ・男子1部リーグ7度目の優勝/大学王座3位
- ・女子1部リーグ10度目の優勝(写真⑦)/大学王座4位
- ・関東1部リーグ7度目のアベック優勝。
- ・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦遠征を開始。以来、有志を募っての恒例行事に。

94年、全日本男子ダブルス制覇の佐藤博康/駒田政史



・韓国体育大学と合同合宿。韓国と日本を交互に遠征(03年~06年)

2004年(平成16年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留 ・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
- ・関東リーグで5位となった男子は、初の2部との入れ替え戦へ。勝利して1部残留が決定。
- ・デ杯日本代表チームのオーストラリア合宿に宮崎靖雄が参加。

2005年(平成17年)

- ・男子1部リーグ6位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
- ・関東リーグで6位の男子は2度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・デ杯日本代表チームのオーストラリア合宿に、男子は比嘉明人、女子は遠藤真理子と高橋令が参加。ボブ・ブレットコーチの指導を仰ぐ。

2006年(平成18年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留 ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・関東リーグで5位の男子は、3度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・オーストラリアン・オープン観戦遠征。
- ・コーチ帯同で3週間、オーストラリアのITFサーキットに参戦。

2007年(平成19年)

- ・男子1部リーグ4位 ・女子1部リーグ3位
- ・男子フューチャーズ「第1回亜細亜大学国際オープン」(1万ドル)を開催。篠川智大が本戦1回戦に勝利し、ATP1ポイントを獲得。
- ・国際大会開催にあたり、「チャリティーテニスクリック」を始める。収益のすべてを運営費に充て、年間20回を目標に開催。
- ・アメリカプログラム(AUAP)の参加学生数が1万人突破。
- ・ユニバーシアード(バンコク)の日本代表監督に森稔詞が就任。
- ・堀内昌一助教授が教授に昇格。
- ・テニス部強化に尽力を注いだ元学長、衛藤藩吉先生逝去。享年84才。

98年、インカレを制した岡本聖子



⑤

⑥



03年、10度目の関東リーグ優勝

2008年(平成20年)

- ・男子1部リーグ4位 ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・第2回男子フューチャーズ開催。
- ・スポーツケア・アローズと年間50日間の専属トレーナー契約を交わす。

2009年(平成21年)

- ・男子1部リーグ4位 ・女子1部リーグ6位/2部降格
- ・関東リーグで6位の女子は、初の2部との入れ替え戦へ。最後はエース宮本紗織が敗れて、2部降格へ。1989年に5部で優勝してから王座優勝、その後は常勝し、1部を死守してきたが、ついに力尽きる。
- ・第3回男子フューチャーズ開催。

2010年(平成22年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留 ・女子2部リーグ優勝/1部昇格
- ・関東リーグで6位の男子は、4度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・関東リーグ2部で優勝の女子は、1部との入れ替え戦で日本大学に勝利し、1部復帰。
- ・全日本選手権・混合複で篠川智大(ノ瀬間詠里花プロ)が初優勝。
- ・第4回男子フューチャーズ開催。
- ・森コーチ帯同で、ポルトガルのITF女子サーキットに3週間遠征。メンバーは宮本紗織・荒木史織・山本翔子。
- ・新しい部室が完成。

2011年(平成23年)

- ・男子1部リーグ6位/1部残留 ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・関東リーグ6位の男子は、5度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・全日本選手権・混合複で篠川智大(ノ田中真梨プロ)が2連覇。
- ・第5回男子フューチャーズ開催も、予選サイン当日に東日本大震災が起きる。予選を消化するも、ITF、JTA、春のフューチャーズシリーズ大会ディレクターらと協議の結果、大会中止を決定。
- ・亜細亜大学建学70周年。
- ・テニス部創部50周年。

明治との入替戦勝利後1部残留



- ・部室前に駐車場が完成。

2012年(平成24年)

- ・男子と並び、女子サーキット「第1回亜細亜大学国際女子オープン」(1万ドル)を開催。伊波佳苗が単ベスト8進出。
- ・第6回男子フューチャーズ開催。
- ・男子1部リーグ6位/1部残留 ・女子1部リーグ4位
- ・関東リーグ6位の男子は、6度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・亜細亜大学文部科学省「グローバル人材育成推進事業」採択

2013年(平成25年)

- ・男子1部リーグ5位/2部降格 ・女子1部リーグ4位
- ・関東リーグ5位の男子は7度目の2部との入れ替え戦へ。敗北し、1994年から続いた1部から降格する。
- ・亜細亜大学新5号館完成
- ・第7回男子フューチャーズ開催。
- ・第2回亜細亜大学国際女子オープン開催。山本翔子が単ベスト8進出。

2014年(平成26年)

- ・第8回フューチャーズ開催。
- ・第3回亜細亜大学国際女子オープン開催。
- ・1年生の田中亮寛がインカレ単ベスト8
- ・男子2部リーグ2位で1部リーグとの入れ替え戦へ。惜しくも敗北し2部残留。/女子1部リーグ5位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。

2015年(平成27年)

- ・第9回フューチャーズ開催。主将の仲村元希が1回戦勝利し、初のATPポイント獲得。
- ・第4回亜細亜大学国際女子オープン開催。
- ・軽井沢フューチャーズで田中亮寛が初のATP獲得。単ベスト8
- ・亜細亜大学の食堂、アジアプラザ完成。
- ・男子2部リーグ1位で1部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部昇格。(写真⑨)/女子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留(写真⑧)。

日大との入替戦勝利後1部復帰昇格





第6回亜細亜大学国際女子オープン ダブルス表彰式

2016年(平成28年)

- ・亜細亜大学建学75周年。
- ・関東学生新進テニス選手権大会において、山藤彩香が単優勝、田中文彩がベスト4、大塚陽平/伊藤陸組がベスト8になる。
- ・田中文彩、高橋玲奈が堀内監督引率の元、中国ITFに3週間参戦。
- ・第10回フューチャーズ開催。加藤彰馬が1回戦勝利、初のATPポイントを獲得。
- ・第5回亜細亜大学国際女子オープン開催。高橋玲奈が1回戦を勝利し、WTAポイント獲得(通算7ポイント目)。また、本戦WCで出場した楚南美波/中沢夏帆組がベスト4進出。山藤彩香/田中文彩組(WC)、高橋玲奈/南文乃組(WC)もベスト8進出。
- ・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
- ・女子1部リーグ4位で1部残留。

2017年(平成29年)

- ・関東学生新進テニス選手権大会において、男子複橋本大貴/恒松拓未組が準優勝になる。
- ・田中文彩、松田美咲が堀内監督引率の元、中国ITFに2週間参戦。
- ・加藤彰馬が宮崎靖雄コーチ引率の元、インドネシアITFに2週間参戦。ITFからの通達により、今回、男女大会ともに\$10,000から\$15,000へ賞金額増額され開催。
- ・第11回フューチャーズ開催。
- ・第6回亜細亜大学国際女子オープン開催(写真⑩)。
- ・関東学生テニス選手権大会にて、女子単で1年生の松田美咲が初優勝。
- ・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
- ・女子1部リーグ4位で1部残留。

2018年(平成30年)

- ・加藤彰馬がHong Kong futuresに1週間参戦。
- ・関東学生新進テニス選手権において、男子複加藤彰馬/吉田慎組が優勝、女子複中沢夏帆/大西沙依組が準優勝になる。
- ・第12回フューチャーズ開催。熊坂拓哉が1回戦勝利、初のATPポイント獲得。また、加藤彰馬/吉田慎組(WC)ベスト8進出。
- ・第7回亜細亜大学国際女子オープン開催。中沢夏帆が1回戦勝利、WTAポイント獲得。また、高橋玲奈/中沢夏帆組(WC)がベスト8進出。
- ・平成30年度関東学生テニス選手権大会にて、女子単で4年生の高橋玲奈がベスト4、2年生の松田美咲/朝倉菜月ペアが準優勝。
- ・松田美咲が関東オープンテニス選手権大会単優勝。
- ・全日本学生テニス選手権大会にて、女子単で4年生の中沢夏帆がベスト4、2年生の松田美咲が準優勝、女子複で4年生の高橋玲奈/中沢夏

帆が準優勝。

- ・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
- ・女子1部リーグ準優勝で大学王座へ。
- ・大学王座にて決勝戦で早稲田大学に敗れ準優勝。
- ・全日本テニス選手権にて、女子単で2年生の松田美咲がベスト4、女子複で4年生の高橋玲奈/中沢夏帆がベスト8。
- ・熊坂拓哉、高見澤岳飛がThailand F8 futuresに1週間参戦。
- ・松田美咲がW 15 Nonthaburiにて準優勝。
- ・全日本学生室内テニス選手権大会にて、男子単で3年生の加藤彰馬がベスト8、男子複で3年生の加藤彰馬(/橋川泰典(日本大学))がベスト8。女子単で2年生の松田美咲が準優勝、女子複で4年生の高橋玲奈/中沢夏帆が優勝、2年生の松田美咲/朝倉菜月がベスト8。

2019年(平成31年)

- ・熊坂拓哉、高見澤岳飛、松田美咲がトルコITFに2週間参戦。
- ・関東学生新進テニス選手権大会にて、男子複岡庸輔/工藤颯人がベスト8。
- ・第13回亜細亜大学国際オープンテニス開催。
- ・第8回亜細亜大学国際女子オープン開催。また、南文乃/朝倉菜月組(WC)がベスト8進出。
- ・2019年度関東学生テニス選手権大会にて男子単工藤颯人がベスト4。女子複で南文乃/中島美夢が準優勝、松田美咲/朝倉菜月がベスト4。
- ・W15 Gimcheonにて、松田美咲が準優勝。
- ・2019年度関東学生テニス選手権大会にて、男子単高見澤岳飛が準優勝、男子複加藤彰馬/高見澤岳飛が準優勝。女子複南文乃/朝倉菜月が準優勝。
- ・男子1部リーグ4位で1部残留。
- ・女子1部リーグ5位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
- ・熊坂拓哉、高見澤岳飛がM 15 Changwonに1週間参戦。
- ・W2 Toowoombaにて女子複松田美咲/荒川晴菜(青山スポーツ)が準優勝。
- ・全日本テニス選手権にて女子複で松田美咲/松本安莉(山梨学院大学)がベスト8、伊藤さつき/中島美夢がベスト16。
- ・2019年度全日本学生室内テニス選手権大会にて、女子単松田美咲が優勝。

2020年(令和2年)

- ・2019年度関東学生新進テニス選手権大会にて、男子複堀内竜輔/熊坂拓哉が準優勝。女子単伊藤さつきが優勝。



2020年度インカレ終了後

2021年(令和3年)

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い亜細亜大学国際オープンテニス2020が中止となる。
- ・2020年度関東学生テニストーナメント大会にて、男子単熊坂拓哉が準優勝、高見澤岳飛がベスト8。男子複熊坂拓哉/堀内竜輔組が優勝、権藤卓巳/古藤嵩大組がベスト8。女子単山崎郁美が準優勝、中島美夢がベスト8。女子複伊藤さつき/中島美夢組がベスト4、山崎郁美/吉川ひかる組がベスト4。
- ・2020年度全日本学生テニス選手権大会にて、男子単高見澤岳飛、濱口昌孝がベスト16。男子複熊坂拓哉/堀内竜輔組がベスト16。女子単山崎郁美がベスト4、松田美咲がベスト8。女子複伊藤さつき/中島美夢組がベスト16(写真⑪)。
- ・2020年度全日本学生室内テニス選手権大会にて、男子単熊坂拓哉がベスト4。高見澤岳飛、濱口昌孝がベスト8。女子単松田美咲が2連覇を果たす(写真⑫)。山崎郁美がベスト4。

インカレインドア2連覇の松田美咲



2019年度 関東大学テニスリーグ1部(男子)対戦表

	早稲田大学	慶応義塾大学	法政大学	亜細亜大学	明治大学	中央大学	勝ち点	勝ポイント	失セット	順位
早稲田大学		D 2-1 S 5-1 計7-2 ○	D 3-0 S 3-3 計6-3 ○	D 2-1 S 5-1 計7-2 ○	D 3-0 S 6-0 計9-0 ○	D 2-1 S 6-0 計8-1 ○	5勝	37勝8敗	22	1
慶応義塾大学	D 1-2 S 1-5 計2-7 ●		D 1-2 S 4-2 計5-4 ○	D 1-2 S 5-1 計6-3 ○	D 2-1 S 3-3 計5-4 ○	D 2-1 S 5-1 計7-2 ○	4勝	25勝20敗	49	2
法政大学	D 0-3 S 3-3 計3-6 ●	D 2-1 S 2-4 計4-5 ●		D 3-0 S 4-2 計7-2 ○	D 3-0 S 5-1 計8-1 ○	D 3-0 S 4-2 計7-2 ○	3勝	29勝16敗	41	3
亜細亜大学	D 1-2 S 1-5 計2-7 ●	D 2-1 S 1-5 計3-6 ●	D 0-3 S 2-4 計2-7 ●		D 2-1 S 4-2 計6-3 ○	D 1-2 S 4-2 計5-4 ○	2勝	18勝27敗	51	4
明治大学	D 0-3 S 0-6 計0-9 ●	D 1-2 S 3-3 計4-5 ●	D 0-3 S 1-5 計1-8 ●	D 1-2 S 2-4 計3-6 ●		D 1-2 S 2-4 計3-6 ●	0勝	11勝34敗	73	6
中央大学	D 1-2 S 0-6 計1-8 ●	D 1-2 S 1-5 計2-7 ●	D 0-3 S 2-4 計2-7 ●	D 2-1 S 2-4 計4-5 ●	D 2-1 S 4-2 計6-3 ○		1勝	15勝30敗	62	5

2019年度 関東大学テニスリーグ1部(女子)対戦表

	筑波大学	慶応義塾大学	早稲田大学	明治大学	亜細亜大学	山梨学院大学	勝ち点	勝ポイント	失セット	順位
筑波大学		D 1-1 S 4-1 計5-2 ○	D 0-2 S 2-3 計2-5 ●	D 2-0 S 2-3 計4-3 ○	D 2-0 S 3-2 計5-2 ○	D 0-2 S 5-0 計5-2 ○	4勝	21勝14敗	36	1
慶応義塾大学	D 1-1 S 1-4 計2-5 ●		D 1-1 S 3-2 計4-3 ○	D 2-0 S 3-2 計5-2 ○	D 1-1 S 4-1 計5-2 ○	D 2-0 S 4-1 計6-1 ○	4勝	22勝13敗	30	2
早稲田大学	D 2-0 S 3-2 計5-2 ○	D 1-1 S 2-3 計3-4 ●		D 2-0 S 2-3 計4-3 ○	D 2-0 S 3-2 計5-2 ○	D 1-1 S 2-3 計3-4 ●	3勝	20勝15敗	36	3
明治大学	D 0-2 S 3-2 計3-4 ●	D 0-2 S 2-3 計2-5 ●	D 0-2 S 3-2 計3-4 ●		D 1-1 S 4-1 計5-2 ○	D 1-1 S 4-1 計5-2 ○	2勝	18勝17敗	38	4
亜細亜大学	D 0-2 S 2-3 計2-5 ●	D 1-1 S 1-4 計2-5 ●	D 0-2 S 2-3 計2-5 ●	D 1-1 S 1-4 計2-5 ●		D 1-1 S 3-2 計4-3 ○	1勝	12勝23敗	51	5
山梨学院大学	D 2-0 S 0-5 計2-5 ●	D 0-2 S 1-4 計1-6 ●	D 1-1 S 3-2 計4-3 ○	D 1-1 S 1-4 計2-5 ●	D 1-1 S 2-3 計3-4 ●		1勝	12勝23敗	45	6

亜細亜大学テニス部 過去(1988年~)の主な戦績

関東大学テニスリーグ&全日本大学対抗テニス王座決定試合

年度	関東大学リーグ		大学王座	
	男子	女子	男子	女子
1988年(昭和63年)	6部昇格	5部		
1989年(平成元年)	5部昇格	4部昇格		
1990年(平成2年)	4部昇格	3部昇格		
1991年(平成3年)	3部昇格	2部昇格		
1992年(平成4年)	2部昇格	1部昇格		
1993年(平成5年)	1部昇格	優勝		優勝
1994年(平成6年)	優勝	優勝	優勝	3位
1995年(平成7年)	優勝	優勝	優勝	3位
1996年(平成8年)	優勝	優勝	準優勝	準優勝
1997年(平成9年)	優勝	優勝	準優勝	優勝
1998年(平成10年)	優勝	優勝	4位	優勝
1999年(平成11年)	準優勝	優勝	準優勝	準優勝
2000年(平成12年)	優勝	優勝	準優勝	準優勝
2001年(平成13年)	準優勝	4位	3位	
2002年(平成14年)	3位	優勝		3位
2003年(平成15年)	優勝	優勝	3位	4位
2004年(平成16年)	5位	準優勝		4位
2005年(平成17年)	6位	準優勝		4位
2006年(平成18年)	5位	準優勝		準優勝
2007年(平成19年)	4位	3位		
2008年(平成20年)	4位	準優勝		準優勝
2009年(平成21年)	4位	2部降格		
2010年(平成22年)	5位	1部昇格		
2011年(平成23年)	6位	準優勝		準優勝
2012年(平成24年)	6位	4位		
2013年(平成25年)	2部降格	4位		
2014年(平成26年)	2部1位	1部5位		
2015年(平成27年)	1部昇格	1部6位		
2016年(平成28年)	1部6位	1部4位		
2017年(平成29年)	1部6位	1部4位		
2018年(平成30年)	1部6位	準優勝		準優勝
2019年(平成31年)	1部4位	1部5位		
2020年(令和2年)	新型コロナウイルス感染拡大の為中止			

全日本学生テニス選手権大会&全日本学生室内テニス選手権大会 出場人数

年度	インカレ				インカレ・インドア			
	男子出場人数		女子出場人数		男子出場人数		女子出場人数	
	S	D	S	D	S	D	S	D
1989年(平成元年)	3人	2組	1人		3人	1組	1人	
1990年(平成2年)	3人	2組	1人	1組	3人	2組	2人	2組
1991年(平成3年)	3人	4組	6人	4組	4人	4組	2人	2組
1992年(平成4年)	5人	4組	2人	4組	1人	1組	3人	4組
1993年(平成5年)	10人	5組	7人	3組	2人	3組	2人	2組
1994年(平成6年)	7人	5組	3人	2組	3人	1組	2人	2組
1995年(平成7年)	6人	3組	8人	3組	1人	1組	2人	1組
1996年(平成8年)	6人	2組	7人	3組	1人	1組	2人	1組
1997年(平成9年)	4人	3組	6人	1組	3人	1組	5人	1組
1998年(平成10年)	5人	2組	6人	4組			2人	2組
1999年(平成11年)	5人	4組	4人	2組	2人	2組	1人	1組
2000年(平成12年)	6人	4組	5人	3組	3人	1組	2人	
2001年(平成13年)	4人	1組	4人	2組	1人	1組	2人	2組
2002年(平成14年)	5人	3組	4人	2組	3人	1組	3人	2組
2003年(平成15年)	4人	2組	4人	2組	1人	1組	2人	1組
2004年(平成16年)	2人	4組	4人	4組	2人		1人	2組
2005年(平成17年)	3人	2組	7人	5組	1人			2組
2006年(平成18年)	5人	2組	7人	3組	1人		1人	2組
2007年(平成19年)	7人	1組	5人	3組	2人		2人	1組
2008年(平成20年)	5人	3組	6人	2組	3人	1組	1人	
2009年(平成21年)	6人	3組	5人	2組	2人	1組	1人	1組
2010年(平成22年)	6人	4組	6人	3組		1組	3人	1組
2011年(平成23年)	2人	1組	7人	4組		1組	2人	1組
2012年(平成24年)	3人		3人	1組		1組	2人	1組
2013年(平成25年)	2人		4人	2組				
2014年(平成26年)	2人	2組	1人	なし	2人	2組	1人	なし
2015年(平成27年)	2人	1組	4人	1組			4人	1組
2016年(平成28年)	1人	2組	3人	1組	1人	1組	1人	1組
2017年(平成29年)	1人	1組	4人	2組				
2018年(平成30年)	3人	1組	4人	4組	3人	1組	3人	2組
2019年(平成31年)	5人	1組	2人	2組	4人	1組	3人	2組
2020年(令和2年)	6人	3組	5人	2組	5人	2組	5人	2組



2019年度関東大学テニスリーグ最終戦後



平成30年度全日本大学対抗テニス王座決定試合F後



個人戦績

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア			
		S	D	S	D		
1989年 平成元年度	男子	坂口雄二	準優勝	ベスト16	本戦		
		森 稔詞	ベスト8	ベスト4	本戦	ベスト4	
		岡田岳二	ベスト16		ベスト8		
		高田 充		ベスト4		ベスト4	
1990年 平成2年度	男子	坂井和人		ベスト16			
		山崎史子	ベスト4		優勝		
		森 稔詞	優勝		ベスト4	ベスト8	
		岡田岳二	ベスト4	優勝	ベスト16	ベスト8	
1991年 平成3年度	男子	坂口雄二	ベスト8	優勝	ベスト16	ベスト8	
		高田 充				ベスト8	
		山崎史子	準優勝	準優勝	優勝	本戦	
		三輪陽子		準優勝		本戦	
		赤堀奈緒			ベスト8	準優勝	
		石田恵子				準優勝	
	女子	森 稔詞	優勝	優勝	ベスト4	ベスト4	
		伊東 新	準優勝	ベスト16	優勝	ベスト4	
		高田 充	ベスト16	ベスト4	ベスト16	準優勝	
		岡田岳二		優勝			
		駒田政史		ベスト4		準優勝	
		城間和人		ベスト4		ベスト8	
1992年 平成4年度	男子	須藤陽史		ベスト4		ベスト8	
		坂口雄二		ベスト16	ベスト8		
		佐藤博文				ベスト16	
		佐藤博康				ベスト16	
		赤堀奈緒	ベスト4	優勝	優勝	優勝	
		山崎史子	ベスト8	優勝	準優勝	優勝	
	女子	三輪陽子	ベスト32			ベスト4	
		釣 雅美	ベスト32				
		萱高奈穂	ベスト32				
		土方千代	ベスト32	ベスト16			
		北野由美		ベスト8			
		辻麻千香		ベスト8			
1993年 平成5年度	男子	斎藤裕子		ベスト16			
		井上朋子		ベスト16			
		浅見玲子		ベスト16			
		石田恵子				ベスト4	
		伊東 新	準優勝	ベスト16	ベスト8		
		宮地弘太郎	ベスト8				
	女子	佐藤博康	ベスト16	ベスト4		ベスト4	
		駒田政史	ベスト32				
		馬越浩也	ベスト32				
		鈴木 潤		準優勝			
		久田英登		準優勝			
		佐藤博文	ベスト4			ベスト4	
1994年 平成6年度	男子	城間和人		ベスト16			
		須藤陽史		ベスト16			
		紀 有二		ベスト16			
		赤堀奈緒	優勝	準優勝	優勝	優勝	
		石田恵子	ベスト4	準優勝	ベスト4	優勝	
		浅見玲子		ベスト4		ベスト4	
	女子	土方千代	ベスト4			ベスト4	
		三輪陽子	ベスト8	ベスト8		準優勝	
		石田友子	ベスト8		ベスト8	準優勝	
		廣津文子	ベスト8				
		萱高奈穂	ベスト8			ベスト8	
		釣 雅美				ベスト8	
1995年 平成7年度	男子	宮地弘太郎	優勝	ベスト16			
		竹下和史	ベスト8	優勝			
		馬越浩也	ベスト8	ベスト16			
		山下大介	ベスト16	優勝	2R		
		酒井俊亮	ベスト16	ベスト8			
		紀 有二	ベスト32		ベスト8		
	女子	橋本吉弘				優勝	
		越智 亘				優勝	
		横井佑未	ベスト4				
		吉田亜梨	ベスト8	ベスト4	2R		
		坂井美紗江	ベスト16				
		小沢 愛	ベスト16	ベスト16	ベスト4	優勝	
1996年 平成8年度	男子	中川 彩	ベスト16				
		石田玲奈	ベスト32	ベスト16		優勝	
		常盤 安	ベスト32	ベスト4			
		柴田孝子	ベスト32	ベスト16			
		高梨清乃		ベスト16			
		クワテイオ島根	ベスト8		本戦		
	女子	竹下和史	ベスト8	ベスト4			
		芳野 猛	ベスト16				
		越智 亘	ベスト32	ベスト16		準優勝	
		山下大介	ベスト32	ベスト4			
		橋本吉弘	ベスト32	ベスト16		準優勝	
		岡本聖子	準優勝	ベスト4	準優勝		
1997年 平成9年度	男子	横井佑未	ベスト4				
		常盤 安	ベスト8	優勝			
		中川 彩	ベスト16				
		吉田亜梨	ベスト32	ベスト4			
		小沢 愛	ベスト32	ベスト8	ベスト4	優勝	
		石田玲奈	ベスト32	ベスト8		優勝	
	女子	片倉 恵		優勝			
		竹下順二	ベスト16		本戦		
		クワテイオ島根	ベスト16				
		吉川真司	ベスト16				
		越智 亘	ベスト32	準優勝	本戦	ベスト4	
		橋本吉弘	準優勝	準優勝	本戦	ベスト4	
1998年 平成10年度	男子	芳野 猛		ベスト16			
		白田 学		ベスト16			
		鈴木広幸		ベスト16			
		堀口元比阿な		ベスト16			
		岡本聖子	準優勝		本戦		
		横井佑未	ベスト8		優勝		
	女子	田口景子	ベスト16	優勝	本戦	ベスト4	
		久保陽子	ベスト16		本戦		
		木根潤晶子	ベスト16		本戦		

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア		
		S	D	S	D	
1989年 平成元年度	女子	鈴木 潤		ベスト8		
		赤堀奈緒	準優勝			
		吉田亜梨	ベスト8	ベスト8	本戦	
		土方千代	ベスト16	ベスト16		本戦
1994年 平成6年度	男子	釣 雅美	ベスト16			本戦
		辻麻千香	ベスト32	ベスト16		本戦
		常盤 安	ベスト32	ベスト16	ベスト8	
		大竹山理映	ベスト32	ベスト8		
		浅見玲子		ベスト16		本戦
		伊東 新	優勝	ベスト4		
	女子	宮地弘太郎	準優勝	ベスト4		
		馬越浩也	ベスト4	ベスト8	ベスト8	
		土屋哲史	ベスト16	ベスト8	ベスト8	
		竹下和史	ベスト16	準優勝		
		酒井俊亮	ベスト32			
		佐藤博康	ベスト32	ベスト4		準優勝
1995年 平成7年度	男子	山下大介		準優勝	優勝	
		駒田政史				準優勝
		久田英登		ベスト16		
		杉田光徳		ベスト16		
		吉田亜梨	準優勝	準優勝	本戦	準優勝
		常盤 安	ベスト8	準優勝	2R	準優勝
	女子	土方千代	ベスト32	ベスト8		優勝
		石田玲奈		ベスト8		優勝
		宮地弘太郎	優勝	ベスト16		
		竹下和史	ベスト8	優勝		
		馬越浩也	ベスト8	ベスト16		
		山下大介	ベスト16	優勝	2R	
1996年 平成8年度	男子	酒井俊亮	ベスト16	ベスト8		
		紀 有二	ベスト32		ベスト8	
		橋本吉弘				優勝
		越智 亘				優勝
		横井佑未	ベスト4			
		吉田亜梨	ベスト8	ベスト4	2R	
	女子	坂井美紗江	ベスト16			
		小沢 愛	ベスト16	ベスト16	ベスト4	優勝
		中川 彩	ベスト16			
		石田玲奈	ベスト32	ベスト16		優勝
		常盤 安	ベスト32	ベスト4		
		柴田孝子	ベスト32	ベスト16		
1997年 平成9年度	男子	高梨清乃		ベスト16		
		クワテイオ島根	ベスト8		本戦	
		竹下和史	ベスト8	ベスト4		
		芳野 猛	ベスト16			
		越智 亘	ベスト32	ベスト16		準優勝
		山下大介	ベスト32	ベスト4		
	女子	橋本吉弘	ベスト32	ベスト16		準優勝
		岡本聖子	準優勝	ベスト4	準優勝	
		横井佑未	ベスト4			
		常盤 安	ベスト8	優勝		
		中川 彩	ベスト16			
		吉田亜梨	ベスト32	ベスト4		
1998年 平成10年度	男子	小沢 愛	ベスト32	ベスト8	ベスト4	優勝
		石田玲奈	ベスト32	ベスト8		優勝
		片倉 恵		優勝		
		竹下順二	ベスト16		本戦	
		クワテイオ島根	ベスト16			
		吉川真司	ベスト16			
	女子	越智 亘	ベスト32	準優勝	本戦	ベスト4
		橋本吉弘	準優勝	準優勝	本戦	ベスト4
		芳野 猛		ベスト16		
		白田 学		ベスト16		
		鈴木広幸		ベスト16		
		堀口元比阿な		ベスト16		
1999年 平成11年度	男子	岡本聖子	準優勝		本戦	
		横井佑未	ベスト8		優勝	
		田口景子	ベスト16	優勝	本戦	ベスト4
		久保陽子	ベスト16		本戦	
		木根潤晶子	ベスト16		本戦	

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア				
		S	D	S	D			
1998年 平成10年度	男子	片倉 恵	ベスト32	優勝	2R	ベスト4		
		吉川真司	ベスト16	ベスト16				
		竹下順二	ベスト16					
		鈴木道広	ベスト32					
		石浦純一	ベスト32	ベスト16				
		相原 玲	ベスト32					
		石神理貴		ベスト8				
		辻 雄馬		ベスト8				
		岡本聖子	優勝	優勝	ベスト8	優勝		
		木根潤晶子	ベスト4		ベスト4	ベスト4		
		横井佑未	ベスト16	ベスト16		優勝		
		田口景子	ベスト16	優勝	ベスト8			
		金井奈央子	ベスト16	ベスト8				
		片倉 恵	ベスト32	ベスト8				
		永井圭子		ベスト16				
1999年 平成11年度	男子	石浦純一	ベスト16	ベスト16		優勝		
		石神理貴	ベスト16	ベスト16	優勝			
		三好 勲	ベスト16		本戦			
		辻 雄馬	ベスト32	ベスト16		本戦		
		国吉智規	ベスト32					
		朴 潤九		ベスト16	2R	本戦		
		吉川真司		ベスト16	ベスト4	優勝		
		菊池 恒		ベスト16				
		宮下知朗		ベスト16				
		山下智史		ベスト16				
		岡本聖子				準優勝		
		田口景子	準優勝	準優勝	本戦	準優勝		
		金井奈央子	ベスト16					
		片倉 恵	ベスト32	準優勝				
		2000年 平成12年度	男子	石神理貴	ベスト4	ベスト8	2R	
吉川真司	ベスト4				準優勝	ベスト4		
三好 勲	ベスト16			ベスト32	2R			
大迫幸輝	ベスト32							
朴 潤九	ベスト32			ベスト8				
宮崎靖雄	ベスト32			ベスト8				
辻 雄馬				ベスト8				
後藤光弘				ベスト8				
石浦純一						ベスト4		
女子	田口景子			準優勝	優勝	ベスト4		
金井奈央子	ベスト16			優勝				
平田育子	ベスト16			2R				
水野衣里子	ベスト16			本戦				
五藤かおり	ベスト32			2R	本戦			
2001年 平成13年度	男子			宮崎靖雄	ベスト4	準優勝	ベスト8	本戦
		朴 潤九	ベスト8	準優勝		本戦		
		国吉智規	ベスト32					
		比嘉明人	ベスト32					
		女子	北崎悦子	ベスト4		準優勝	本戦	
		金井奈央子	ベスト16	ベスト4				
		平田育子	ベスト16	ベスト4	本戦	準優勝		
		水野衣里子	ベスト32	ベスト4				
		五藤かおり		ベスト4		準優勝		
		2002年 平成14年度	男子	宮崎靖雄	ベスト4	準優勝	優勝	準優勝
				比嘉明人	ベスト8		ベスト8	
				国吉智規	ベスト16	準優勝	準優勝	準優勝
				中川 亮	ベスト32	ベスト16		
				乾祥一郎	ベスト32	ベスト16		
				後藤光弘		ベスト16		
大山謙一				ベスト16				
女子	平田育子			準優勝	ベスト16	ベスト4	ベスト4	
北崎悦子	ベスト8			ベスト4	ベスト8	準優勝		
五藤かおり	ベスト16			ベスト16		ベスト4		
水野衣里子	ベスト16			ベスト4	ベスト8	準優勝		
2003年 平成15年度	男子			宮崎靖雄	準優勝	ベスト8		

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア				
		S	D	S	D			
2004年 平成16年度	男子	比嘉明人	ベスト8		ベスト8			
		中川 亮	ベスト32	ベスト8		本戦		
		乾祥一郎	ベスト32					
		後藤光弘		ベスト8				
		女子	大山謙一		ベスト8		本戦	
		水野衣里子	ベスト4	ベスト8	ベスト8	優勝		
		平田育子	ベスト8	ベスト32				
		北崎悦子	ベスト8	ベスト8	ベスト8	優勝		
		五藤かおり	ベスト16	ベスト32				
		2005年 平成17年度	男子	比嘉明人	ベスト16	ベスト16	ベスト8	
				乾祥一郎	ベスト16	ベスト16	ベスト8	
				大山謙一		ベスト16		
				平良和己		ベスト16		
				垣内崇寛		ベスト16		
				小松優介		ベスト16		
佐地竜介				ベスト32				
古城泰裕				ベスト32				
女子	北崎悦子			ベスト16	ベスト16	ベスト16	ベスト8	
津布久萌	ベスト16			ベスト32		ベスト4		
安田結子	ベスト32			ベスト32				
川崎光美	ベスト32			ベスト16				
上俣いづみ				ベスト16				
原由紀代				ベスト32		ベスト4		
森 美紀				ベスト16		ベスト8		
高橋 令		ベスト32						
2006年 平成18年度	男子	富田真吉	ベスト32		ベスト8			
		大塚真之助	2R					
		佐地竜介	本戦	ベスト16				
		古城泰裕		ベスト16				
		村居誠悟		ベスト32				
		新谷 啓		ベスト32				
		女子	森 美紀	ベスト16	優勝		ベスト4	
		原由紀代	ベスト32	ベスト16		ベスト8		
		川崎光美	ベスト32	本戦				
		津布久萌	2R	ベスト16		ベスト8		
		高橋 令	2R	ベスト16				
		宮崎優実	2R					
		坪奈津美	本戦	優勝		ベスト4		
		遠藤真理子		本戦				
		土屋奈夏		ベスト32				
角田良美		ベスト8						
2007年 平成19年度	男子	富田真吉	ベスト16		ベスト16			
		大塚真之助	ベスト32					
		牛田敦之	ベスト32					
		新谷 啓	2R	ベスト32				
		小出衛門	2R					
		佐地竜介		ベスト8				
		古城泰裕		ベスト8				
		高橋 令		ベスト32				
		女子	森 美紀	2R	ベスト16		ベスト4	
		津布久萌	ベスト32	ベスト16		準優勝		
		高橋 令	ベスト32	ベスト16				
		坪奈津美				ベスト4		
		土屋奈夏	ベスト16	ベスト16				
		角田良美	準優勝	ベスト8	ベスト16			
		宮崎優実	ベスト16	ベスト8				
木下ミサ		ベスト32		準優勝				
2008年 平成20年度	男子	大塚真之助	ベスト16		ベスト16			
		富田真吉	ベスト16	ベスト32	ベスト16			
		篠川智大	ベスト32					
		小出衛門	2R	ベスト32				
		牛田敦之	2R					
		古城泰裕	本戦					
		青木 翔	本戦					
		井上貴博		ベスト32				
		風早一樹		ベスト32				
		女子	宮崎優実	ベスト16	ベスト8	ベスト4		
		角田良美	ベスト16	ベスト8	ベスト16			
		木下ミサ	ベスト16	ベスト16				
		土屋奈夏	2R	ベスト16		準優勝		

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア		
		S	D	S	D	
2008年 平成20年度	男子	坪奈津美	本戦	ベスト16		準優勝
		井上貴博	ベスト8	ベスト8	ベスト16	ベスト4
		富田真吉	ベスト16			
		篠川智大	ベスト16	ベスト8	ベスト8	ベスト4
		牛田敦之	ベスト32	ベスト32	ベスト16	
		大原文平	2R			
	女子	土居諒大		ベスト32		
		高橋 隼		本戦		
		風早一樹		本戦		
		宮崎優実	ベスト4	ベスト8	準優勝	
		木下ミサ	ベスト16	ベスト16		
		角田良美	ベスト16	ベスト8		
2009年 平成21年度	男子	長谷川梨紗	2R	ベスト16		
		荒木史織	本戦			
		美濃越彩	本戦			
		井上貴博	ベスト8	ベスト8	ベスト16	ベスト8
		篠川智大	ベスト16	ベスト8	ベスト16	ベスト8
		牛田敦之	ベスト32	ベスト32		
	女子	河原 純	2R			
		土居諒大	2R	ベスト32		
		田村和也	2R	本戦		
		井原 力		本戦		
		木下ミサ	ベスト16	ベスト16	ベスト8	準優勝
		荒木史織	2R	ベスト16		準優勝
2010年 平成22年度	男子	美濃越彩	2R			
		長谷川梨紗	本戦			
		宮本紗織	本戦	ベスト32		
		下村恵那		ベスト32		
		井上貴博	ベスト16	ベスト8		ベスト8
		土居諒大	2R	ベスト4		
	女子	篠川智大	2R	ベスト4		ベスト8
		田村和也	2R	本戦		
		井原 力	2R	本戦		
		高橋良平	本戦			
		長久保大樹		本戦		
		風早一樹		ベスト8		
2011年 平成23年度	男子	岡部慎一郎		本戦		
		宮本紗織	ベスト16	ベスト32	ベスト16	
		山本翔子	ベスト16	ベスト32	ベスト16	
		鈴木直子	2R			
		荒木史織	2R	ベスト8		ベスト8
		伊波佳苗	2R	ベスト32	ベスト16	
	女子	長谷川梨紗	本戦	ベスト32		
		田村和也	ベスト32	ベスト32		ベスト8
		林 倫正	ベスト32			
		長久保大樹		ベスト32		ベスト8
		宮本紗織	ベスト8	ベスト16		
		長谷川梨紗	ベスト16	ベスト16		
2012年 平成24年度	男子	荒木史織	ベスト16	ベスト32		ベスト8
		伊波佳苗	ベスト32	ベスト16	ベスト16	
		山本翔子	ベスト32	ベスト16	ベスト16	
		鈴木直子	ベスト32	ベスト32		
		伊藤優花	2R			
		境 有紀		ベスト32		
	女子	高橋良平	2R			
		林 倫正	2R			
		仲村元希	2R			
		山本翔子	準優勝	準優勝	ベスト4	優勝
		伊波佳苗	ベスト16	準優勝	ベスト16	優勝
		伊藤優花	2R			
2013年 平成25年度	男子	白井卓也	本戦			
		仲村元希	ベスト32			
		山本翔子	ベスト8	ベスト4		
		伊波佳苗	ベスト32	ベスト4		
		伊藤優花	ベスト32	ベスト16		
		松本千広	2R	ベスト16		
	女子	小堀遼馬		ベスト32		
		仲村元希	本戦	ベスト32		
		田中亮寛	ベスト8	本戦	ベスト16	
		橋本大貴		本戦		

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア		
		S	D	S	D	
2015年 平成27年度	男子	松本千広	ベスト32		ベスト16	
		仲村元希		本戦		
		大塚陽平	本戦			
		田中亮寛	ベスト16			
		橋本大貴		本戦		
		松本千広	ベスト32	ベスト32	ベスト4	
	女子	山藤彩香	ベスト32			
		辻本有佳里	2R			
		田中文彩		ベスト32		
		高橋玲奈	ベスト8			
		橋本大貴		ベスト32		
		恒松拓未		ベスト32		
2016年 平成28年度	男子	加藤彰馬	2R	ベスト32		
		吉田 慎		ベスト32		
		山藤彩香		ベスト32		
		田中文彩	2R	ベスト32		
		高橋玲奈	ベスト32			
		中沢夏帆	本戦			
	女子	橋本大貴		本戦		
		恒松拓未		本戦		
		加藤彰馬	2R			
		田中文彩	ベスト32			
		高橋玲奈	ベスト32	ベスト32		
		中沢夏帆	2R	ベスト32		
2017年 平成29年度	男子	山口真琴	2R			
		楚南美波		ベスト32		
		朝倉菜月		ベスト32		
		加藤彰馬	ベスト16	ベスト32	ベスト8	ベスト8
		吉田 慎		ベスト32		
		高見澤岳飛	2R		ベスト32	
	女子	堀内竜輔	本戦			ベスト16
		熊坂拓哉				ベスト16
		高橋玲奈	ベスト32	準優勝	ベスト16	優勝
		中沢夏帆	ベスト4	準優勝	ベスト32	優勝
		山口真琴	本戦	ベスト16		
		楚南美波		ベスト16		
2018年 平成30年度	男子	大西沙依		ベスト32		
		南 文乃		ベスト32		
		朝倉菜月		ベスト16		ベスト8
		松田美咲	準優勝	ベスト16	準優勝	ベスト8
		加藤彰馬	ベスト16	ベスト32	ベスト32	ベスト8
		吉田 慎		ベスト32		
	女子	高見澤岳飛	ベスト32		ベスト32	ベスト8
		工藤颯人	ベスト32		ベスト32	
		熊坂拓哉	ベスト32		ベスト16	
		堀内竜輔	本戦			
		南 文乃		ベスト32		
		松田美咲	ベスト32	ベスト32	優勝	ベスト4
2019年 平成31年度	男子	朝倉菜月		ベスト32		ベスト4
		伊藤さつき	2R		ベスト16	ベスト8
		中島美夢		ベスト32	ベスト16	ベスト8
		熊坂拓哉	ベスト32	ベスト16	ベスト4	ベスト16
		高見澤岳飛	ベスト16		ベスト8	ベスト16
		清水奎吾	2R		ベスト32	
	女子	堀内竜輔	2R	ベスト16	ベスト32	ベスト16
		工藤颯人	2R			
		濱口昌孝	ベスト16		ベスト8	
		岡悠多		ベスト32		
		石井智也		ベスト32		
		権藤卓巳		本戦		ベスト16
2020年 令和2年度	男子	古藤嵩大		本戦		
		松田美咲	ベスト8		優勝	ベスト16
		朝倉菜月				ベスト16
		中島美夢	ベスト32	ベスト16	ベスト32	ベスト16
		伊藤さつき	ベスト32	ベスト16	ベスト32	ベスト16
		山崎郁美	ベスト4	ベスト32	ベスト4	
	女子	吉川ひかる	ベスト32	ベスト32	ベスト32	

亜細亜の部活

入学前から卒業までの流れ

入学前

高校3年 ⇒ 大学1年

大切な時間 大学入学前から部活は始まっている

12月

年末合宿(12月20日～27日)

練習内容

・学生は全国各地から延べ100名を超す参加者(高校生・中学生)とともに練習やトレーニングを行なう。後輩たちとともに行なうことにより、テニスの基礎を確認、時間をかけて徹底的に基礎を磨く。



ときにOB、OGやプロ(スペシャルゲスト)も参加。レクチャーを受ける高校生や部員たち

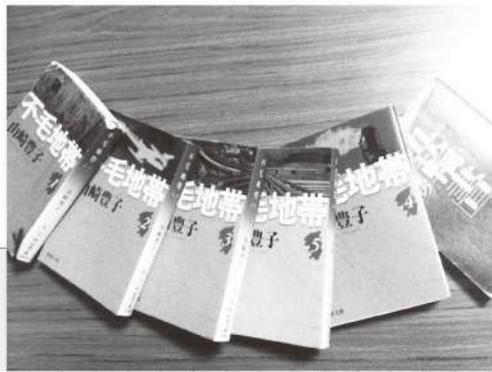
・その年にやり残した課題、自分の改善点を徹底的に克服する。
・特にサービスは改善の必要がある場合が多く、この時期にグリップをコンチネンタルにして、基本を学ぶ。



全員コンチネンタルグリップへ移行

オリエンテーション

・部員が作成したカレンダーに基づいて、翌年1年間のスケジュールを説明。
・4月からスタートする大学生活、特に授業に関する説明がある(4年間で必要な124単位に関して)。1年生での単位数取得の方法とその重要性などのレクチャーを受ける。
・「テニス発見ノート」を作成。
・翌年2月から始まる合宿までの宿題となるのが読書。「五輪の書」と「不毛地帯」を読み、後日感想文を提出。



「五輪の書」と「不毛地帯」

1月

・冬休み(故郷へ帰省する学生が多い)

・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦。有志を募り、学生や監督・コーチとともにメルボルンへ。予選および本戦を観て、肌で“世界のテニス”を感じる(1月10日前後～20日前後まで)。



監督・コーチと同じ部屋で、夜中もテレビを観ながら談笑



オーストラリアン・オープンのセンターコート

2月

・高校を卒業した学生から2月の合宿に参加(12月年末合宿での宿題提出)。

・大学4年間のテニス活動における準備(基礎体力や基礎技術の改善)。

・翌3月に大学で開催する男女の国際大会の準備をする。

・これからの生活拠点、活動の準備をする。

・国際大会参加を想定し、ITFのI-pin(アイ・ピン)登録と春の男子フューチャーズ、女子サーキットへの申し込みを行なう。

3月

・基礎練習から応用練習への移行期。

・体力強化を継続する。

・月末から始まる男子フューチャーズと女子サーキットへの参加を目指すとともに、大会運営に参加する。



スーパーバイザーから審判のレクチャーなどを受ける学生

4年間の目標を考える。 学生は本物を学べ!!

- ・Ever Upward「自らの可能性は、それを信じ続けた者だけが実現できる」(亜細亜大テニス部テーマ)の実行
- ・スポーツマンシップの獲得。人間的成長を目指す。
- ・大学王座・インカレ・全日本選手権など主要大会での優勝を視野に置く。
- ・海外などへ積極的に遠征し、世界ランキングに必要なATP・WTAポイント獲得を目指す。
- ・亜細亜大テニス部が使う重要ワード～意識改革／できるまでやる／適当や雑を一切無くす／時間を大切にする
- ・そして、卒業する!

大学

1年

- ・1年間で40単位取りきれるように努力する。
- ・体力、技術、精神の向上を目指す。
- ・基礎体力、基礎技術の取得。
- ・大学テニス界での自分の位置を確立すること。春/夏の関東学生での予選突破や本戦での活躍。インカレでの活躍。学生ランキングを上げること。
- ・新しい生活に慣れ、部活動とともに大学生活において自分のペースを確立すること。

大学

2年

- ・さらに40単位を取り、3年生で124単位取り切れるように努力する。
- ・勝負の年にする。
- ・体力、技術力のさらなる向上。
- ・積極的に対外試合や国内一般トーナメントに参加する。
- ・目標を忘れず、周りに流されないこと。

大学

3年

- ・3年生終了時に、124単位を取り切れるように努力する。
- ・勝負の年を充実させていく。
- ・海外遠征や国内トーナメントなどに積極的に参戦する。
- ・卒業後のことを見据えて、思いきりチャレンジする。
- ・卒業後に向けて進路を決定していく。部活動をきちんとこなしながら就職活動を行なう。

大学

4年

- ・4年間の集大成として、思いきり勝負する(そうなるように1～3年生をコツコツと精一杯努力しておくことが重要)。
- ・積極的に海外遠征でチャレンジする。
- ・卒業後の準備をする(プロ、実業団、指導者、教員、一般社会人など、それぞれの道へ)。
- ・教職科目を履修している学生は、母校にて教育実習を行なう。

Aプロジェクト

亜細亜テニス部員が4年間かけて達成することを“Aプロジェクト”と呼ぶ

・JTA(全日本ランキング)100位以内を目指す。(男子1243位～1位/女子658位～1位)そして、全日本選手権への出場、活躍を目標に努力する。

・年間52週のうち3分の1の休みをうまく活用してオープン大会へ積極的に参加、ランキングを上げる。

・テニスの戦略&戦術を学び、必要な技術に

磨きをかけていく。

・基礎体力の向上を目標に計画性をもち、目標達成の原動力にする。

戦術の研究 情報・理論の収集・勉強

コーチングスタッフは、ユニバーシアード元日本代表選手、全日本チャンピオン、インカレチャンピオン、グランドスラム出場経験者など。その経験を生かし、年間の練習プラン、メニュー作成から、実戦練習、戦術、ゲーム研究までを学生といっしょに行なう。

・堀内監督によるテニス講義「戦略と戦術」について、それに必要な「9つのボール調整」「ナチュラルスピナーサービス」などが考え方のベースとなる。

・部室には、テニス、トレーニングに関する1000冊を超える書籍やテニス関連の映像教材が設置されていて、自由に利用できる。

・毎年1月に行なわれるオーストラリアン・オープン観戦の遠征や、国内主要大会観戦(デ杯・フェド杯・ジャパンオープン・東レPPO・全日本)に、積極的に出掛けて、理論を勉強する。情報収集の重要性。

・主催する男女国際大会でのゲーム分析(サービス、リターン確率/エース・ミス)の調査比較など。出場学生のほか、参加選手のデータ収集も可能となり、非常に有効な情報収集、研究の場となる。

・自身の練習や試合を撮影し、部室のテレビなどを使ってチェック、改善に役立てる。

・主要大会のゲーム映像を部室の大型テレビで研究。

・関東大学テニスリーグなどのゲーム分析。

・時間や空間、場所取りなどテニスにおける戦術をゲーム分析含め映像やデータなどから読み取り、実践に役立つように処理し修得する。

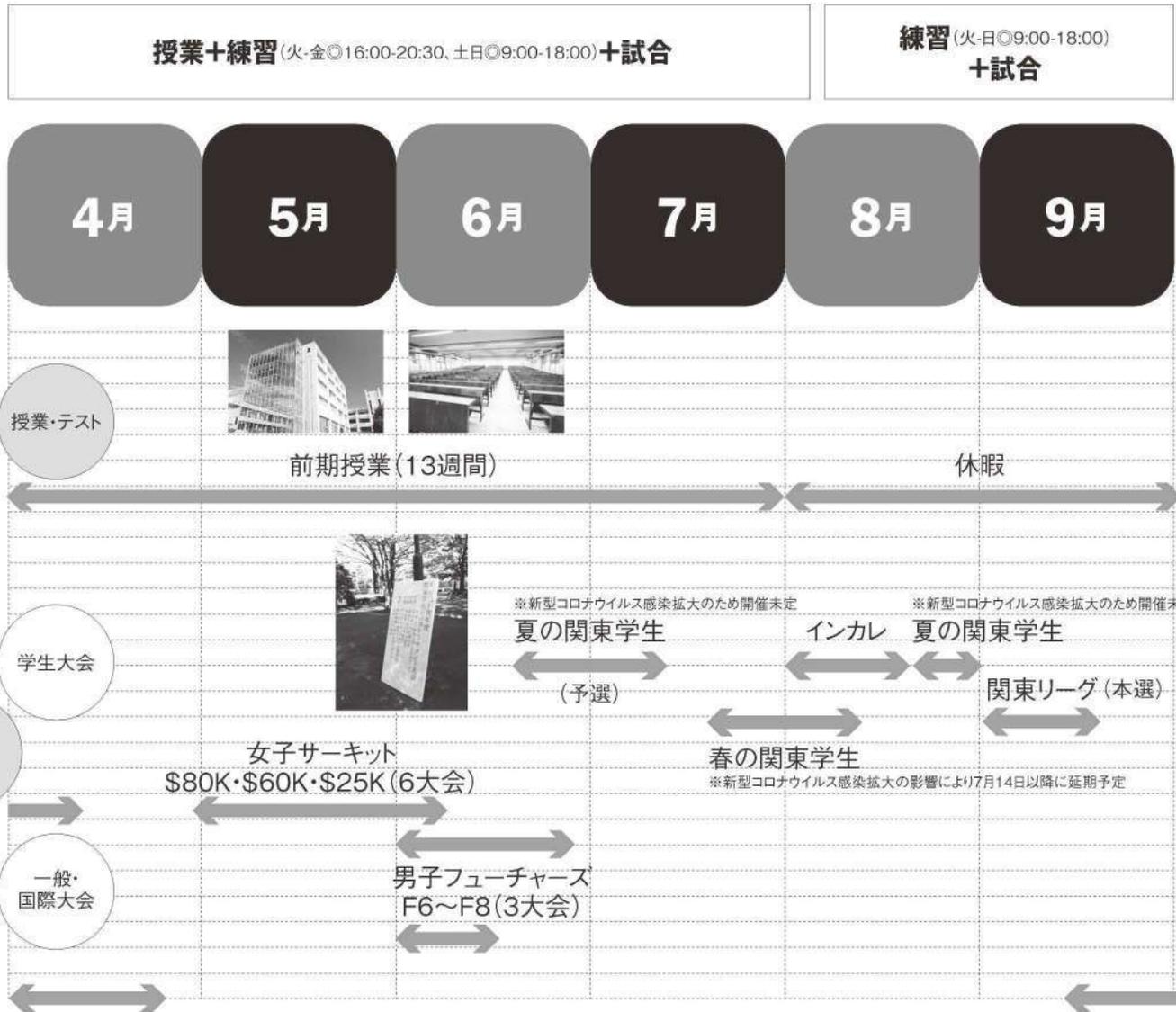
試合後のミーティングが特に重要

トーナメントを終えたあとは、コーチングスタッフとミーティングを行なう。反省をもとに改善点を洗い直し、その反省を生かし、次のプランを作成し実践していく。

卒業生のプロたちも学生を強力サポート

卒業生で選手活動をしている選手が、大会の合間に練習に参加し、学生を引っ張っている。心・技・体を学生とともに鍛え、磨き上げていくことができるのも、いまの亜細亜の大きな特徴。卒業生プロたちは、卒業後も大学をホームコートとして活用している。

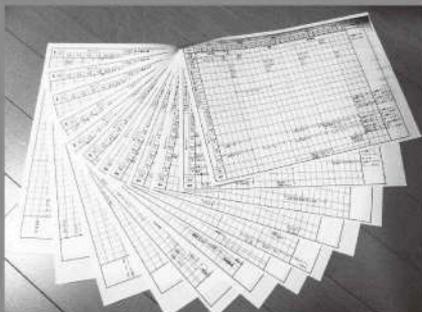
1年間の流れ



(テスト・主要学生大会期間を除き、授業との兼ね合いを考えて自身のレベルを)

年間スケジュール

- ・「国際大会チャリティクリニック」を年間20回を目標に開催
(※写真①)チャリティクリニックの風景
- ・毎年3月後半に男女国際大会を主催。男子F1フューチャーズ(\$1万) / 女子サーキット(\$1万)

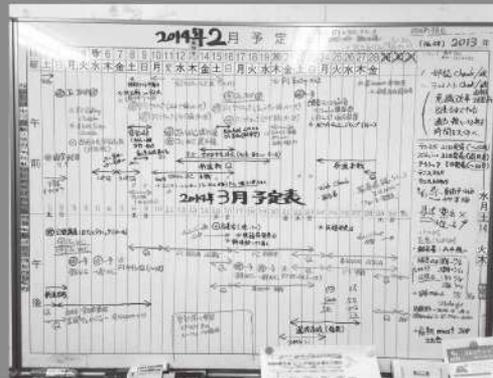


12か月のスケジュール。学事、学生大会、国際大会、JTAトーナメントを記載

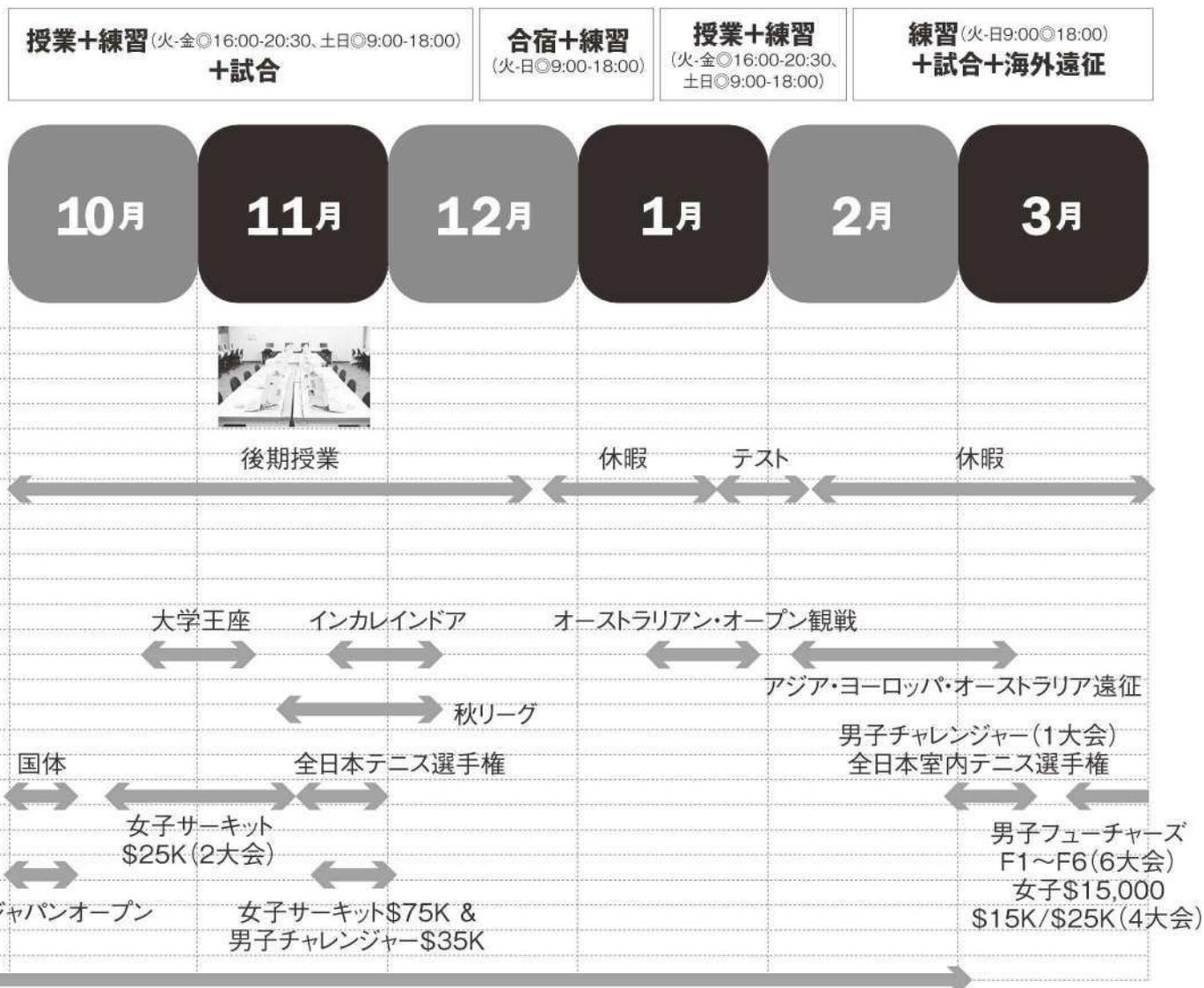


月間スケジュール

- ・対抗戦やトーナメントスケジュールの確認
- ・クリニックや行事の確認
- ・試合、練習計画作成



12か月のスケジュール。学事、学生大会、国際大会、JTAトーナメントを記載



考慮し20万~300万までの国内大会)

週間スケジュール

- ・基本的に毎週月曜日がOFF
- ・外部スクールへアシスタントコーチ派遣 / ①昭和の森TS、②武蔵野ドームTC
- ・毎週水曜日(授業期間中)は、武蔵野キャンパスにてお昼にミーティング
- ・土日には、その週の反省と次週の確認を含めミーティング

日常のオンコートスタッフ陣

- ・堀内昌一監督 / 森稔詞コーチ(週6日)
- ・長久保大樹プロ(週6日)

1日スケジュール

授業有り (練習時間 / 火-金◎16:00-20:30、土日◎9:00-18:00)

- ・基本的に1限が9:00からスタート。テニス部員はできるだけ3限までに授業を登録受講し、練習時間の確保に努める。
- ・10面のテニスコートを使用する。
- ・オンコート練習(ナイター設備があり、20:30まで練習可能)。
- ・3時間の練習と1.5時間のトレーニング。男子10km、女子8kmのランニング。
- ・400mトラックを使いインターバルやランニング、フットワークトレーニングなど。
- ・トレーニングジムにてウエイトトレーニング。コートではフットワークドリルやプライオメトリクストレーニングなどを行なう。
- ・雨の場合は、昭和の森TSインドアコートへ移動して、練習する場合もある。



契約トレーナーとともにフットワークトレーニングを行なう

我々は本物のテニスを追求する。

心の追求

- ・スポーツマンシップの獲得(グッドルーザー〜潔く負けを認められる人になるためには…)
- ・メンタルトレーニング受講(月1回、部員は高妻容一先生の講義を受講)。メンタルのスキルアップを実践している。
- ・礼儀やモラルを大切に(テニス部というチームで、仲間との協調性を磨き、団体行動において必要とされるモノを取得する)。
- ・PDCA(plan / do / check / action)の徹底。
- ・復習の徹底(試合報告書の作成や本を読み、座学を受けた際の感想文作成など)
- ・個々が毎日精一杯努力し、人間的成長を目指す。



テキスト『スポーツマンシップを考える』

技の追求

なぜ必要なのか?

テニスは対戦競技であり、ネットを挟んで相手と対峙し、1ポイントを奪い合うスポーツ。1ポイントを奪い合い、1ポイントの積み重ねが1ゲームになり、1ゲームの積み重ねが1セットになり、1セットの積み重ねが1試合になる。

そのようなゲーム特性を踏まえると対戦するふたりは、テニスコートの中で、「間」=時間をうまく使い、「場」=スペースを確保し、あるいは埋めることを考えて、実行に移す。テニスはお互いが「時間」と「場所」を奪い合うスポーツである。その手段として必要になるのが「技」。

現在の競技力は劇的に進歩しており、スピードもスピンのリカバリーも戦術も、より速く、より重く、より変化に富み、より高度に、より巧みになっている。スピードがある——すなわち時間がない——限られた時間の中で、プレイヤーの選択は、くいかに時間を有効に使うか>という、<戦術に基づいた技術>に進化している。

それは、くいかに無駄な時間をなくすか>ということにつながり、さらに、より機能的な運動に近づくとくいか再現性の高い運動>をすることでもある。それが、いま我々が目指している「技」である!

体の追求

- ・専属トレーナーによる年間50日間のトレーニング指導。

- ・毎日のランニング(男子10km/女子8km)

- ・火曜日・金曜日(平日)は3時間のオンコート練習と1時間30分のトレーニングで、徹底的に「技」と「体」を追求する。

- ・テニスコート(ナイター完備)、陸上トラック、トレーニングジムともに9:00-20:30まで利用できる。

- ・トレーニング1時間30分の内容は、韓国式(体幹)トレーニング、ジムトレーニング、オンコートフットワークドリル、メディシンボールでのプライオメトリックトレーニングなど。

- ・土・日・休日は6時間のオンコート練習となる。

……なぜ6時間もオンコート練習か

……シングルス3セットマッチを2試合、

ダブルス3セットマッチを1試合という、

現行ルールでの最大ゲーム数を

問題をなくプレーするための準備。それ

に耐えられるだけの身体をつくることを

目標にしている。常に「将来」に

目を向けてトレーニングする。



目的意識を常を持ってランニング

すべてに共通、練習はできるまでやる!

どんなことが必要?

「再現性の高い運動」
「戦術に基づいた技術」
「時間をつくる」

・時間をつくるとミスが減る。時間をつくと相手を「観る」「探る」「読む」ことができる。時間をつくと場所が確保できる。

・我々は、時間をつくるために必要な技術、「戦術的技術」も追求していく。

・ただボールを打つだけでなく、技術の効果をどう上げるかを考えながら、技術習得を目指す。

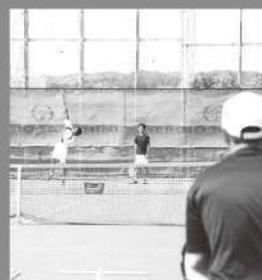
・必ずその技術を習得するために、時間で区切った練習はせずに、できるまでやる〜達成型の練習を行なう。

・対人練習はもちろんのこと、選手同士のコーチング練習、高校生やジュニア、一般プレイヤーを対象としたクリニックでの指導も、さまざまな角度から「技」を磨くためのものである。

もっとも追求している技術のひとつが「サービス」

試合の中で使う全ショットのうち、3分の1を占めるのがサービスである。ということは、3時間の練習であれば、1時間はサービス練習に費やす必要があると考える。サービスは、テニスの中で唯一のクローズドスキル(相手の影響を受けずに打てるショット)であり、自分自身でコントロールできるショット。サービスを追求することは、テニスの質を高める上で絶対に外せない。だからどんなに時間がかかろうとも、亜細亜では徹底的に追求し、改善し、習得を目指す。

基本的にストロークにおいては、ボール調整(9種類と考える)を行ない、練習に取り組む。各コートにはゴムで高さを設定し、目指すボールの種類をもって、この高さをクリアするまで練習は終わらない



19 88年、亜細亜大学テニス部は大々的な強化をスタートさせました。その舵取りをしたのが、私の恩師のひとりである亜細亜大学元学長、衛藤藩吉先生（故人）です。先生は「テニスは、ラケット1本で世界中どこでもプレーすることができ、半日でいろいろな国の人も親交を深めることのできる素晴らしいスポーツ」とおっしゃっていました。

私はいま、そのテニスを通して、志ある学生たちと日の出のテニスコートで汗を流しています。

関東大学テニスリーグ男子7部/女子5部からスタートし、大学王座優勝まで上り詰め、数々の全日本優勝者やグランドスラムでプレーする選手を輩出してきた亜細亜には、現在、ATP・WTAポイントを取得してグランドスラム出場を夢みる学生や、全日本、インカレ、関東学生に出場し、優勝することを目標に日々練習に励んでいる学生、ケガからの復帰を目標にリハビリしている学生などがいます。

そんな学生たちがいる現場では、目標を達成した学生が、新たな目標に向かいいっそう努力する瞬間、目標に届かずあきらめかけ、もがいている瞬間、再度挑戦している瞬間、目標を失い、迷っている瞬間など、それぞれの一喜一憂を目にします。その中で私の役目は、個々の「夢」を思い起こさせ、目の前で起きていることに左右されず、軸をもち、軸をぶらさず、目の前の小さなことからクリアしていくようにアドバイスし、導くことです。

大学4年間は、大人になっていく過程でもっとも重要な時期です。一見「楽しそう」に思えることが多々出てきて、気持ちがぶれることがあります。でも長い人生、いくらでも時間はあります。いましか打ち込めないものを見定め、自ら何をすべきか優先順位をつけて自分を磨いてほしいと思います。

テニスを長くやっているとうまくいかないことだらけで、あきらめそうになる瞬間もあります。しかし、小さい頃から好きで続けてきた「夢」を簡単にあきらめてはいけません。亜細亜で「夢」を必死に追い続けてみませんか。

私たち、亜細亜大学テニス部の目指す「夢」とは、テニスを通じて人間力を高めることにあります。大学王座やインカレを獲得することに収まらず、全日本選手権優勝やユニバーシアード、グランドスラムへの挑戦——と同時に、社会に出ても大きな力となるスポーツマンシップを修得することです。

「夢」の実現には、まず自分を信じて努力し、学生生活で仲間をつくり、学業で知識を深め、部活動を通して思いやりをもてるように、そして人に感謝できるように、人のためになれるように人間力を磨くことです。

現在、それらを経験してきたコーチングスタッフ、堀内監督をはじめ、卒業生たちが日々コートに立ち、学生たちを指導しています。

現在の亜細亜大学テニス部のリーグ戦、個人戦の結果を振り返ると、課題は多く、私はもう一度初心に戻って、取り組まなければならないと思っています。自分の学生時代を思い出し、学生たちとコートに立ってボールを打ち合い、うれしいときはともに喜び、つらいときはともに歯を食い縛り、同じ夢を追いかけようと思います。「夢を変えずに自分を変えよう！」——私の好きな言葉です。いっしょに夢を叶えませんか。



夢を簡単にあきらめないで。
「夢」を変えずに
「自分」を変えましょう！
亜細亜で「夢」を必死に
追い続けてみませんか。

森 稔詞

（亜細亜大学テニス部コーチ）

挨拶

学長 大島 正克

(亜細亜大学)



テニスをとおして
一層豊かな
人間になろう!

世界に羽ばたく起点に 亜細亜大学のテニス部があります。

1996年度から2011年度までの16年間、テニス部の部長をし、その後2018年度まで硬式野球部の部長をしました。この二つの競技は同じ球技でありながら、まるで正反対の競技です。テニスは個人主体の競技ですが、野球はチーム主体の競技です。テニスは一旦試合が始まれば、すべて自分で試合を組み立てます。野球は監督の指示のもと、試合をしていきます。テニスはそれだけ、自分というものが確立していなければなりません。

野球の世界はまだまだ男の世界ですが、テニスは、もはや女子が優位と感ぜられるほど、男女の差はありません。亜細亜大学のテニス部も男子の硬式庭球部と女子ローンテニス部があり、男女が

共に力を合わせ切磋琢磨しています。亜細亜大学の建学の精神は「自助協力」です。まず、自分がしっかりと自立し、そして自立したもの同士がお互いに協力しようという精神ですが、テニス部で活動することで、大いに「自助協力」の精神が養われます。

男子も女子も激戦といわれる関東大学リーグ1部で頑張っています。特に女子ローンテニス部は、2018年度全日本大学対抗テニス王座決定試合において準優勝という素晴らしい成績をあげています。日本全国の大学のテニス界で第2位ということになります。一人ひとりの力の集大成です。大学でもこの榮譽を祝して亜細亜大学では最高の榮譽とされる五島賞を授与しています。

亜細亜大学のテニス部の大きな特色はテニスの国際大会を開催しているということです。2019年の亜細亜大学での国際大会は、男子が13回目、女子は8回目となります。全世界から選手が集まります。この大会で勝ち進めば世界大会のポイントも獲得できます。亜細亜大学のテニス部員は大会を運営するだけでなく、大会にも参加し勝ち進んで頂きたい。亜細亜大学は世界に羽ばたくスタート地点そのものです。私が部長をしていた頃に、大坂なおみ選手のコーチをしたという吉川真司さんも部員として活躍していました。皆さまも自分が目指す栄光をしっかりと掴んで頂きたい。亜細亜大学は、皆さまの活躍を全力で応援いたします。



部長 宇田川 裕

(学校法人亜細亜学園事務局長)

社会に有為な人材の輩出、
社会貢献に取り組み、
“世界に開かれた
テニスチーム”を目指します。

亜細亜大学テニス部は、50年を超える歴史と伝統、輝かしい戦績や、多方面で活躍される卒業生の存在だけではなく、他には実現できない画期的な練習プログラムや教育システムをもって運営され、常に前進し続けています。

テニスプレーヤーの誰もが、満足できる成果を上げたいと思っています。ただ、練習によって技術を磨き、単に大会に出場するだけでは、その目的は達成できません。プレーするのは人間ですから、全般を鍛えていくことが必要なのです。また、今般の激変する社会環境にあって、大学卒業後に社会人として逞しく生き抜くには、スポーツの技術や理論を通して、思考力、実践力を身につけ、友人との協働とさまざまな社会体験によりコミュニケーション能力を養って、人間力を高めることが重要となります。

これを実践するために、私たちはさまざまな実践プログラムを用意しています。まさに、心・技・体を鍛え上げる、人間力の高いバランスのとれた学生育成を行なうのです。

そして、海外遠征や国際テニス大会の運営によって、国際感覚をも磨いてゆくのですね。

私たちは、社会に有為な人材の輩出やテニス競技普及等の社会貢献に取り組み、皆さんとともに“世界に開かれたテニスチーム”となることを目指していきたいと思っています。



部長 金子 国彦

(教務部教学センター課長)

明るく、爽やかで、個性豊かな
バランスのとれた人間に
成長してほしい。
国際社会に貢献できる
人材育成が目標です。

亜細亜大学テニス部は、スポーツ新興の一環として大学の強化クラブに指定されており、大学テニス界においてトップクラスの戦績を挙げています。これも堀内昌一監督、森稔詞コーチ等の熱心な指導による、部員ひとりひとりの日頃の努力と、チームとしてのまとまりがこのような良い結果につながったと思います。

本学は、単にテニスが強靱な大学を目指してはおりません。部員ひとりひとりが社会で活躍できるよう育成すべく、大学生活においてもいい指導を心がけております。特に授業のサポート体制は他大学にないものであります。同時に生活指導も行い人格形成においても、明るく、爽やかで個性豊かでバランスのとれた人間に成長していくことを目標としています。

また、大学という教育機関が、世界レベルへの登竜門となる国際テニス大会を主催することにより、本学の使命でありアジア地域を中心とした国際化の取り組みを実践する場となり、国際社会で貢献できる有為な人材の育成を図っております。

人柄がよく、やる気のある者、自分の可能性を信じぜひとも、亜細亜大学のテニス部にチャレンジしてください。クラブ一同、歓迎いたします。

衛藤 藩吉先生を偲んで

この出会いですべては始まった

文◎堀内昌一

「亜細亜大学学長の衛藤です。帰国したら大学で会おう！」——昭和62年7月、私がジュニア日本代表チームのコーチとしてロンドン（ウインブルドン）に遠征していたときにいただいた電話です。

帰国して学長室を訪ねると、衛藤先生はランニングシャツに下駄履きという出で立ちで私を迎え、大学改革についての思いをぶつけてきました。そこで私も、生意気にも自分の思いをぶつけました。日本テニス界は18歳以上の強化が課題であること、大学での指導の必要性、そして世界挑戦——当時の私は26歳です。

衛藤先生は、私の話をにこにこしながら聴いてくださり、こう言いました。「テニスはどこへ行っても誰とでも友達になれるスポーツ」「誠実な人柄のテニス選手は、どんな仕事もひとりでやり抜くことができるよ」と。衛藤先生はテニスが好きで、自ら体験されて、それを知っていたからこそその言葉でした。

スポーツを強化する目的が、宣伝や経済効果を考へての手段となることが少なくない世の中で、衛藤先生の純粋な考え方に私は惹かれ、亜細亜大学を選ぶのにもう時間はありませんでした。あれから25年経ち、あのときがなかつたら……いまの私もテニス部もありません。だから衛藤先生、心からありがとうございます。いつも見守っていてください。

亜細亜大学テニス部 指導スタッフ紹介

ディレクター兼テクニカルコーチ

教え子のコーチ陣に囲まれて、指導体制はとても充実しています。その指導に甘えることなく、自立した学生、選手、部活を目指しています。



堀内昌一監督

(亜細亜大学教授/テニス部監督)

全体を統括し、学生がテニスに集中して競技力を向上できる環境を整えている。これまで育ててきたOB、OG複数名をコーチとして迎え、指導者が常駐するほか、遠征に帯同できる準備もある。そのほか、トレーニングコーチ、メンタルコーチ、メディカルスタッフも揃え、あらゆる角度から学生をサポートする。

ほりうち・しょういち◎1960年に東京都世田谷区に生まれる。1972年に中央大学付属高校に入学。戦績はH都予選ベスト64だった。日本体育大学に入学し2年生のときアメリカのニック・ポロテリーに留学。その後New Mexico Military Institute 大学に留学。1982年には全米短期大学テニス選手権でベスト8に入った。帰国直後のインカレでベスト8に入り、翌年の関東学生では優勝。その後、ユニバーシアードに選ばれた。日本体育大学大学院修了後、1987年に亜細亜大学の衛藤瀧吉学長と出会い、テニス部の監督を引き受ける。しかしそのときの亜細亜大学は男子7部女子5部、共に最下位であった。1988年、監督の指導力に惹かれ、前年のIHチャンピオンの岡田岳二さんや山崎史子さんをはじめ、高田充さんの高校トップクラスの選手が亜細亜に入学し亜細亜大学の快進撃が始まった。ATP S 571位/D 713位 JOP S 17位/D 13位

テクニカルコーチ



森 稔詞

(亜細亜大学スポーツ振興センター所属)

大学強化第一期生が母校に戻り、学生に“テニスの精神”を叩き込む全力指導をしている。週6日男女部員を指導。

もり・としつぐ◎1969年12月22日大阪府で、父(故)顕郎と母孝子の間に生まれ、弟大明の2人兄弟。父の仕事の都合で東京へ上京。小学校在学中、地元多摩ローンテニスクラブで毎日壁打ちし週末は野球。中学校在学中、平日は多摩ローン、週末は朝日生命テニス教室(スクール)へ通う。のち、大阪にある名門清風高校へ進学。3年次インターハイでは団体・単・複すべて準優勝。全日本ジュニア18歳以下複優勝。その後、亜細亜大学へ進学し3・4年次インカレ単2連覇とアジア学生選手権単複2連覇。90年ユニバーシアード日本代表(イギリス)複ベスト8。卒業後プロ転向プリンスホテルと契約。92年全日本テニス選手権複優勝、94年全日本室内選手権単優勝。97年引退。現在、亜細亜大学場内監督の下、後進の指導にあたる。07年ユニバーシアード日本代表監督。日本ランキング単5位・複4位/ATPランキング単579位・複473位が最高。大学1年生から8年間ナショナルチームメンバー。S級エリートコーチ。



高橋 隼

男子部員を中心に指導。選手経験に基づいた戦術や理論のコーチングを行っている。

たかはし じゅん◎1987年9月生まれ。東京都出身。02年全国中学テニス選手権複ベスト16。03年全国日本ジュニアテニス選手権複出場。05年全国高校総体団体ベスト8・複ベスト16。06年・08年全国学生テニス選手権出場。ブリヂストンスポーツ入社。2013年ASC(アジアスポーツクラブ)創設。現在はASC(アジアスポーツクラブ)にてジュニア育成をしながら学生の指導にあたる。



長久保大樹

現役プロのツアーコーチにも帯同し、その経験を活かした指導から学生が厚い信頼を置いている。また、トレーニングの指導も行う。

ながくぼ だいき◎1989年7月19日生まれ。学生時代は春関複ベスト4、新進複優勝、インカレ複ベスト8、インカレインドア複ベスト8、全日本学生テニス選手権複出場、ニック全日本テニス選手権複ベスト16に入る。現在はASC(アジアスポーツクラブ)でコーチをしながら学生のコーチング&トレーニングを指導している。

テクニカルコーチ



赤堀奈緒

週1日女子部員を指導。5部だった亜細亜を1部の常連にした立役者は、そのハングリー精神と職人気質な身体の使い方を指導してくれる。

あかほり・なお◎1971年生まれ。1987年東海大学附属相模高等学校に入学し2年次に全日本選手権ベスト8に入る。1990年亜細亜大学に入学し2年次にアジア学生テニス選手権(台湾)S優勝。全日本学生選手権Sベスト4、D優勝。全日本学生室内選手権S、D優勝。3年次には関東学生選手権S優勝。全日本学生選手権S優勝、D準優勝。全日本選手権Sベスト16Dベスト4になる。最高学年のときは、ユニバーシアードD準優勝。1994年大東銀行入行。1995年テニスプロ転向。1997年に全日本選手権Sベスト16、D優勝。1998年腰椎椎間板ヘルニアで引退。1999年～現在、民間クラブのテニスコーチ。2001年～2004年東京医療専門学校(鍼灸)。2004年～亜細亜大学コーチをしながら鍼灸マッサージの仕事をする。2011年～現在、祖師ヶ谷大蔵で治療院を開業中。

フィジオセラピスト



今泉智仁

選手の治療・コンディショニングを担当。豊富な経験から選手に寄り添った的確なアドバイスを送る。

いまいずみ・ともひと◎1972年10月1日生まれ。愛知県出身。北京中医薬大学医学部を卒業後、国内で鍼灸師の資格を取得。2007年よりテニスのツアートレーナーとしてプロに帯同し、体のケアとコンディショニングを整える。選手を一番良い状態でコートに立たせることに尽力することをモットーにしている。

メンタル担当



高妻容一

月に1回、メンタルトレーニングを指導。学生自らがトレーニングできるように、チュードレントレーニングという役割を作って、トレーニングが継続できるように努力している。

こうづま・よういち◎1955年、宮崎県生まれ。福岡大学(体育学部体育学科)卒。中央大学大学院(体育学研究科体育心理学)修了後、フロリダ州立大学へ留学(スポーツ心理学など)、博士課程中退。1993年、州立フロリダ大学へ1年間の研究留学。近畿大学教養部助教授を経て、現在、東海大学体育学部教授。1985～2001年、日本オリンピック委員会のメンタルマネジメント研究班員。1994年からメンタルトレーニング・応用スポーツ心理学研究会をスタート。所属学会は「国際メンタルトレーニング学会」など10を数える。

コンディショニング担当



平石貴久

亜細亜大学テニス部の心強いチームドクター。血液検査を定期的に行うなどして、身体に関する基礎知識を指導する勉強会を行うなどして、学生の体調を管理している。

ひらいし・たかひさ◎1950年鹿児島県生まれ。東京慈恵会医科大学卒業。専門は内科、循環器科、スポーツ医学、放射線診断、東洋医学。鍼灸あん摩マッサージ指圧師。介護予防運動指導員。日本体育協会公認アスレティックトレーナー。駒澤大学卒業後、小守スポーツマッサージで修業し、1977年からフジタ工業サッカー部のトレーナーに就任。81年に独立し、日本トレーナー協会所属、三宅スポーツマッサージを設立。医療法人社団貫生会理事長。東京ミッドタウンメディカルセンター平石貴久特別外来ドクター。

学内スタッフ



宇田川 裕 (学校法人亜細亜学園事務局長)

亜細亜大学テニス部OBで、男子部部长である。現在は亜細亜大学職員として、学校の仕事もしながらテニス部の運営や就職の手伝いをしている。亜細亜大学国際大会事務局長。



金子国彦 (亜細亜大学教務部教学センター課長)

亜細亜大学テニス部OBで女子部部长である。現在は亜細亜大学職員として年度始めに履修カリキュラムのミーティングをしたり、部活との兼ね合いで履修ができない授業がある学生の、時間割変更などのサポートをしている。

部員名簿

①役職②出身地③出身高校④生年月日⑤テニス歴⑥尊敬する人
⑦趣味⑧好きな言葉⑨主な戦績⑩目標⑪自己PR

濱口昌孝

(主将)4年

- ①主将②大阪府
③清風高等学校
④1999年11月15日
⑤12年⑥両親
⑦アロマ
⑧人間万事塞翁が馬
⑨インカレ単ベスト
16、インカレインドア
単ベスト8
⑩王座優勝、インカレ優勝



⑪ありがとうございますを大切に、どんな時でも前向きに、笑顔を忘れない1年にしたいです。

岡 悠多

4年

- ①IT・広報②埼玉県
③浦和学院高等学校
④1999年10月5日
⑤13年⑥バナナマン
⑦炒め物⑧努力・感謝・笑顔
⑨春関複ベスト16、インカレ複ベスト32
⑩インカレ単複ベスト8
⑪このチームに居られるのもラスト1年となってしまいました。全てを出し切って最後にチーム全員が笑って終われるように頑張ります!



枘 富一

4年

- ①IT・広報
②徳島県
③学芸館高等学校
④1999年1月9日
⑤16年
⑥祖父
⑦美容
⑧ありがとう
⑨春関2次予選敗退
⑩父のような人になることよく喋ります。



粕谷朋希

(主務)4年

- ①主務②東京都
③秀明高等学校
④1999年12月24日
⑤10年⑥両親
⑦ゲーム
⑧光陰矢の如し
⑨春関1次予選敗退
⑩春関本戦出場



⑪大学生活最後の年、最上級生として責任を持って行動し、限られた時間の中で悔いのないように全力で足掻いて目標を達成したいと思います。

古藤 嵩大

4年

- ①財務②神奈川県
③湘南工科大学付属
高等学校④2000年
1月29日⑤17年⑥
両親⑦音楽を聴くこと
⑧千思万考⑨春関
複ベスト8、インカレ
複本戦出場⑩単イン
カレ出場、複インカレ
インドア出場⑪最後
の1年出しぎります。と
ても仲の良い最高の
チームで最高の終わり
を目指します。
Attack All Around!



浅海 裕一

3年

- ①スカウト
②埼玉県
③柳川高校
④2001年3月12日
⑤11年
⑥両親
⑦睡眠、映画鑑賞
⑧百折不撓
⑨春関一次予選敗退
⑩関東学生
⑪もっとテニスを好きになれるよう頑張ります!



目黒志和

4年

- ①副将②東京
③湘南工科大学附
属高等学校
④1999年4月3日
⑤12年
⑥両親
⑦映画鑑賞
⑧一心不乱
⑨春関単複本戦出場
⑩インカレベスト16
⑪何をしてもラストがつくので全力で取り組みます!



権藤卓巳

4年

- ①学生コーチ
②神奈川県
③横浜清風高等学校
④1999年12月8日
⑤10年
⑥ファブリス・サントロ
⑦映画鑑賞
⑧万里一空
⑨春関複ベスト8
⑩インカレベスト8
⑪学生生活ラスト頑張ります!



小笠原洋

3年

- ①総務
②東京都
③松が谷高等学校
④2000年5月3日
⑤7年
⑥両親
⑦楽器演奏
⑧最短最速
⑨春関1次予選敗退
⑩関東学生
⑪何事も1つずつ丁寧にやっていきたい
と思います。



石井智也

4年

- ①IT・広報②秋田県
③秋田市立秋田商
業高等学校
④1999年9月16日
⑤13年
⑥両親
⑦YouTubeを見ること
⑧よしよし!
⑨春関複ベスト16、インカレ複ベスト32
⑩単複インカレベスト8
⑪大学生生活ラスト後悔しないようにしっかりと頑張ります!



平塚太一

4年

- ①IT・広報
②埼玉県
③開智未来高等学校
④1999年12月13日
⑤13年
⑥金井譲二先生
⑦スポーツ観戦
⑧七転八倒
⑨春関単一次予選敗退
⑩春関本戦出場
⑪オンとオフの切り替えをしっかりと頑張っています。



日野知紀

2年

- ①IT・広報
②東京都
③松が谷高等学校
④2001年7月23日
⑤9年
⑥桜井淳
⑦グルメ
⑧継続は力なり
⑨春関複二次予選敗退
⑩インカレ出場
⑪泥臭いテニスで2年目頑張ります。



市野瀬楓

2年

- ①副務、広報
- ②東京都
- ③霞ヶ浦高等学校
- ④2002年1月5日
- ⑤10年
- ⑥上杉海斗
- ⑦ギター
- ⑧思い立ったが吉日
- ⑨2019インハイ団体ベスト32
- ⑩インカレ出場・リーグのメンバー入り
- ⑪今年こそ、飛躍の年にできるように泥臭く頑張ります!



松浦一貫

2年

- ①スカウト②静岡県
- ③静岡市立高等学校
- ④2001年12月11日
- ⑤13年
- ⑥ヤニック・シナー
- ⑦アニメ鑑賞
- ⑧しっかりと準備もしていないのに、目標を語る資格はない。
- ⑨春関一次予選敗退
- ⑩インカレベスト4
- ⑪弾丸のようなフォアハンドが魅力的です。



木塚真彰

1年

- ①学連②東京都③東京都立松が谷高等学校④2002年9月24日⑤8年⑥ラファエル・ナダル⑦音楽鑑賞⑧自分には負けられない⑨都高新人戦単ベスト32⑩単複インカレ出場⑪亜細亜大学の学生として自覚を持って行動し、個人としてもチームとしても活躍できるように全力で頑張ります。



川崎理比人

2年

- ①学生コーチ
- ②山形県
- ③東京学館新潟高校
- ④8月22日⑤14年
- ⑥本田圭佑
- ⑦映画、アニメ鑑賞
- ⑧最後に成功すれば挫折は過程に変わる。だから成功するまで諦めないだけ。
- ⑨春関1次予選敗退
- ⑩インカレ出場
- ⑪勝ちに拘ります。



芳谷 仁

2年

- ①財務
- ②香川県
- ③香川県立高松北高等学校
- ④2001年5月13日
- ⑤11年
- ⑥久保建英
- ⑦散歩
- ⑧毎日やんねん、ちゃんとやんねん
- ⑨春関単2次予選敗退
- ⑩インカレ出場
- ⑪毎日ひたむきに頑張ります。



齋藤晶斗

1年

- ①IT・広報②宮城県③東京学館新潟高等学校④2002年5月⑤14年⑥ドミニク・ティーム⑦漫画を読む、Amazonプライム⑧不撓不屈⑨インハイ単出場⑩インカレベスト4⑪1年生の中で身長が1番低いかもしれませんが、自分は左利きでこれぞ左利きというプレーで頑張っていきたいです。



齊藤洋甫

2年

- ①財務②神奈川県③上溝高校
- ④2001年9月24日
- ⑤7年
- ⑥芥川龍之介
- ⑦詩集作成
- ⑧つらい思い出は明日への糧となり、私たちを強くする。
- ⑨春関1次予選敗退
- ⑩春関2次予選出場
- ⑪透き通るほど素直です。



李 光輝

2年

- ①総務
- ②東京都
- ③堀越高等学校
- ④2001年10月10日
- ⑤9年
- ⑥土屋哲史
- ⑦ゲーム
- ⑧一生懸命
- ⑨春関複2次予選敗退
- ⑩インカレ出場
- ⑪今年こそ結果を残します!



座馬 大

1年

- ①スカウト②岐阜県③岐阜県立岐阜商業高等学校④2002年7月22日⑤13年⑥ニック・キリオス⑦ビリヤード⑧ベストを尽くす⑨茨城国体少年の部出場、全国選抜個人団体出場⑩インカレベスト8⑪自分から何事にも積極的に取り組み、練習時には声を出し、ベストを尽くします。



橋本一斗

2年

- ①スカウト
- ②富山県
- ③水橋高等学校
- ④2001年7月日
- ⑤13年
- ⑥イチロー
- ⑦スポーツ観戦
- ⑧才能は開花させるもの、センスは磨くもの
- ⑨なし
- ⑩インカレ出場
- ⑪怪我の無い1年にします。



大村蒼太

1年

- ①IT・広報
- ②沖縄県
- ③神村学園神戸垂水校
- ④2002年11月12日
- ⑤8年
- ⑥渡邊聖太
- ⑦散歩
- ⑧大いなる好奇心
- ⑨Islamabad ITFベスト8
- ⑩インカレ本戦出場
- ⑪目標を達成できるように頑張ります。



谷 颯太

1年

- ①総務
- ②東京都
- ③勇志国際高等学校
- ④2002年10月23日
- ⑤14年
- ⑥Bojan Zdravkovic
- ⑦音楽鑑賞
- ⑧夢見る事ができればそれは実現できる
- ⑨なし
- ⑩インカレ優勝
- ⑪4年間全力で頑張ります。



部員名簿

①役職②出身地③出身高校④生年月日⑤テニス歴⑥尊敬する人
⑦趣味⑧好きな言葉⑨主な戦績⑩目標⑪自己PR

橋本 洸矢

1年

- ①副務
- ②神奈川県
- ③津田学園高校
- ④2002年7月15日
- ⑤12年
- ⑥ラファエル・ナダル
- ⑦映画鑑賞
- ⑧勇往邁進
- ⑨全国選抜単・団体出場



⑩高校時代、同じ県の強豪校を相手に立ち向かい、県大会で優勝したことです。

松本 直杜

1年

- ①スカウト②大阪府
- ③大阪産業大学附属高等学校④2002年5月9日⑤4年⑥梅岡優大選手⑦ドラム・サイクリング⑧結果の出ない努力は本当の努力とは言わない。⑨



池村杯サマージュニアテニストーナメントダブルスベスト4⑩インカレ出場、JOPランキング100位以内⑪何事もポジティブに捉えることでどんな苦難も乗り越えて行けます。

尹 準熙

1年

- ①学生コーチ②韓国(ソウル)③柳川高等学校④2001年6月8日⑤11年⑥ロジャー・フェデラー⑦読書、ゲーム⑧七転八起⑨



全国選抜高校大会団体ベスト8、ベスト16⑩四大大会本選出場⑪自分が立てた目標を達成するまで諦めず続ける力

高橋遥菜

(主将)4年

①主将、スカウト②東京③浦和学院高等学校④1999年10月16日⑤12年⑥両親⑦温泉巡り⑧万里一空⑨春関2次予選敗退⑩インカレ出場/王座優勝⑪最後まで諦めず粘り強いプレーで今年1年頑張ります!最後に笑って終われる様に日々課題を持って練習に取り組んでいきます!



中島美夢

3年

①スカウト、副将②大阪府③相生学院高等学校④2001年1月5日⑤12年⑥両親⑦音楽を聴くこと⑧不動心⑨春関単ベスト8複準優勝、インカレインドア単16複8⑩インカレ優勝⑪最後まで元気よく頑張ります!



有木真絢

2年

①スカウト②大阪府③城南学園高等学校④2001年9月19日⑤12年⑥松田美咲選手⑦ショッピング⑧不撓不屈⑨春関2次予選敗退⑩インカレ単複出場⑪今年も笑顔忘れず全力で頑張ります!



福室有那

4年

①副将・総務②埼玉県③秀明英光高等学校④1999年12月23日⑤11年⑥鈴木貴男⑦食ること⑧自由⑨春関単本戦出場⑩インカレ出場⑪今年はもちろん日焼け止め塗ります。



矢崎梓紗

3年

①IT・広報②埼玉県③山村学園高等学校④2000年11月21日⑤12年⑥両親⑦音楽を聴くこと、お菓子作り⑧笑顔⑨春関複本戦出場⑩王座優勝、インカレ単複ベスト8以上⑪何事にも全力で楽しみに行きます!又、上級生としての自覚を持った行動や言動を取り、人間的にも成長したいです。



伊藤 楓

2年

①総務②秋田県③聖霊女子短期大学付属高等学校④2001年11月29日⑤10年⑥両親⑦読書⑧楽では無く楽しいを考える⑨春関2次予選敗退⑩インカレ出場⑪何事にも全力で取り組みます!



伊藤さつき

3年

①副将、財務②愛知県③相生学院高等学校④2000年5月17日⑤15年⑥両親⑦料理⑧感謝⑨新進単優勝、インカレインドア単ベスト16、複ベスト8⑩インカレ単複優勝、王座優勝⑪上級生としての自覚と責任を持って頑張ります!



安井愛乃

3年

①IT広報②愛知県③愛知啓成高等学校④2000年10月29日⑤14⑥両親⑦料理、ネイル⑧上手くやるより全力でやる⑨春関本戦出場、新進複ベスト16⑩インカレ優勝 王座優勝⑪明るく元気な性格です。どんな時でも笑顔忘れず毎日一生懸命頑張ります。



園城海遥

2年

①総務②茨城県③東洋大学附属牛久高等学校④2001年10月11日⑤12年⑥両親⑦音楽を聴くこと⑧自分らしく⑨春関2次予選敗退⑩インカレ出場⑪体力付けます。



中山麗未

3年

①主務・学生コーチ②千葉県③東京学館浦安高等学校④2000年12月18日⑤15年⑥家族⑦映画鑑賞⑧継続は力なり⑨インカレ予選複出場、インカレインドア予選複出場⑩インカレ上位⑪本能以頑張ります。



中川杏子

2年

①副務②埼玉県③埼玉平成高等学校④2001年12月27日⑤12年⑥両親⑦読書⑧Keep smile⑨春関2次予選敗退⑩インカレ出場⑪何事にも全力で頑張ります!



木下菜々花

2年

①IT・広報、財務②愛知県③椋山女学園高等学校④2001年4月23日⑤11年⑥両親⑦動画を見る事⑧やらない後悔よりやって後悔⑨春関複2次予選敗退⑩インカレ出場⑪どんな時でも自分に負けず、笑顔忘れず頑張ります!常に周りを見て行動し、人としても成長していきたいです!



部員名簿

①役職②出身地③出身高校④生年月日⑤テニス歴⑥尊敬する人
⑦趣味⑧好きな言葉⑨主な戦績⑩目標⑪自己PR

山崎郁美

2年

①学生コーチ②千葉県③秀明八千代高等学校④2001年8月24日⑤10年⑥ジュスティース・エナン⑦古着巡り⑧一期一会⑨春関単準優勝・インカレ単ベスト4・インカレインドア単ベスト4⑩王座優勝と単複インカレ優勝する事⑪笑顔を決やらず楽しく頑張ります!



児山心美

1年

①学生コーチ②大阪府③慶風高等学校④2002年8月16日⑤15年⑥豊田章男⑦車・歌を歌うこと⑧雑草魂⑨全日本選抜室内5位/全日本ジュニア複ベスト8/Japan Open複ベスト4/世界スーパージュニア複ベスト16⑩目標:インカレ単複共に優勝すること⑪自己PR:明るく元気に頑張ります。



富永 栞

1年

①IT・広報②神奈川県③湘南工科大学附属高等学校④2002年7月30日⑤13年⑥両親⑦お出かけ⑧継続は力なり⑨インハイ複ベスト8⑩インカレ優勝⑪自分らしく、目標に向かって一生懸命頑張ります。



吉川ひかる

2年

①スカウト②神奈川県③湘南工科大学附属高等学校④2001年11月4日⑤16年⑥両親⑦寝ること⑧自分らしく⑨インカレ単複ベスト32、インカレインドア単ベスト32、春関単ベスト16複ベスト8⑩インカレ上位進出⑪トレーニング尽くしの1年間にし、人並みを超えられる様に頑張ります!



齋藤瑠奈

1年

①総務②福島県③相生学院高等学校④2002年10月3日⑤11年⑥キャロライン・ウォズニアッキ⑦読書⑧不撓不屈⑨戦績:全国選抜団体優勝/インハイ単複出場団体ベスト4⑩インカレ単複出場⑪日々成長できるように頑張ります。



沼野菜海

1年

①スカウト②新潟県③新潟第一高等学校④2002年4月22日⑤10年⑥大坂なおみ⑦洋画鑑賞⑧七転び八起き⑨インハイダブルスベスト16⑩インカレベスト8以上に入る⑪亜細亜大学テニス部といえど私という印象がつけられるようなテニスプレーヤーになれるようがんばります。



新井万由子

1年

①副務②埼玉県③浦和麗明高等学校④2002年9月6日⑤10年⑥大坂なおみ⑦アニメ鑑賞⑧全力⑨全国選抜団体出場⑩インカレ出場⑪人間的にもテニスの面でも成長できるよう全力で頑張ります。



佐久間向日葵

1年

①財務②福島県③桜の聖母学院高等学校④2003年1月12日⑤12年⑥両親⑦ピアノを弾くこと⑧努力は必ず報われる⑨全日本ジュニア出場/福井国体・茨城国体ベスト32/MUFG、中牟田杯ベスト32⑩インカレベスト16/国体ベスト8⑪インカレや国体で活躍出来る様に頑張ります。



加藤陽菜

1年

①IT・広報②神奈川県③橘学苑高等学校④2003年2月⑤12年⑥両親⑦ショッピング⑧笑顔⑨関東ジュニア出場⑩インカレ出場⑪高身長活かして頑張ります。



高橋礼奈

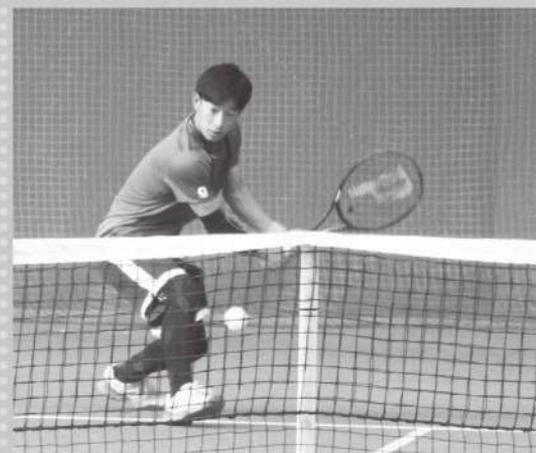
1年

①スカウト②神奈川県③大成高等学校④2002年8月21日⑤15年⑥両親⑦音楽を聴くこと⑧七転び八起き⑨全日本ジュニア単複出場、インハイ単ベスト32、全国私学単5位⑩インカレ優勝⑪周りの環境に感謝して、お世話になった方々に恩返しができるように頑張ります。



練習風景

男女共に「王座優勝」や
それぞれの目標を目指し
日々練習に取り組んでいます!



亜細亜大学テニス部・男子

自宅生

経営学部
4年生

目黒志和の1日



6:45	起床	寝坊しないようたくさんアラームをかけ、起床します。
8:45	学校到着&授業開始	自分の興味ある授業を選択し受講できます!しっかりノートを取り頭に叩き込みます!
10:40~12:10	授業(2限)	夢の世界に入りそうですが、同期と協力して授業に取り組みます。
12:10~12:50	昼休み&昼食	テニス部の同期や友達と会話しながらお昼ご飯。
12:50~14:20	授業(3限)	お腹いっぱい眠いですが必死でノートをとります。
15:30	日の出グラウンド	今日の目標を決め、より良い練習にする為計画を立てます!
16:15	部活動開始	1日のメイン!自らの話題と向き合い毎日一生懸命練習します。
19:00	トレーニング	筋トレ、ダッシュ、ランニング。フィジカル面でも強くなれるよう全力で取り組みます。
20:00	部活動終了	1日の振り返りを行いテニスノートを書きます!
22:00	夕食	疲れた体を回復させるためにたくさん食べます!
23:30	就寝	疲れを残さないようストレッチをして、次の日寝坊しないようできるだけ早く寝ます。

亜細亜大学テニス部・女子

寮生

法学部
3年生

中島美夢の1日



6:15	起床	準備や朝食を余裕持ってすませられる様に朝早く起きます。
8:45	学校到着&授業開始	難しい内容もあり大変ですが、先生の話聞いて勉強に取り組みます。
10:45~12:30	授業(2限)	疲れてきますが、集中して勉強します。
12:30~13:15	昼休み&昼食	友達と楽しく学食を食べます。
13:15~15:00	授業(3限)	食後で眠たいですが、最後まで頑張ります。
16:20	日の出グラウンド	到着次第コート準備などを行い、練習が出来る環境にして行きます。
16:40	部活動開始	試合で勝てる様に、毎日目標を定めてクリアし自分の課題と向き合って取り組みます。
19:00	トレーニング	皆で声を掛け合いながら、最後の追い込みを頑張ります。
20:30	部活動終了	次の日も全員が気持ちよく使える様に、コートを片付け見回りをします。
22:00	夕食	寮のご飯を食べます。予め用意されているので帰宅後直ぐに食べられるところが良いです。
23:30	就寝	お風呂や洗濯を済ませ、明日に疲れを残さない様にストレッチをします。 又、寝る前にテニスノートを書き1日の反省と明日の目標を書き出してから寝ます。

亜細亜大学テニス部の寮 (男女別)

立川北 (男子寮)

JR中央線 立川駅 徒歩約10分、自転車約5分

- キッチンコーナー IHコンロあり
- ランドリー 乾燥機あり
- 駐輪場あり
- 大浴場 18:30～翌日8:30
- プライベートシャワー 24時間利用可能
- トレーニングルーム

●門限 24:00

●食事

朝 6:30～8:30 (土曜日は6:30～10:30)

夜 18:30～23:30 (土曜日は18:30～22:00)

※朝夜共に、日曜日、祝祭日、第5土曜日は食事が出ない



高尾 (女子寮)

JR中央線 高尾駅 徒歩約3分

- キッチンコーナー IHコンロあり
- ランドリー 乾燥機あり
- 駐輪場あり
- 大浴場 18:30～翌日9:30
- トレーニングルーム
- 学習室

●門限 24:00

●食事

朝 6:30～8:30 (土曜日は6:30～10:30)

夜 18:30～23:30 (土曜日は18:30～22:00)

※朝夜共に、日曜日、祝祭日、第5土曜日は食事が出ない



高校生のみんなへ

いっしょに テニス しようよ!

部員から
一言



頑張るぞ!





誕生日祝い



みんなおいでよ!



ピース!!



Yeah!!



学生は、 部活と授業の 両立を目指す。

面 白いもので、テニスの本当に強かった卒業生を顧みると、学業優秀とまではいかなくとも、単位をいつのまにか取っていた選手ばかりでした。岡田岳二、森稔詞、山崎史子、赤堀奈緒、宮地弘太郎、岡本聖子、駒田政史、佐藤博康、宮崎靖雄、宮崎優実など、多くの卒業生の中でも特にレギュラーでタイトルを獲った選手ほどその傾向は強く、目標が明確であり、そのため好き嫌いにかかわらず、何事においても判断と行動は積極的でした。

競技成績だけではなく、プロとして活躍できた選手以外にも、企業で活躍できる卒業生も含め、明確なことは「部活」と「授業」との両立ができることが、すべての成長に繋がっているということです。

成長する選手とそうでない選手の違いは、「必要なこと」と「好きなこと」の区別ができるかできないかです。「将来」に必要なことと「いま」に必要なことを明確に理解して行動できる選手こそ、成長する選手です。

部活ではまず、新1年生に対して、11月の入試後にオリエンテーションをし、12月までに「4年間」と「今年」の目標を16ページにわたる「自己発見ノート」に書かせることにしています。自分のテニスや将来を確認させ、自分を気づかせる第一歩です。次に年末の合宿に参加し、そこで「今の自分」と「今後の自分」に必要な体力、技術、精神力の確認を、私たちといっしょに行ないます。

そして2月～3月の2ヵ月合宿を通じて、1年間の準備を徹底的に行なうこととしています。肝心なのは“自己の選択”ですから、練習環境や指導者がどんなに指導しても、最終的に判断し、実行するのは学生本人です。流されず自分の将来を見据えて選択できたものが勝利をつかみます。

そのときに必ずといっていいほど“教養”が大切になります。テニスはミスのゲームであって、自分本位の試合は、レベルが上がれば上がるほど、相手との駆け引きの中で“無理”や“無駄”が通用しなくなります。効率性や確率が大きな勝利のウエイトを占めてきます。そこでミスをどのように修正するかの能力が試されるわけです。

部活と授業の両立ができない選手はバランスを失い、「相手を知ること」も「自分も知ること」も「テニスやゲーム状況を知ること」も、そしてそれらを「説明すること」もできず、修正を失い自滅していくことになります。

テニスは実に正直で、バランス感覚をもたない選手には勝利をプレゼントすることはありません。ですからテニスの競技力に、まさしく部活と教養はプラスに働くのです。文◎堀内昌一





文武両道



法学部 Law

全学部生 ● 1,509人 男女比 ● 男1,159人(77%):女350人(23%)

中川杏子(2年)の場合

「法学部での学び」

私は法学部では、2つの魅力的な事があると思います。1つ目は「多彩な選択肢の中から自分で選択することが出来る」です。法学部には、法律専門職、公務員、企業、現代法文科の4つのコースがあります。どのコースでも法律を学ぶ事ができ、その中で自分の興味があるものを専攻し、より深く学ぶことが出来ます。2つ目は「物事を論理的に考える力を育む」です。社会の基本的なルールとして日常生活に密接に関係するさまざまな法律について学び法解釈に求められる論理的思考力を養うこ

とが出来ます。法学部では1、2年で法学の基礎を学び、3年では基礎を活かして少人数でのゼミ形式で学ぶ事が出来ます。また、多種多様な問題の法的な解決手段を学びながら、幅広く法律の要素を身に付けることで問題解決能力を備えることも出来ます。法学部で学んだ法律の知識と物事を論理的に考える力は、将来どの様な職業に就いたとしても必ず役に立つと思います。



週間スケジュール

	M月N	T火	W水	T木	F金	S土	S日
1限目	フレッシュマン・イングリッシュ	基礎演習	憲法Ⅱ	フレッシュマン・イングリッシュ	刑法Ⅰ A組	練習&トレーニング	練習&トレーニング
2限目	民法Ⅳ	フレッシュマン・イングリッシュ	フレッシュマン・イングリッシュ	民法Ⅳ	フレッシュマン・イングリッシュ		
3限目	憲法Ⅱ	基礎数理Ⅱ 5組	中国語初級Ⅱ 7組	刑法Ⅰ A組	中国語初級Ⅱ 7組		
4限目	心理学Ⅱ B組		地誌学Ⅱ	文章表現 L組	政治学Ⅱ C組		
17:00 ～ 21:00	オフ	練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング		

特徴

基礎学力が高まるカリキュラム

法学部では、全学生がキャリア開発教育を受けています。全学共通科目の「基礎数理」を必修科目とするほか、専門選択科目として「公務員教養」を配置し、各種就職試験に対応しています。

公務員試験にも対応した充実の科目群

各種資格取得のほか、公務員を目指す学生を重点的にサポートします。国家・地方公務員試験に対応する科目を配置するとともに、課外講座「公務員試験講座」との連携も図っています。

ゼミを中心とした少人数教育の展開

法律学・政治学の学び方を身につける1年次の「オリエンテーションゼミ」「基礎演習」、卒業研修を通じて学生が自立して専門的調査・分析を行う能力を育成する「演習」(専門ゼミ)など、少人数教育を展開します。「演習」では、卒業論文やプレゼンテーションなどの形式で、4年間の学習成果を形に残します。

公務員コース

行政事務、警察、消防士など、国家・地方の公務員試験を受験する学生のためのコースです。公務員試験科目を中心としながら、法的要素のある優れた公務員の養成をめざした科目編成になっています。

企業コース

企業に就職する学生を想定し、法律の基本科目に加え、企業の組織や企業に取引に関する専門科目を中心に、ビジネスに直結する法律科目を配置しています。

法律専門職コース

裁判官、検察官、弁護士、司法書士、行政書士などの専門家や法律関連の資格所得をめざす学生のためのコースです。実定法科目をしっかり学習します。

現代法文化法コース

現代社会の多種多様な問題に対して、法的なものの見方、考え方からアプローチできる能力の修得をめざします。亜細亜大学アメリカプログラム(AUAP)や中国の留学機械を活かすなど、より柔軟に履修科目を選択できます。

カリキュラム紹介

主な勤務先 ■ 積水ハウス/大日本塗料/LIXIL/中国電力/全日本空輸/東日本旅客鉄道(JR東日本)/ニトリ/みずほ銀行/ゆうちょ銀行/明治安田生命保険/大和証券/京王プラザホテル/東京地方検察庁/新宿区役所/警視庁/入国警備官

経済学部 Economics

全学部生 ● 1,126人 男女比 ● 男子884人(79%):女子242人(21%)

安井愛乃(3年)の場合

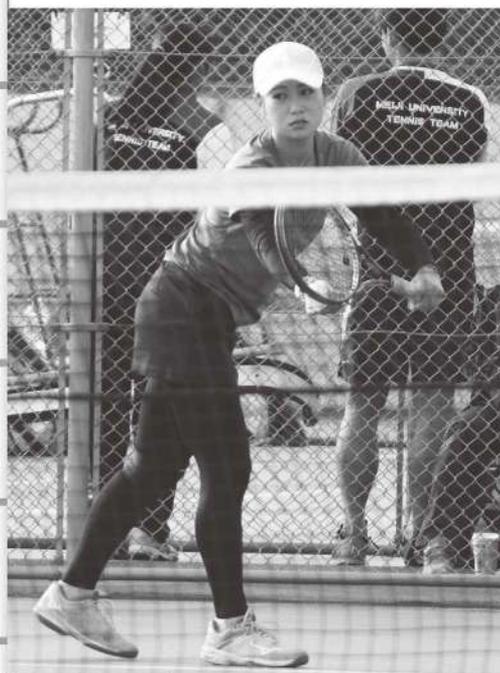
「経済を学ぶ」

私の在籍している経済学部は、身近な家計の調査から世界的な経済問題の研究まで幅広く世の中の仕組みを学ぶことができる学部です。経済学部では、会計・税務・金融の専門家、国家・地方公務員、グローバル社会で活躍する人材など、将来の志望に合わせた理想的な履修を選択することができます。

人々の生活に必要なものを生産して流通させている経済活動を研究対象とし、その歴史や仕組み、法則性についての知識を深めることができます。1年次には経済学の基礎となる「入門経

済学」や「マクロ経済学」、「微观経済学」を主に学びます。マクロ経済学では国レベルでの景気動向や経済成長について研究し、微观経済学では個人消費や企業活動の分析をすることができます。2年次からは自分の関心に沿った専門科目や応用科目を学びます。また、3年次からは希望制でゼミナールに入ることができ、より特定の分野を少人数で教授と研究することができます。

経済学部は、日本の経済を学ぶだけでなく、世界の経済を学ぶことができ、グローバルな人間に成長することができる学部です。



週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目							
2限目	経済統計論	経済法	経済成長論	租税論II	民法		
3限目	金融政策	日本経済論	経済学基礎数学II A組	英語VI 5組	英語VII 5組	練習&トレーニング	練習&トレーニング
4限目	英語IV 5組			経済史概論II			
17:00		練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング		
21:00	オフ						

基礎から応用まで体系的に学ぶ新カリキュラム

1年次から2年次前期まで「入門経済学」「微观経済学」「マクロ経済学」などで経済学の基礎をしっかりと身につけ、2年次後期からは自分の関心に沿った選択科目で発展的に学習。経済の深く広い知識を基礎から応用まで系統的に学びます。

将来の志望に合わせて豊富な専門科目から選択

会計・税務・金融の専門家、国家・地方公務員、グローバル社会で活躍する人材など、将来の志望に合わせた理想的な履修モデルを設定し、それに必要な専門科目を開講。進路に合わせた科目選択ができます。

少人数クラスで問題解決型人材へ成長

1・2年次には経済データに親しみながら分析ツールを学び、3・4年次には充実した演習や文献購読で深い専門性と多角的な見方を修得。少人数クラスより、現実社会への応用力のある、問題解決能力の高い人材を育成します。

現代経済コース

経済を深く理解できる社会人を目指します。経済学の基礎から応用まで幅広く学べます。

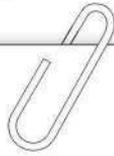
税務・会計インテンシブコース

経済と会計ができるビジネスパーソンを目指します。1年次からコースの基礎科目を学びます。

カリキュラム紹介

主な勤務先

みずほ銀行 / 三井住友銀行 / 住友信託銀行 / 積水ハウス / 住友林業 / 飛鳥建設 / TKC / ソフトバンク / ソニー・ミュージックエンタテインメント / 帝国ホテル / 富士通 / ワコール / ブルボン / 全業工業 / 国分 / セブン-イレブン・ジャパン / 東急ストア / ユニアドックス / みずほインターベース証券 / ワタベウエディング / 日本郵便



国際関係学部 International Relations

全学部生 ● 1,277人 男女比 ● 男434人(34%):女843人(66%)

吉川ひかる(2年)の場合

「国際関係学部の魅力」

国際関係学部には2つの学科があります。1つは国際政治、国際法、国際経済などを中心に学ぶ、国際関係学科です。また、国際関係学科は、5ヶ月間の留学プログラムをもっており、実際に世界を体験することができます。2つ目は多文化コミュニケーション学科です。この学科では異文化交流、言語学、観光学、文化人類学を主に学びます。また、学部名にもあるように英語に加え韓国語、中国語、インドネシア語、ヒン

ディー語、アラビア語、スペイン語の中から1つを必修で学ぶことができます。また、国際関係学部では週に4回のフレッシュマンイングリッシュに加え、週に1日パソコンでイーラーニングの授業を行い英語の基礎から学び、一人一人のレベルに合った授業を受けることができます。国際関係学部は、他学部にはない経験がたくさん出来る学部です。英語や留学、異文化に興味がある方は国際関係学部をお勧めします。



週間スケジュール

	M月N	T火	W水	T木	F金	S土	S日
1限目	環境科学 C組	スポーツ生理学			フレッシュマン ・イングリッシュ		
2限目	ヨーロッパの 芸術と文化II	スポーツの文化	テニス D組	フレッシュマン ・イングリッシュ	基礎ゼミ		
3限目	現代教養特講	情報リテラシー H組	中国語初級II 7組	国際英語II E組	中国語初級IV 7組	練習& トレーニング	練習& トレーニング
4限目	経済学概論	教育心理学 B組	経営学入門		道德教育の 理論と実践		
17:00 ~ 21:00	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング		

▶ 外国語によるコミュニケーション能力の習得

英語の学習を基礎としつつ(TOEIC600点以上を目標)、韓国語、中国語、インドネシア語、ヒンディー語、アラビア語、スペイン語の中から1言語を地域言語として選択し、1年次から本格的に学びます。

▶ フィールドワークによる現地体験型学習

国内外での現地調査(フィールドワーク)を通して、自分の感性で多文化に触れ、課題を葉発見する力を鍛えます。調査後の発表でプレゼンテーション能力の修得にも注力します。

▶ 社会人類学、社会学を柱とする多文化理解

アジア、アフリカ、中南米の文化から観光、宗教、多文化インターシップなど多彩なテーマの科目を用意。文化人類学、社会学を軸に、国際社会に役立つ幅広い教養が身につきます。

▶ 経済ビジネスコース

幅広い視野と判断力を身につけ、国際企業人や国際公務員など、世界で活躍できる人材になるために必要な知識を学びます。

カリキュラム紹介

▶ 平和政策コース

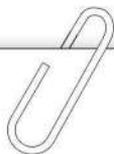
本コースでは、紛争解決や平和構築の問題を政治と法の側面から学ぶことで、海外で活躍するために必要な広い視野と深い洞察力をもった人材を育成します。

▶ 国際協力コース

開発途上国の経済発展や貧困、格差、感染症など開発問題と開発援助について、さまざまな角度から学びます。問題解決に必要な知識と、知識を現場で活用するための実践力を同時に養います。

主な勤務先

積水ハウス/ワコール/花王/資生堂/東芝/NHK/JR東日本/全日本空輸/ユニクロ/三井住友カード/ヒルトン東京/第一生命保険/セコム/外務省/警視庁/防衛省/ディスコ/ツツミ/明治安田生命保険/近畿日本ツーリスト/トランスコスモス/日本郵便



経営学部 Business

ホスピタリティ・マネジメント学科

全学部生 ● 624人 男女比 ● 男子137人(22%):女子487人(78%)

「経営学部とは」

経営学部には、私が所属する「経営学科」と「ホスピタリティマネジメント学科」の2つの学科があります。ホスピタリティマネジメント学科では、2016年4月より従来のクラブ領域を整備拡大しスポーツとホスピタリティを融合した「スポーツ・ホスピタリティ」コースを開設しました。ここでは「ホテル&ブライダル」「フードサービス」「パッセンジャーサービス」「トラベル」「スポーツ・ホスピタリティ」という5つのコースについて、「理論実務融合型教育」をベースに少人数によるゼミナール形

式の演習を行います。マネジメントスキルとホスピタリティマインドを涵養し、未来のホスピタリティ業界、スポーツ業界をリードし得るような実践的職業人を養成していきます。

経営学部では、社会に出たときに活躍できるような人材と、海外でも活躍できるようなグローバル人材の育成を目指しています。ぜひ経営学部に入ってみてはいかがでしょうか。

週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目	総合英語Ⅶ		テーマ研究(テニス)	生理学Ⅱ			
2限目		表現とメディアⅡ	ホスピタリティ基礎演習	スポーツマネジメント論	ビジネスリテラシー		
3限目	数学入門Ⅱ	日本史Ⅱ	英書購読		総合英語Ⅵ	練習&トレーニング	練習&トレーニング
4限目				スポーツボランティア	西洋文学Ⅱ		
5限目	練習&トレーニング	オフ	練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング		
17:00						フリー	フリー
21:00							

ホスピタリティ・マネジメント学科の学び

平成28年4月、従来の「クラブ領域」をスポーツとホスピタリティを融合した「スポーツ・ホスピタリティ」として設備を拡充します。「ホテルビジネス&ブライダルビジネス」「フードサービスビジネス」「パッセンジャーサービスビジネス」「トラベルビジネス」とともに、5つの分野について「理論実務融合型教育」を展開します。少人数制によるゼミナール形式の授業を2年次から4年次まで継続して実施することで基本的なマネジメントスキルとホスピタリティマインドを涵養し、未来のホスピタリティ業界そしてスポーツ業界をリードし得るような人材を養成します。

特徴

ホスピタリティ・マネジメント学科

平成28年4月、従来の「クラブ領域」を、スポーツとホスピタリティを融合した「スポーツ・ホスピタリティ」として整備拡充しています。基本的なマネジメントスキルとホスピタリティマインドを学び、未来のホスピタリティ業界、そしてスポーツ業界をリードし得る人材を養成していきます。

カリキュラム紹介

主な勤務先

東急建設/東芝/パナソニック/タニタ/JR西日本/ユニクロ/みずほ銀行/三井住友銀行/日本郵便/警視庁/ワコール
みずほフィナンシャルグループ/三井住友銀行

経営学部 経営学科 Business

全学部生 ● 1,582人 男女比 ● 男子980人(62%) : 女子602人(38%)



芳谷仁(2年)の場合

「将来の目標のために」

私が在籍している経営学部経営学科は1年次には経営学や簿記原理など基礎になることを学ぶことに加えて、レポートの作成に必要な技術を学んだりします。また、「インタビュー実践」という活動があり、自分が興味のある職業や企業などの話を聞いて、行動する力、聴く力、文章を書く力に加え、社会人としての基礎力も養うことができます。また、「基礎ゼミナール」では、企業や施設等の見学や実地調査などを行う「アクティブ・ラーニング」という活動もあります。このような活動を行うことによって、学生が

将来、役に立つためになにが必要でなにをしなければいけないかが明確になっていき、自分自身の役に立つと思います。2、3年次には、専門的な学問に入っていく、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」という4つの経営資源を管理するノウハウを学んでいきます。経営学部経営学科は企業の第一線で活躍する経営者から経営学を学ぶ「トップマネジメント特別講義」があります。実際、日本のトップの企業がどのような思考で政策を練っているのかなど直接聴くことができます。皆さんも是非、一緒に学びませんか。

週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目	フレッシュマン・イングリッシュ	流通・マーケティング D組	フレッシュマン・イングリッシュ	フレッシュマン・イングリッシュ	テニス E組		
2限目	経営学 D組	フレッシュマン・イングリッシュ	テニス D組	会計学 B組	フレッシュマン・イングリッシュ		
3限目	基礎ゼミナール	表計算の基礎と応用B組	中国語初級II 7組	数学入門II B組	中国語初級IV 7組	練習&トレーニング	練習&トレーニング
4限目	基礎数理II A組	ITリテラシー入門		データ解析入門 D組	統計学入門II B組		
17:00 ~ 21:00	練習&トレーニング	オフ	練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング		

聴く力を養う「インタビュー実践!」

オリエンテーション・ゼミナールでは、産業界で活躍する企業人への「インタビュー実践!」を導入。就職意識を高めるとともに、大学でなにを学ぶべきかについて先人の知恵を学びます。1クラス約15人の小人数制のゼミナールです。

特徴

行動力と主体性を養うアクティブ・ラーニング

基礎ゼミナールでは、約30のテーマの中から学生自身が興味あるテーマを選択し、自ら設定した課題について、実際に現場を訪れたり調査・分析を実施します。成果をプレゼンテーション形式で発表し、能動的に学ぶ姿勢が身につきます。

就業力を養う実践プログラム

経営学科では企業経営に関する多様な理論を学習しますが、修得した知識を現実活かすことを目的にトップマネジメント特別講義、インターンシップ、ビジネス体験プログラムといった体験型授業が設置されています。

経営学科

「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」という4つの経営資源を管理する。ノウハウを学ぶ。コミュニケーション能力や情報処理能力、数量的分析力といった幅広い教養と、企業経営に関わる専門的で実践的なマーケティング、経営戦略、会計、人材管理の知識を修得します。

カリキュラム紹介

主な勤務先

東急建設 / 東芝 / パナソニック / タニタ / JR西日本 / ユニクロ / みずほ銀行 / 三井住友銀行 / 日本郵便 / 警視庁 / ワコール / みずほフィナンシャルグループ / 三井住友銀行

全学部生 ● 589人 男女比 ● 男子362人(61%):女子227人(39%)

李光輝(2年)の場合

「都市創造学部とは」

私が在籍している都市創造学部とは、人々と企業・行政・地域をつないで、豊かな都市を創造するための学問を学ぶ学部です。

都市創造学部が目指しているのは、都市に活気と心地良さをもたらす未来の都市を計画し、実践できる人材の育成です。その為に、特徴的な学習をしています。

まず教職員の多くが、元々は企業で働いていました。その為、教科書だけでは学ぶことが出来ない、働く現場における実践的な知識を

教えてくれます。

また、IoTやビックデータの勉強など、これからの未来に必要な勉強をします。これらの知識を身につけることによって、未来都市のあるべき姿を考えるきっかけにもなります。さらには、これらの勉強を深めるために、フィールドワークによる都市の実態調査や留学とインターンシップもあります。

都市や社会のことを詳しく勉強したい方はすごく良い学部だと思います。



週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目	心とからだの健康学	フレッシュマン・イングリッシュ	情報リテラシー	アメリカ研究入門	フレッシュマン・イングリッシュ		
2限目	フレッシュマン・イングリッシュ	ビックデータ活用論	フレッシュマン・イングリッシュ	フレッシュマン・イングリッシュ	フィールドワークとデータ分析		
3限目	アジアのケーススタディ	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	テニス	数学入門	練習&トレーニング	練習&トレーニング
4限目	ゼミ		中国語初級		中国語初級		
17:00 ~ 21:00	オフ	練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング		

都市の未来を産業と社会から考える

都市創造学科では、産業と社会の観点で都市を考察し、都市の産業とそこに住む生活者の視点で社会のあり方を考えます。めざすのは、都市に活気と心地よさをもたらす未来都市のビジョンを打ち立て、実施する「都市創造人材」を育成。自治体などが公表するデータや都市に関するSNSの膨大な情報を活用し、最先端の知見を社会の全体像の中で理解するとともに、都市のニーズに合わせて活用する視点も養います。

特徴

フィールドワークを重視した双方向型学習

1年次のオリエンテーション・ゼミナールから4年次の卒業プロジェクト、卒業研究や社会調査実習まで双方向型学習を重視したアクティブ・ラーニング科目群が計画的に配置されています。必修科目の「フィールドワーク」では、渋谷や横浜などの街に出て、人々とコミュニケーションをしながら都市の実態を調査し、調査結果の発表も行います。

必修の海外&国内外でのインターンシップ

都市創造学科の留学は、単なる語学研修ではありません。アジア、アメリカなどの世界各国で英語+留学先の言語を学ぶと同時に、海外インターンシップで留学先の産業社会を体験するチャンスがあります。言語・文化の壁を自らの力で乗り越え、現地社会に飛び込むことで、留学先での異文化理解が深まります。

カリキュラム紹介

都市創造学科では、「シティサイエンス」を理解するために必要な経営学及び都市社会学領域を中心の科目を設置しています。

【学びのガイドライン】

■都市コンテンツ履修コース

文化、芸術、スポーツなどの多様なイベントから映像、音楽の制作、さらに店舗開発や商品企画まで都市の多彩なコンテンツづくりとその情報発信を担うプランナー、プロデューサーになるための実践的な知識を養います。ビックデータを活用した分析で都市の状況を把握し、企画や制作の現場を知り、人をまとめ、ビジネスとして成立させる「シティサイエンス」の新たな領域を開拓します。

■都市デザイン履修コース

優れた都市計画が街の競争力を高め、美しい都市景観が街の魅力を生み出し、都市デザインと一体化したビジネスが都市問題を解決します。このコースでは、そうした「都市を総合的にデザインする」ための多様な知識を学びます。特に「ビックデータの活用力」「スマートシティの構想力」など「シティサイエンス」の最先端の知識を実践的に学び、都市問題を解決していく人材に必要なスキルを養成します。

大学に入って、変わりました! こんなに

CASE 1 濱口昌孝(4年)の場合

私が亜細亜大学に進学を決めた理由は、コーチである森さんからの一言がきっかけになりました。「学校の七光りになるのではなく、唯一無二の濱口昌孝になってほしい。ブランドの中の自分になるのではなく自分がブランドになれるようになってほしい」と高校3年時に日の出のコートで言って下さったのを今でも覚えています。ここでテニスがしたいという気持ちは勿論ありましたが、なにより自分が本気になれる、人間的に大きく成長できる場所だと思ったことが1番でした。私は高校3年時にインターハイ団体3位、全日本ジュニアシングルスでベスト16という結果に終わってしまい、大学1年目から絶対に結果を出してやるという気持ちで出身である大阪から上京してきました。ですが現実には上手くいくはずがなく1年目2年目では全く結果はついて来ませんでした。自分を見失ってしまい、人生で1番苦しい時間になりました。様々な経験をした中でその際に私は、結果が全てではなく、プロセスが大切だと

いう事に気付かされました。どんなに結果がでなくても毎日毎日必死に一生懸命に頑張って笑って踏ん張って過ごす事に意味があると感じさせられました。今年ではインカレではシングルスベスト16、インカレインドアではシングルスでベスト8という結果になりました。私自身の考え方が変わり、テニスに対してや人に対しての考えに対してもこの2年間本気で自分と向き合っ、一緒に高め合える仲間がいて、ご指導をしてくださるスタッフの方々が出たからこそ成長できることが出来たと思います。また亜細亜大学は関東1部リーグ4位に所属しており、コートは10面あり、トレーニングセンター、400mトラックもありテニスをする環境ではどの大学にも負けないと思います。1番の魅力は毎日スタッフの方々が現場でご指導をして下さる所にあると思います。このような大学は他をみてもありません。誠実な人になれるように毎日自分と向き合う時間を大切にしている大学で個を鍛えられる最高の環境であると思います。



本気で自分と向き合っ、自分に挑戦してみませんか?一緒に本気になりませんか?日の出キャンパスで待っています。



森 聡詞
コーチ



から見た 濱口昌孝

入学当初、新しいものを取り入れようと自分のテニスに迷いがりました。必死に変わろうとする姿勢は、素晴らしい、ようやく自分を取り戻したのは、3年次インカレで単Best16に入ったぐらいからです。頭もプレーも切れがありオールラウンドにこなすテニスに積極的なネットプレーは、見ているものをワクワクさせてくれます。物事に真直に対峙する姿勢が、時にテニスにおいても迷路に迷い込んでしまう事もありますが、力をつけてきた昨今、抜け出す思考も身につけてきました。又同年インカレインドアでは単Best8と着実に地力をつけてきましたので、キャプテンとして迎えた最終学年での活躍が楽しみです。思い切っってプレーしてもらいたいと思います。

CASE 2 山崎郁美(2年)の場合

私が亜細亜大学に入学した理由は、プロへの準備期間となる大学4年間をここで過ごせば必ず強くなれると感じたからです。私は初めて亜細亜大学の練習に参加した際、衝撃を受けました。練習前のアップでは、サーブのスピード向上や正しい腕の使い方を学ぶ為に野球のピッチング、スイングスピードを上げる事やフォーム定着を目的とした重りを使っての素振りを行っていたり、練習に取り組む際に部員全員が練習メニューの意味や意図を理解して有意義な時間を過ごせるように工夫している姿、辛いトレーニングもみんながプッシュし合い高め合っている姿がありました。私は他大学にはない練習メニューや他競技のトレーニングを積極的に取り入れているところ、強くなるにはどうしたらいいのかと考え、お互いに意見を出し合っている先輩方の姿を見て、私自身もテニスをもっともっと探求したいと思い入学を決めました。

亜細亜大学はコート面数が多く、器具が豊富で本格的なトレーニングセンター、そして陸上トラックやサッカー場と設備が充実しており、テニスが大好きな人たちにとって最高の環境と言えます。又、スタッフの人数も多いです。堀内監督をはじめとする森コーチや長久保コーチそれぞれから、テニスの技術・戦術のみならず、かつて最前線で活躍していた経験や一人の大人として社会に出ていく上で大切な事など貴重なアドバイスをいただくことが出来ます。

私は高校時代、自分の試合のビデオを見て反省を行ったり、対戦相手の情報収集を事前に行って戦略を立てるなどはほとんどした事が無く、ボールを打っていない時間(亜細亜大学では「off the ball」)を疎かにして、毎日長時間練習するという事しかしていませんでした。しかし、高校3年から部活に参加させて貰い、「off the ball」の重要性、試合で戦う上でのテニスの知識を学ぶ事が出来ました。その結果、自分自身のスキルや身体能力で勝つという試合だけでなく、自分自身で考えて戦略的に勝つという試合が増えていき、春関東優勝・インカレベスト4・

インカレインドアベスト4という成績を残すことが出来ました。ですが私のテニスはまだまだ未完成です。周りに影響されず自分のプレーを貫く所やスロースターターな所、状況に応じての正しい選択をする事など課題はたくさんあります。個人としては学生タイトルを取るために、チームとしては王座優勝に導けるよう精一杯頑張ります。

みなさんもこの亜細亜大学と一緒に強くなりませんか!亜細亜大学で待っています!



長久保大樹
コーチ



から見た 山崎郁美

コートを縦横無尽に走り回り、躍動感あるプレースタイルは、この1年間多くの人々を惹きつけ、結果として多くの方々に応援して頂く事となりました。大学生となり初めて挑んだ、インカレ及び、インカレインドアでは、1年生ながらベスト4に入り、結果を残す事ができました。スピード・パワーなど、多くの部分で優れている彼女ですが、そんな中でも1番の魅力は、絶対に強くなるんだという「覚悟」だと思っています。どうすれば強くなるのか、どうすれば目の前の相手に勝つ事ができるのか...など、自ら考え、行動に移す事が出来る事は、今後選手として活躍していく上で大切な事だと言えます。今後も守りに入る事なく、多くの事にチャレンジし、新たな世界へ飛び込んでいってくれる事を期待しています。世界で活躍する選手になる為に、何事にも恐れる事なく前進してほしいと思います。



CASE 3 古藤嵩大(4年)の場合

私は、今まで勝てなかった相手に勝ちたいと思い、テニスをする環境が充実している亜細亜大学に入学することを決意しました。

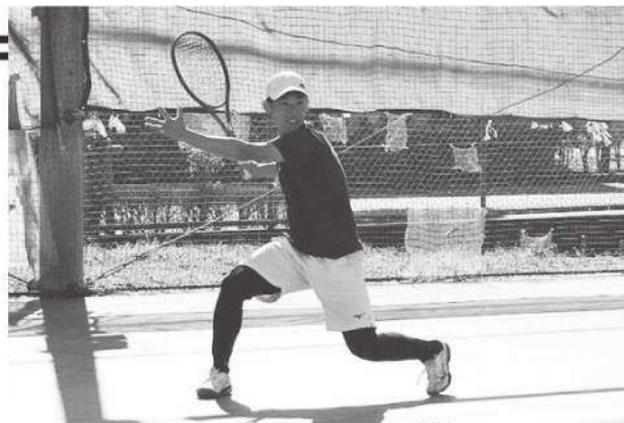
亜細亜大学のテニスコートは、ハードコート8面・オムニコート2面、400mトラック、設備の整ったトレーニングセンターがあります。たくさん練習ができることでテニスの技術力の向上を図れます。また、トレーニングもしたいときにできるので入学時よりも体格が大きくなり、フィジカルの向上もできます。コート上では、常にコーチがいてくださり、アドバイスがあればしてください。また、自分で答えを見つけ出すことでさらに成長することができるのは亜細亜大学テニス部の良い習慣であると思います。

私は、テニス部に入学し周りのレベルの高さに焦ってしまい、1年生の8月に膝の怪我をしてしまいました。他の選手と差がうまれ、2年生でも単複共に関東学生に上がることが出来ませんでした。コーチや部員の仲間が支えてくれました。そして3年生の春関では高校時代に何度も負けて

いた選手に勝利し、複ベスト8に入ることができ、インカレに出場することが出来ました。どんな時もコーチや仲間が支えてくれる心温かい場所です。コロナ禍の状況でも感染対策をしながら練習ができる環境作りもしてくださいました。

亜細亜大学は、毎年3月に学生主体で国際大会の運営も行っており、日本のプロ選手初め世界のプロ選手の試合を真近で見ることが出来たり、プロ選手と練習をすることもできます。学生自身が考えて行動することによって自分で考える力や仲間との協調性を学ぶことが出来ます。仲間全員と協力してつくる大会はかけがえのないものになります。また、定期的に行われる監督の講義はとてもためになるものばかりです。戦術のことやプレー中の考え方など知らなかったことが知れます。知識を増やしていくことで大学生活3年間でテニスに対する考え方も変わりました。

亜細亜大学はテニスをする環境が充実しており、人間的にも成長することが出来ます。一部リーグ4位に位置する亜細亜大学で私たちと共に成長しましょう!



森 稔詞
コーチ



から見た
古藤嵩大

抜群の反射神経の持ち主で、ダブルスでのネットプレーは目を見張るものがあります。小柄ながら繰り出すショットは、どれもキレがあり戦績とのギャップに驚きをおぼせません。もっと全国レベルでの活躍が出来ると思っています。物事を真正面に受け止めてしまう性格から、緊迫した状況下でのプレーに自らプレーキを掛けてしまうことが課題ですが、思考力を鍛えている今、これからの活躍に期待が持てます。4年生となった今年、俊敏なプレーで多くの人を楽しませ、勇気を与えるプレーを見たいです。そして、最後はコート上での嵩大の大きなガッツポーズを見せたいと思います。



CASE 4 吉川ひかる(2年)の場合

私が亜細亜大学に入学した理由は、テニスが強くなる環境が整っているからです。ハードコート7面、オムニコート2面で全てのコートにナイター設備があり、一日中練習をする事が出来ます。他にも、トレーニングセンターや陸上トラックなどの設備が充実しており、技術面は勿論の事、自分自身一番の課題であるフィジカル面を鍛える為に最適だと思いました。又、指導者が充実しており、一人一人に対してアドバイスを下さるので、今までなかった発想や気付きなど多くの事を学び成長出来ると感じたからです。

高校生の頃の私は、走る事が苦手なトレーニングをあまり行ってきませんでした。その為、短距離や長距離、フットワークトレーニングで人より遅く体力もありませんでした。練習でもいつも後の事を考えてしまい、全力を出し切れない事がありま

した。全力を出し切れない癖が付いてしまった事で、自分自身を追い込む事が出来ず、自分の限界を超える事も出来なくなりました。自分に甘えていた事で高校生最後の年にとっても悔しい思いをしました。このままでは大学に入っても勝つ事が出来ず、私の目標である日本一を達成出来ずに終わってしまうと感じたので、関東リーグ1部リーグに所属しており、コート面数や指導者などすべての面で環境が整っていて、自分の限界を超える事が出来る亜細亜大学に入学を決意しました。入学当初は今まで妥協していた事もあり、練習やトレーニングについて行くのがやっとで、怪我をしてしまう事が多く、上手く行かない日々が続きました。しかし、出来なくても最後まで挑戦し、同期や先輩方と支え合いながら行った事で乗り越える事が出来ました。今までの様にただ教えて貰うのではなく、部員同士でメニューを考え一人一人がその意図を理解し質の高い練習が出来ているので、技術だけでなく自主性や戦術を身に付けました。その他にも、毎日必ずスタッフが熱心に指導しアドバイスをしてくれます。学生大会以外にもjop大会や海外遠征にも足を運んでくださり、アドバイスを頂けるので自分に足りない所

を直ぐに練習する事が出来ます。その結果、個人としては1年生でインカレに単複本戦に出場する事が出来ました。団体としては、コロナ禍でリーグ戦がありませんでしたが、来年はチームの目標である王座優勝を出来る様に一日ずつしっかりと練習に取り組んでいきます。

亜細亜大学は技術面、メンタル面、フィジカル面の全てを鍛える事が出来、今までの自分よりひと回りもふた回りも成長出来る様にしてくれます。皆さんも私達と一緒に強くなり日本一を目指しましょう!



長久保大樹
コーチ



から見た
吉川ひかる

ジュニア時代から、全国大会でも活躍してきた選手です。サウスポーから速いテンポでアグレッシブに仕掛けていくテニスは、大学に入ってから多くの選手を苦しめてきました。また、ダブルスでは果敢に動き回り、大学生となって初戦の関東学生でも、持っている力を十分に発揮し活躍しました。そんな才能豊かな彼女にも「サービス」という大きな課題があります。今でも、サービスから崩れ、もったいない敗戦を繰り返してきました。そんな課題に対して、どう考え、どの様に改善していくのか、嫌な事から目を背ける事なく、1日1日を大切に取り組んでいってくれる事を期待しています。「サービス」が自分の武器となった時、これまでと違った世界で活躍する選手となっていく、と信じています。

2003 Australian Open Review

亜細亜大学、メルボルンへ行く。

「大学に行ったら 世界に行けないなんて 言わせない」

2003年1月、賑わうオーストラリアン・オープンの会場内を
ウロウロする日本人学生のグループがいた。

全国でもトップクラスを誇る亜細亜大学テニス部のメンバー6人。
彼らは世界最高峰グランドスラムを
「観る」という「意味」を持ってそこにいた。

文◎吉松忠弘 写真◎高野 徹
記事提供◎テニスマガジン(2003年5月号)

学校教育とクラブスポーツ、 大学テニスの共存

学校教育とスポーツは、それほど切り離さなくてはいけないものだろうか。昨今の論調は「地域に根ざすクラブスポーツ」を題目に、学校体育を批判し、「学校など」という形容詞で、短絡的にスポーツ強化のためには学校（日本的な記憶・暗記教育のことではあろう）は「害」と指摘する。

しかし、現実主義者から見ると、そう簡単にことは運ばない。落伍者は「失格」という価値観を共有したい大多数が、あと戻りできない社会を形成している以上、その中で「安定」や「慎重」を求めることは決して責められない（好き嫌いは別として）。

国際通とか海外志向の高い指導者や関係者はその現実を無視し、「もっと海外に」やら「学校なんか」と言う。ならば世界でも高水準にある約97%の高校進学率、約50%の大学進学率（平成15年度文部科学省の教育指標の国際比較から）は無意味なのだろうか。その率が減り、学校体育がなくなり、義務教育が終了すれば、スポーツにかける人が増えることが得意の「文化の創造」ということだろうか。そして日本国民は本当にそれを望んでいるのだろうか。

壮大なテーマになり、それを解説することがこの本道ではないので割愛する

が、現時点で中等教育以上（義務教育以降をこう呼ぶ）の学校を無視はできない。クラブスポーツも裾野を広げることが重要であり、つまり共存するしか日本の将来は見えてこないだろう。

その中であってテニスも同じ悩みを抱える。特に究極の個人スポーツであるテニスは、若年層からの強化が重要視されており、それは学校教育となかなか相容れない。高校までなら18歳以下というジュニア枠に入り、まだ救いはあるだろう。しかし大学のテニスは、日本でもっとも忘れ去られた存在である。日本のテニスには、ジュニア、社会人、プロという構図しかないようにも思える。

ただ、この先、クラブスポーツや学校体育の共存を考えるなら、大学テニスも無視するわけにはいかない。そして大学テニス自身も、自ら動き出す必要がある。今年のオーストラリアン・オープンで、亜細亜大学テニス部がとった「観戦」という行動は、文字にしてみると他愛のないことだ。しかし、少なくとも共存への小さな一歩だったことだけは確かである。

選手とコーチに必要な 目標に対する逆算の理論

音頭取りは、OBで昨年（2002年）の4月からコーチに就任した森稔詞だった。森はグランドスラム本戦出場を経験して

いないが、予選には数回チャレンジしている。その自分より才能がありそうないまの大学生が、手をこまねいているのが歯がゆかった。

「本気でチャレンジすればできないことはない。できないと決める方がおかしい。だったら行ってみよう。僕自身もいまのグランドスラムを見ていなかったから、学生全員にメールを出して、自費だけで行こうと誘った」

自費の有志なので遠征ではない。集まったのは、男子で昨年インカレ・ベスト4の宮崎靖雄、同ベスト8の比嘉明人、01年関東学生新進戦ベスト4の平良和己、女子で01年インカレ・ベスト4の北崎悦子の4人である。

しかし、この4人に森、堀内昌一総監督を加えた6人がオーストラリアン・オープンに来て、観戦して帰ったというだけなら、残ることは稀薄に違いない。

「驚き」や「感嘆」が彼らを揺さぶるに違いないが、それだけだ。時間が経てば、少なからずとも消滅する。まして20歳代は、精神よりも実体験だ。物理的な接触到に優るモノはない。森は、その体験を学生たちにさせた。宮崎、北崎を予選出場に挑戦させ、宮崎は予選のサインアップまでたどり着いた。

「運営の人たちが、何でおまえなんて来ているんだって、冷たい視線なんですよ。このランキングでよくここまで来たなんて。あー、ここは実力世界なんだなと、ランクを上げないとダメなんだなと思いましたね」

宮崎の世界ランキングは1116位。もちろん出場には、通例なら箸にも棒にもかからない。しかし今年の予選は欠場者が続出し、出場者の最低ランキングは904位にまで下がった。チャンスは本当に目の前に転がっていたのである。しかし、そこに選手がいなければ出場できないのは自明の理だ。

北崎はエントリーをしていなかったため、予選のサインアップはできなかったが、予選初日にラッキールーザーのサインアップができた。

「初めは自分なんかサインアップしていいなって思ったんです。引き気味でした。でも、試合を見ていたら、何倍も努力しないとダメだけど、私でも何とかできると。それに、ここに自分が立っていたらと思いつきながら、試合を見ることができたのは大きかったです」

Melbourne



比嘉と平良は、先のふたりのような体験はできなかったが、会場で練習を決行する。もちろん厳密に言えば、選手でもない人間がコートを使用するのは違反だ。予選の最終日に、朝7時半から空いているコートを見つけて4人で練習をした。そのぐらいの厚かましがなければ、世界のテニス界ではやっていけない。

「心構えからして、ここで戦っている選手は違う。勝つ意識や執念がすごい。技術とかいう以前の問題で、気持ちから入れ替えないと」

比嘉は話す。平良も同様だ。

「僕と同じくらいの身長 of の選手もいて、できないことはない。でも、彼らは勝たなきゃ食えないんだという意識がすごい。日本ではありえないですから」

彼らは帰国する前の日、念願だったセンターコートに初めて入り観戦した。

「ここに立てるようにならないとダメなんですわね」

北崎は、こうつぶやいた。

堀内監督はもっと早くこれを見ていたら、と少し悔やんだ。堀内監督は世界を知らないわけではない。テニスでアメリカの大学に留学し、また日本のジュニアの監督としてもウインブルドンに遠征したりしている。しかし大学の教員、監督という枠は多くのしがらみを生み、実質的に世界から遠ざかっていたことも確かだ。

「実際にそこにいないと逆算できないんですね。カレッジに行ったら世界に行けないなんて言わせたくない。そのためには選手もコーチも逆算じゃないとダメなんです。関東学生取ったらインカレ。インカレ取ったら全日本というプラスじゃなくて、グランドスラムがあって、そこに行くにはインカレや全日本があるという逆算じゃないと。そのためには、グランドスラムを実感していないと言えないし、選手も実感できないんですよ」

わずか10日ほどの滞豪だった。しかし6人が感じ、肌で触った日々は誰にも教えられないことである。そして問題はここからなのだ。この10日間が実を結ばなければ何も意味はない。

杉山愛は、27歳にしてテニス人生最高の瞬間を、ティアIIのステートファーム女子クラシックの単複優勝で飾った。遅いということはない。そして、それはステップを踏み出さなければ、いつまで経ってもやってこない。



堀内昌一総監督

「僕が監督になったのは大学王座やインカレを最終目標にするためじゃない。大学は自分の力を伸ばすことが目標。そのためにはもう一回、自分がいろいろなことを見ないとダメになる。原点に戻ってみるとそこには夢があったはず。だから選手にはカレッジに夢を持って来てほしい。その夢を与えるのが僕ら自身の挑戦でもある」

北崎悦子(2年)

「雑誌とか見ていて夢の舞台だったのが、現実に見て気持ちの面では変わらないと感じた。(グランドスラムは)日本とテニスを盛り上げる環境が全然違う」

森 稔詞コーチ

「大学3年のときにJOP大会で貯めたお金でオーストラリアとアメリカのサテライトに初めて行った。そのときに感じたことを同じいまの大学生に味わってもらいたいと思っている。頂点を見ていけば、この先リアルに映像として残るはずだから」

宮崎靖雄(3年)

「(オーストラリアに来て)テニスに対する考え方が変わった。特に本村(剛一)さんに勝ったエスケデは、ショットは同じなのに体力や展開が違う。すごく印象的だった。みんな宿舎ではラケットに鉛を貼ったりして、“これで外国選手の重い球に負けないかな”などと言ったりしていた」

比嘉明人(2年)

「ジャパンオープンくらいしか見たことがなくて、そのジャパンオープンでもすごいと思ったのに、こっちはそれ以上だった。もっと体とか強くないと戦えない」

平良和己(2年)

「周りの雰囲気違って、観客もすごいし、圧倒された。選手たちのボールを打つタイミングも全然違うし、ミスで決まらない」



Special Interview

今年プロ転向する学生4人の
これからとその実態に迫る!

亜細亜から 世界へ

参加者 高見澤 岳飛 選手 / 堀内 竜輔 選手
熊坂 拓哉 選手 / 松田 美咲 選手



—— インカレインドアお疲れ様でした!
インカレインドアを終えて率直な感想を教えてください。

高見澤:最低ラインの目標は達成できましたが、それ以上いけなかったことは悔しいです。

熊坂:チャンスがあっただけに、勝ちきれない弱さを再認識させられた大会でした。

堀内:全然うまくいかなかったからなー(笑)。ダブルスはチャンスがあっただけに悔しいです。

松田:2連覇できたことは嬉しいですが、1回戦から準々決勝までは試合内容が良なくて…。

気持ちの面でも苦しいことが多かったですが、準決勝決勝は、楽しんで試合が出来たと思います。

熊坂:凄いね。あそこで楽しめるなんて。

松田:1回戦から準々決勝まで苦しすぎて、1回戦とかもう泣いていたもん(笑)

堀内:1回戦は楽しめないよね。

一同(笑)

インカレインドアの裏側にはそんなエピソードがあったのですね!驚きです!

—— プロになろうと思ったきっかけ、要因を教えてください。

高見澤:自分の限界に挑戦したかったからです。

熊坂:1年生のときに、全豪オープンセンターコートでプレーしている選手を生で見、
自分もここでプレーして勝ちたいと思ったのがきっかけです。

堀内:まだやり切れてないので、ここでやめると後悔しかなかなと思っています。

松田:テニスを始めた頃からの夢でしたが、

高校生の時に全国大会で勝てるようになってから本格的に意識し始めました。

—— プロ転向を機に新しく始めた、
始めようとしている取り組みなどはありますか?

堀内:新しい環境にトライしていく事かな。どんどん外のプロと練習したり、
海外を回って試合したり、練習したりが重要だと思う。

高見澤:自立。これに尽きるかな。

熊坂:強い選手が集まるところに飛び込む事。

フューチャーズを回るにしてもアジア圏だけでなく、
ヨーロッパや南米にトライして、強い選手から色々学んでいきたいと思っています。

あとは、クレートコートとか日本人あんまり慣れていないし、
苦手だと思うから、苦手だからこそトライしていくことが大事なかな。

松田:私も自立っていえば自立だけど、今まではコーチに予定だったり、
休みだったりを組んでもらっていたので、
プロになってからは自分のフィジカルだったり休養を含め、
自分で考えていきたいと思っています。





—— プロになってからの
一番の目標を教えてください。

高見澤：グランドスラム出場！勝ちたい！
熊坂：全豪のロットレバーアリーナに立って勝つ！
堀内：デ杯選手になる！
松田：世界ランキングトップ10に入って、
世界中の人々を自分のテニスで笑顔にしたいです！
堀内：トップ10!？
高見澤：すご（笑）
熊坂：かっこいいな（笑）
松田：馬鹿にすんな!!
熊坂：してない！全然馬鹿にしてない（焦）
一同（笑）



—— 亜細亜大学のテニス部に入学して
学んだことを教えてください。

熊坂：それはいっぱいあるなあ。
高見澤：確かに（笑）。サービスはすごく良くなったと思う。特に確率を意識して練習するようになりました。
堀内：リーグ戦は負けられない試合を経験できるから一番強くなると思う。
監督やコーチが入ってくれるベンチコーチや自分の試合のスタッツを見たりして凄い勉強になるね。
高見澤：俺、1年生の時リーグ戦13連敗したけど（笑）。けど、その経験が成長に繋がったと思う。
松田：決断力！試合中どこで攻めるべきか、守るべきか。
まだ全然できてないけど戦術っていう部分を監督の講義だったり、本を読んで勉強できたと思う。
熊坂：俺も決断力っていう面を教わったと思う。

—— 最後の質問です。
プロの世界で勝っていくために何が必要だと思いますか？

熊坂：サービスキープは必須だから、サービス力を上げることは重要だと思う。
サービスを変えるために、肩甲骨だったり、上半身周りの柔軟性を上げて可動域を広げる。
それを使えるようにすればスイングの幅が広がり、回転量が多いサービスが打てるようになると思います。
堀内：めっちゃ具体的だね。
高見澤：すべてが必要だと思うね（笑）
堀内：フィジカル！体力かな。怪我しない体づくりは大切だと思う。
そのために、トレーニング、栄養、休養のバランスは重要になってくると思います。
松田：テニスをプレーすることを仕事にするという覚悟。
堀内：覚悟って具体的にどんな感じ？
松田：うーん。例えば試合中の態度だったり、
1ポイントに全力を出しているかなど、もう学生じゃないし、
それを仕事に生活していくっていう自覚を持つことかなあ。
堀内：なるほどね。
高見澤：俺ちょっと抽象的すぎるな（笑）。
すべて必要だけど、やり続けるタフな精神力と体力は特に必要だと思います。



インタビューを終えて…

今回、プロ転向の対談インタビューを担当させて頂きました！
先輩方はプロ転向後の目標やビジョンが明確で、学生の時よりも更なる飛躍が期待できると感じました。
また、普段の日常やインカレインドアの裏側など、普段聞けないお話を聞けたりと楽しいインタビューとなりました。
これから亜細亜大学から世界で活躍する姿が楽しみです！
自分も先輩方の勇姿を見習って、一日一日を無駄にせず、全力で過ごそうと思いました。ありがとうございました！

経済学部経済学科2年 日野 知紀



卒業生、それぞれの道

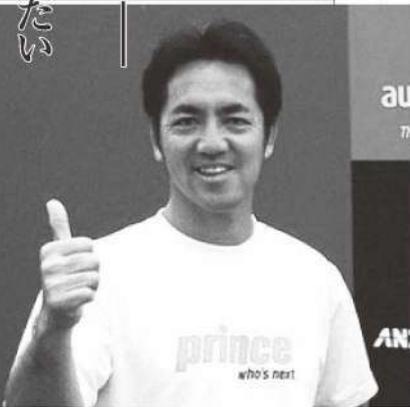
--- 指導者へ --- To a Leader

「自分を信じ続けること」
選手たちに伝えながら、
世界にチャレンジしていきたい

高田 充

(JTAナショナルチームナショナルコーチ)

監督に言われてきた



平成3年度卒業の我々は堀内監督が亜細亜大学に入り、強化を始めた最初の学生です。私は他の大学の推薦もいただいていたが、夢をもった監督のもと、そして同期の素晴らしい選手と亜細亜でいっしょに活動がしたいという強い思いで、堀内監督をお願いして受験させていただきました。

大学生活では、学業、テニス、部活動と充実した時間を過ごし、社会に出る前の準備をすることもできました。当時の衛藤学長からもテニスが強だけでなく、人間力を高めるという考えのもと、大学4年間教育を受けられたことは、現在の私にとって大きな財産となっています。

沖縄出身の私にとっては2、3月のセミナー春合宿はかなり寒く、たいへん厳しいものでした。夕方からの10kmランニングなどは、正直逃げ出したくなることもありましたが、それを乗り越えることにより自信をもつことができたのも事実です。

大学リーグの団体戦では7部で（ひとりだけ）敗戦するという屈辱も、そしてチーム全員で成し遂げる喜びも味わうこともできました。自分の夢、目標に「チャレンジ」することを常に掲げて活動し、高校時代に戦績のほとんど

ない私が、全日本選手権で優勝し、グランドスラムも経験できたことは、亜細亜大学で経験した4年間、そして堀内監督から言われてきた「自分を信じ続けること」ができたからだと確信しています。

高校生の皆さんには、自分の可能性を信じ、目標をもって努力を継続する——言葉でいうのは簡単ですが、それに向かって「チャレンジ」する4年間であってほしいと願っています。それを実現できる環境はここにあります。

私は現在、ナショナルコーチとして活動しています。ナショナル選手のツアーに帯同して、常に強化を図り、レベルアップすることを心がけています。

デビスカップでは29年ぶりにワールドグループ入りを果たし、世界ランキング100位以内に3名が入るという目標も達成しました。今後も堀内監督に言われてきた、「自分を信じ続けること」を選手たちに伝え、世界に「チャレンジ」していきたいと思っています。

たかだ・みつる◎1969年9月26日、沖縄県生まれ、亜細亜大学出身。朝日生命退社後、2000、02年全日本選手権複優勝。03年岩瀬聡プロのツアー同行、03～06年杉山愛プロのツアーに同行。03、04、07、08年とフエド杯日本代表チームのコーチ。11年からデビスカップコーチ、男子ナショナルチームの指導にあたる。(公財)JOCアシスタントナショナルコーチ、(公財)JTAナショナルチーム、ナショナルコーチ(男子担当)、S級エリートコーチ

私が亜細亜大学進学を決めたのは、堀内監督からの1本の電話でした。高校2年生の夏に父親を亡くした私は、その後、糸の切れた凧のように、自分がどこに向かっているのかさえ理解しておらず、正直、自分の将来について真剣に考えていませんでした。

ただ、「なんとなくテニスが好きだからテニス活動がしたい」と漠然な思いをもっていた私に対して、堀内監督の「テニスが強くなりたかったら亜細亜大学に来い」という電話越しからの情熱的な言葉。私に亜細亜大学入りを決意させるのに時間はかかりませんでした。

実際、大学に入学すると、同じ学年にいた多くのライバルたちといっしょに過ごす刺激は、私に大きなモチベーションを与えてくれました。今でもよく憶えているのが、合宿での朝から夕方まで練習をして疲れきったはずなのに、夕食後にナイターのフリー練習を欠かさず行っていたことや、部活が休みの日に学校の近くのコートをみんなで借りてお金を出してまで練習していたことです。

また、いま考えると当時嫌だった、先輩後輩の上下関係を経験したことは、その後の活動において、コミュニケーション能力や忍耐力とい

った、社会に出てからの重要な能力をつける修行期間であり、大きな財産となっています。

私は運よく大学4年のときに全日本選手権で複優勝（佐藤博康）という結果を出し、ミキプルーンに就職できました。ミキプルーンではプロのような活動を8年間送ることができました。その後はナショナルコーチとして日本代表選手の強化に携わり、10年目になります。

人生は「自分の決断」でどんなことでもできるとしています。しかし、多くの選択肢を自分だけでは探し出すことができません。もし、この文章を読んでくれた高校生、ならびに両親、コーチがおりましたら、亜細亜大学を選択肢のひとつに入れて、真剣に自分の人生を考えていただければと思います。

こまだ・まさふみ◎1973年3月30日生まれ。愛知県出身。名古屋卒。90年U18全日本ジュニア複優勝。91年亜細亜大学入学。94年大学王座優勝。全日本選手権複優勝。95年ミキプルーン就職。ミキプルーンで選手活動を8年間行ない、JOP(現JTA)最高単9位。その後はコーチへ転身。現在は竹内庭球研究所をベースに指導者の道を歩む。日本テニス協会ナショナルコーチ、16歳以下女子日本代表監督。S級エリートコーチ

駒田政史
自らの決断で選んだ亜細亜大学、
間違っていないませんでした
(竹内庭球研究所)





私は、亜細亜大学を卒業後、弟の西岡良仁をはじめ、様々なプロ選手のコーチング、ヒitting、サポートをしています。ですが、私もプロを目標にして生きてきました。現実には厳しく、結局、結果を出すことができずには夢を諦めました。今までは明確な目標があった人生でしたが、急にそれがなくなったことで、自分のことが全くわからなくなりました。自分は何がしたいのか、何ができるのか、何のために生きたいのかわからなくなっていたのです。そんな時、良仁が「一緒にツアーを戦わないか」と言ってくれました。そこで初めてツアーコーチとしての経験をすることとなったのです。私にとっての第一歩でした。そこで感じたことは、「自分から求めることが当たり前の世界」ということです。ツアーの現場では誰も与えてはくれません。だからこそ、自己アピールがMustな世界です。自分から行動しなければ、何も得ることができないということを知りました。同時に、とてつもないやりがいも感じました。プロ選手のコーチは、元プロ選手や有名な選手にしかできないといったイメージがあると思います。実際ツアーコーチとして、この年齢で活動している人はいないと思います。でも、私は取ってそれにChallengeすることを決めました。そのきっかけとなった言葉が、There is no time like the

presentです。直訳すると、思い立ったが吉日という意味になります。今やろうとしていることは、私にしかできないことかもしれないと思い、気づいた時には走り出していました。それから、私はあらゆる現場を経験させてもらいました。必死に何かを成したい、学びたいといった姿勢は必ず誰かが見てくれています。私はたくさんの方々に手を差し伸べていただきました。格好悪くても、周りから批判されても、自分自身を信じること。やりたいことに誠実であることが、きっと誰かの心に響くと私は思っています。出会いは必然です。必要な時に必要な人と出会うようにできています。きっとそれに気づくことが大事であり、難しいことだと思います。だからこそ、選んだ道を信じていくしかないのです。そしていつか、やってよかったと思える人生でありたいと思います。「今」を、そして「出会い」を大切にしてください。

にしおかやすお◎1993年10月8日生まれ。三重県出身。四日市工業高卒。12年亜細亜大学入学。16年に本大学を卒業後、ツアーコーチとして活動中。西岡良仁、澤柳璃子のサポートをはじめ、プロ選手、ジュニアの強化、育成に関わる。グランドスラム、ツアー大会の帯同経験あり。17年4月より、スペインのバルセロナにあるテニスクラブ「Club Mollet」を拠点に、ヨーロッパ、クレーコートのテニスを学ぶ。

西岡靖雄

（ツアーコーチ）

出会いは必然
大事なものはそれに気づくこと

岡村麻千香（旧姓辻）

堀内監督の言葉
「大学生は未来への通過点に過ぎない」を胸に秘め
信じ続けた自分への挑戦。

（株式会社ツカダプランニング
浦和パークテニスクラブ
アシリートアカデミーアドバイザー）

私が高校3年生になると、両親もコーチも含め周りの人に私の将来性や可能性など測られているように感じました。もっとテニスが強くなりたいのに、お世話になった方の薦めやつながりのある大学などを紹介され、何が正しいのかわからなくなっていきます。大切なのは自分が納得いくまでやりたいかどうかだと思いました。高校3年生の時見学させていただいた、先輩方の練習する姿、堀内先生のご指導と環境作り・理念に感動しました。

当時、受かる見込みが低いと思いつつも受けたセレクションには、各地域のトップ選手がいて私はビリだったと思います。

セレクションから合格発表までに全日本選手権があり、セレクションではビリだから受かるには予選通過するしかない思い、死に物狂いで試合に臨み、無事本戦に上がりました。その後、合格の連絡が来たときは、4年間悔いのないようにしようと心に決めました。

亜細亜大学は他の大学に比べて、インカレ・大学王座などの学生大会以外にJOP大会やITF大会にも挑戦できる機会が多く、堀内先生もコーチも毎日ご指導くださりテニスを磨くには最高の環境でした。

堀内先生は「大学生は未来への通過点に過ぎない。自分に線を引くな。」と常におっしゃって

いて普通ならインカレや大学王座を重視し、4年間で終わるのかなと思っていたところ、こんな私でももっと先の夢を見ていいのかな、と思い始めました。

それから私は今しかできないことを全力でやり、苦楽を共にした仲間と大学王座で日本一になり、就職も日本リーグで活躍できればと考えて朝日生命に入り、5年間戦うことができました。

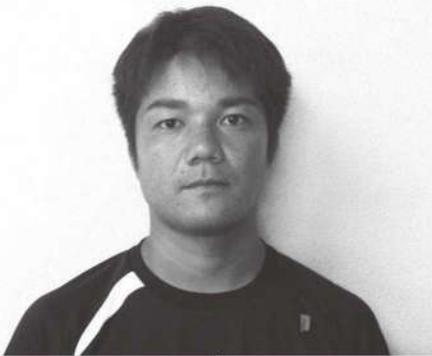
大学時代を振り返って思うのは、頑張れる環境と指導者・同じ目的を持った仲間がそろってこそ悔いのない時間が過ごせるということです。現在はジュニア育成に携わっていますが、ジュニアを卒業してからが本当のスタートだということを20年間変わらず伝えていきます。

私が高校3年生の皆さんに何かお伝えできるとしたら、スタートはこれからだ、ということです。本気で強くなりたい人が本気でテニスができる環境に身を置くことが大切だと思います。是非、亜細亜大学で自分自身にチャレンジしてください。

おむらまちか◎1971年5月14日生まれ。石川県金沢市出身。石川県星稜高校・朝日生命実業団5年。87～89年インターハイ・全日本ジュニア単複出場。88～97年全日本選手権出場。91年インカレ複8・93年単ベスト32。91年石川県体連優勝。日本リーグ3位。朝日生命退社後、浦和パークテニスクラブにて選手育成コースを立ち上げ活動している。



（沖縄尚学高等学校）
平良和己
 高校時代に歯が立たなかった
 選手に勝ったとき、亜細亜で
 間違いなかったと思いました



6歳でテニスを始めて、高校まで地元・沖縄で活動しました。高校時代はインターハイで団体ベスト8に入るも、個人戦は1、2回戦負け——どうしてももっと強くなりたかった——。関東1部リーグではない、偏差値の高い名門の大学にも誘われましたがまったく興味がなく、全国のトップ選手が集まり、10面のテニスコートとグラウンド、トレーニングセンターなどの素晴らしい環境、そして堀内先生の指導に「ここだ!」と感じて亜細亜の門を叩きました。

4年間の学生時代は、大半をテニスに費やしたと言っても過言ではありません。沖縄にはない素晴らしい環境の中、全力プレーできることに、いままでにない充実感を覚え、毎日テニスコートを走り回り、自分なりに限界を目指してきました。そんな中で高校時代にはまったく歯が立たなかった選手に関東学生で勝ったとき、亜細亜を選んで間違いなかったと感じました。リーグ戦、大学王座といういままで味わったことのないプレッシャーの中での試

合は、いまとなればとても良い経験だったと思います。人生であればどのプレッシャーはなかなか味わえるものではありませんから。

現在は高校の教師として教壇に立ち、放課後は部活を指導しています。もともと教師になるとは思っていませんでした。何となく4年間で免許が取れるならと思い、3年次から教職授業を受け、社会科の教員免許を取得しました。亜細亜のテニスクリニックで人にテニスを教える楽しさを感じ、いままでの経験を地元で伝えられたらと思うようになったのです。堀内先生、森コーチの指導は、いまの私の部活指導の基本になっています。亜細亜での経験が、教師となったいまの私を支えています。

大学4年間で目標を達成するために、誠実にテニスと向き合い努力することで、人として成長し、社会で認められる人間になる——亜細亜はそれができる場所です。目標があるなら、私は亜細亜を選んでほしいと思います。

たいら・かずみ◎1982年6月29日生まれ。沖縄県出身。沖縄工業高校卒。インターハイ団体ベスト8。01年亜細亜大学入学。04年新進ベスト4、春関東ベスト8。04年大学を卒業。05年日本体育大学で体育教員免許取得。06年沖縄尚学高等学校体育教員に就任、現在に至る

中学の部活からテニスを始め、正直ここまでテニスに関わる人生になるとは思ってもいませんでした。これまで様々な分岐点で大事な決断やたくさんの人との出逢いがありました。中学でも高校でも納得のいく結果が残せず、もっと強くなりたい思うようになりました。

部活でテニスを学んできた私は、日本だけでなく世界に視野を広げた指導者のいる大学に進学を決めました。そこは、本気になれる素晴らしい環境でした。

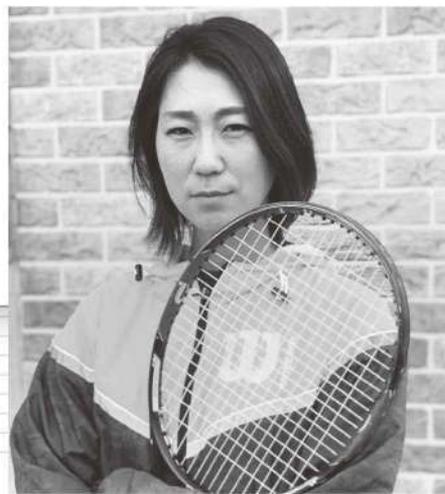
本気で上を目指す人たちの集まりについていくので必死でしたが、辛く厳しい毎日の中で、仲間と共に味わう感動が何よりも自分を成長させ、強くなったのだと感じています。そこで得られたものは、テニスの技術だけではなく、テニスクリニックなどを通じて人との繋がり、教える楽しさ、喜びなどを学び経験させていただきました。また、全豪に行き全日本の選手の方たちの合宿に加わり、お金には変えられない価値のある経験をさせていただきました。

現在、教師をやりながらテニス部の顧問をしています。私自身結果を残せたわけではありませんが、不完全だからこそ目的を果たすために何が大切かを伝えられるかと思っています。教師なんて1ミリたりとも考えていませんでしたが、亜細亜大学で培ったものや堀内先生との出逢い

が私を変えました。テニスの面白さや人に教えることの楽しさそして、仲間と共有することのできる目的があることの素晴らしさを亜細亜大学で教えていただきました。どんなに強い選手でも努力なしでは成果はないということを子どもたちに伝えています。

誰かの下で、どんなに良い環境があっても、何をどのようにしていくか、目的がなければどこにいても同じだと思います。本気になるかならないか、その分岐点は自分の中にあります。テニスを追求し本気になれる亜細亜大学は、自分次第で最高の場所になると思います。

えんどう・まりこ◎1983年7月11日生まれ。埼玉県出身。浦和学院高校卒。01年インターハイ団体ベスト16、複出場。全日本ジュニア18歳以下複ベスト16。02年亜細亜大学入学。05年インターハイ複出場。06年大学卒業。社会科教員免許取得。07年日本体育大学で体育の教員免許を取得し、翌年、学校法人明星学園浦和学院高等学校の教師として就任。16年日本大学三島高等学校の教員として就任し、現在に至る。



遠藤真理子

（日本大学三島高等学校教師／テニス部監督）

「応援すること」「支えること」は
 まさに今の私の仕事につながっています



中村聡利
 (浦和学院高等学校)
 偏差値よりも個性値を
 大切にする大学で、
 「個」を磨くことができました

10歳でラケットを初めて握ってから現在までの26年間で、テニスを通じてさまざまなことを学んできました。「感謝すること」「あきらめないこと」「勝つために最善を尽くすこと」「相手を尊重すること」「チームの一員として役割を果たすこと」など。そして何より

もかけがえのないことは、「テニスを通じて多くの人と出会い、国内に限らず海外の友人もでき自分の視野が広がったこと」です。そんな経験をすることができた場所のひとつに、亜細亜大学があります。

当時は同世代のトップたちとともに、学生時代の大半をテニスコートで過ごしました。好きなテニスに夢中になり、その楽しさを感じ、ときに勝てない自分に悩み苦しんだりもしましたが、そんな日々と向き合いながら過ごせたのも「テニスが大好き」という思いと、堀内監督をはじめとした仲間が亜細亜という環境にいたからだと思います。

印象深いのは、日本一を決める大学王座決定試合に、4年次で挑んだ「王座奪回」。結果、優勝することはできませんでしたが、部員が同じ

方向を向き、本気で戦い抜いた準優勝には清々しいものを感じました。

現在は高校教師として教壇に立つと同時に、亜細亜で培った経験を生かし、テニス部顧問として務めています。私の指導の心得の中には、孔子の言葉「水は方円の器にしたがう」があります。これは「人は環境や交友関係によって善くも悪くも変わる」という意味です。お互いが信頼し、尊重し合える仲間をつくり上げることがこそが、私たちににとっての「師」であり「テニス」なのだと思います。だから、指導者は自らを高め、その環境づくりにエネルギーを注がなければいけないと感じています。

最後に、これからの社会を生き抜くためには「個」が問われることでしょう。偏差値よりも個性値を大切にできる大学で、自身も「個」を磨くことのできた亜細亜は、誇りのもてる私の母校です。亜細亜の門を突き破り、挑戦し続ける高校生の入学を期待します。私も生徒とともに、挑戦を続けています。

なかむら・あきとし◎1975年12月13日生まれ。山形県出身。日本大学山形高等学校卒。93年全国Jr.18歳以下単ベスト32。94年亜細亜大学入学。97年インカレ複ベスト32。98年に卒業し、98～04年までJAMプランニングにテニスコーチとして務め、ジュニア育成に携わる。04年4月から学校法人明星学園浦和学院高等学校に教師として就任し、現在に至る

私が亜細亜大学に進学した理由は、テニスに本気で打ち込みたいと思ったことと、自分を大きく変えることのできる環境があると思ったからです。

学生時代は1、2年となかなか思うような結果が出せず苦しい思いをしましたが、3、4年になると試合経験と練習量が増加し、海外遠征(ポルトガル)によって自信がつき、インカレに出場して勝つことができました。なおかつレギュラーとしてリーグ戦に出場することもできました。また4年次には主将となり、同期の皆に支えられて乗り越えることができました。「責任」という大きなものを背負いながら日々を過ごせたことが、自分を成長させてくれたように思います。

私自身は高校まで、テニスクラブで練習をしていたので、大学からの部活生活は本当に新鮮でした。今までは自分でうまくなるとか強くなると思っていたのですが、部活でやることによってチームで強くなると考えるようになり、「協調する」ことの大切さを知りました。

現在、私は教師として、またテニス部顧問として活動しています。最初から教師を目指していたわけではありませんでしたが、教育実習を経験し、教師のたいへんさを知るとともに、人を変えることのできる仕事というところに非常



に魅力を感じました。自分が指導している子供たちが日々成長している姿を見たり、自分の伝えたことを実践して変わろうと努力している姿を見るとき、まさにやりがいを感じます。

高校生みなさん、亜細亜には本気になれる環境があります。いつかは現役を退き、本気でコートを走り回ることもなくなります。しかし、そうなる前に大好きなテニスと納得いくまで本気で向き合い、本気で生きることを感じてください。最高の人生を送るためには最高のプロセスを送ること。そのためには日々何事にも全力で取り組むこと。頑張れ高校生!!

しんや・あきら◎1985年3月7日生まれ。大阪府出身。大阪産業大学附属高等学校卒。03年亜細亜大学入学。06年春季関東学生単&複ベスト32、インカレ単ベスト64、複ベスト32。07年に卒業し、現在は母校である大阪産業大学附属高等学校に社会科教員として務めるかわら、テニス部顧問としても活動している

新谷啓
 (大阪産業大学附属高等学校教師)
 本気になれる環境で、
 本気で生きることを感じてください

城間和人

(株式会社島津製作所)
我武者羅になることの
大切さを学べる場所



私が亜細亜大学に入学を決めたのは、高校時代からの大先輩である高田充先輩が亜細亜大学に進学したからです。高校時代から直向に努力し続け、どんどんと実力をつけていく高田先輩は私の憧れでした。先輩が上京し、さらに強くなっていく姿に、『いつか自分も上京して強くなりたい!』と強く胸を抱きました。

しかし、同学年には全国トップクラスの選手ばかり。自分は、ここで強くなれるのだろうか、どこまでついていけるだろうかと不安に駆られ、自信を失いつつありました。そんな中、同学年の仲間が私を受け入れてくれたこと。仲間と一緒に合宿所の屋上で素振りやフォームのアドバイスなどお互い話し合ったことが、不安から私を開放してくれました。その時、私は“くよくよ悩まずに兎に角今を我武者羅に頑張ろう”と心に決めたのです。そのおかげで1年生の時に全日本学生のダブルスで4強に入賞することができました。正直、私自身、驚きました。4年生の時は、シングルスで全く戦績が無かった私ですが、夏関で初の4強入り。亜細亜大学に入って強くなったと実感した瞬間を今でも忘れません。

学生時代を振り返って、私が学んだことは、目標を持って頑張ることはもちろん、自分は何ができるのだろうかということを深く考えずに、とにかく何事にも我武者羅に、必死に今を頑張

ること、そして、一緒に頑張ってきた仲間感謝する気持ちを持つことです。当然一人では強くなれないし、競い合う仲間や応援してくれる仲間がいたからこそ、我武者羅に、必死に頑張れたのだと思います。

その学んだことを活かし島津製作所に就職しました。社会人2年目の全日本選手権混合ダブルスで準優勝することができました。社会人選手を8年間、我武者羅に頑張ってきたのも、テニスができるという環境を与えてくださった会社、応援して下さる方々、大会で戦ってきた多くの選手の方たちのおかげです。本当に多くの方たちに恵まれたことに感謝しています。現在は、テニスをさせてくれた会社に感謝の気持ちを持って、一社員として我武者羅に仕事を頑張っています。

高校生の皆さん、亜細亜大学の魅力の一つとして我武者羅に頑張れる環境があります。これからも、もっともっと一所懸命になれるような場所として亜細亜大学を盛り上げていきませんか?

一所懸命に頑張ってきたことは、自分の自信にもなりますし、一生の宝物になります。

しろま・なぎと◎1972年4月2日生まれ。沖縄県出身。1991年全日本学生複ベスト4、1994年大学大座優勝、1995年島津製作所入社、1997年全日本選手権混合準優勝。島津製作所で選手活動を8年間行う。現在は、週1テニスを楽しんで過ごす。

私は高校3年生の時に、大学選びに迷っており、ギリギリまで決めることができませんでした。いくつかの大学で迷っておりましたが、堀内監督や森コーチが熱心に勧誘していただき、何度もお話を重ね、亜細亜大学に進学することを決意しました。

亜細亜大学にはハードコート8面、オムニコート2面と全部で10面のテニスコートと、トレーニング器具が完備されたジム、また、監督を筆頭に数多くの実績を誇るスタッフ陣と他の大学にはない環境が整っていると思います。しかし、亜細亜大学では常に答えを与えていただけるわけではありません。自らが考え行動していける人間を育てることをモットーにしています。なので、学生が主体となり、練習メニューからトレーニングメニューなどを考えており、どのようにすれば大会で結果を出すことができるのか、部活をより良くしていけるのか日々試行錯誤しています。答えを与えられず迷うこともありますが、その迷いが自分自身をより大きな人間にしてくれていると私は思います。また、テニスは常に考えるスポーツで、それを一人で行わなければいけないのでこのような環境で過ごしていることはとても重要だと感じます。

私は、このような経験から、関東学生で優勝、全日本学生でベスト8まで、行くことができました。

また、団体戦では目標としていた王座に出場することは叶いませんでしたが、毎年1部6位で、私が3年生までは1度も勝つことがなかったのですが、4年生で主将を務めた際にチームで2勝をあげ、1部4位になれたことは本当に嬉しく、チーム全員の喜んでる姿は今でも忘れません。

亜細亜大学では、テニスを通して人間力や社会性を向上させていくことが出来る環境が整っており、一緒に切磋琢磨していける仲間もいます。冒頭にもお話ししましたが、あの時熱心に勧誘していただいたスタッフの皆様には感謝しておりますし、亜細亜大学に進学して良かったと思っております。

高校生の皆さん、人間力の向上ができ、4年間で目一杯テニスに打ち込めるそんな亜細亜大学はいかがでしょうか。

かとう・しょうま◎1997年10月4日生まれ。神奈川県出身。横浜清風高校卒。2011ワールドジュニア世界大会2位、2013年全国高校選手権優勝、2015年全国日本選手権ベスト8、2015年国民体育大会3位、2017年関東学生新進テニス選手権優勝、2018年インカレインドア単複ベスト8。大学卒業後は株式会社東急パワーサプライに入社。



加藤彰馬

(株式会社東急パワーサプライ)
テニスに打ち込んだ大学4年間、
様々なことを学べる亜細亜大学

私は一般入試で大学へ入学、ただただ普通の大学生でした。サークルはどうしようかな?と考えていた時に、テニス部へのマネージャー募集に出会いました。昔から家族でテニスをしてきたこともあり、見学へ行ったことが私のテニス部生活の始まりでした。

マネージャーの仕事はテニス部の業務的なサポートがメインですが、その中でも学生テニス連盟の業務もさせて頂き、大会運営、学生強化などにも携わることが出来ました。大学生の大会は、全て学生で運営しており、他大学の仲間と協力し合い行います。特に強化部としては、ユニバーシアード(大学生のオリンピック/2007年タイ開催)へマネージャーとして参加させていただきました。ただの普通の大学生が日本チームの一員として日の丸をつけて参加するなんて、まさに夢のような経験でした。また、亜細亜大学でのフューチャーズ大会の立上げにも携わらせていただきました。プレイヤーの部員が大会を運営することは大変なことでしたが、みんなで協力し大会を無事に行うことが出来ました。

マネージャーという立場ですが、監督やコーチ、同学、先輩・後輩などに恵まれました。特にテニスのことが何も分からない私を支えてくれた同学には感謝の気持ちでいっぱいです。マ

ネージャーですが、部員と一緒に全国大会での素晴らしい時間を過ごすことが出来ました。

現在は2児の母でもありますが、ホテルにて勤務しております。ホテルでの仕事も日々チームプレーなので、この4年間の経験が活きていると実感しています。

亜細亜大学へ入部してくる選手は、「みんなテニスが好き、もっと強くなりたい」という気持ちが共通しています。ただテニスをするだけではなく、マネージャーの仕事もその先の社会に出てから生きていくことがたくさんあります。この4年間は本当に貴重な時間です。ぜひこの時間を仲間と共に切磋琢磨し、素敵な時間を送りませんか。

ふくだ・ゆみの◎1986年2月3日生まれ。東京都出身。聖徳大学附属高等学校卒。04年亜細亜大学入学。08年株式会社プリンスホテル入社



福田弓乃

(株式会社プリンスホテル)
マネージャーは決して裏方ではなく、誰よりも素敵な経験ができました

学生生活での成長が今の私の支えになっています

田中文彩

(明治安田生命保険相互会社)

「全国で勝つにはここしかない。」そう思い、私は亜細亜大学に進学を決めました。中学、高校では納得のいく結果を残せず、全国で勝つためにはこのまま地元の愛知県で進学するのではなく、全国から選手が集まる関東に行くべきだと考えました。その中でも亜細亜大学は、堀内監督をはじめとするコーチ陣の熱い指導、コートやトレーニングの施設、素晴らしいライバルと、どこにも負けない環境が整っており、1番魅力的な大学でした。

もちろん戦績もない私が通用するの不安もありました。入学してからは毎日が緊張で、付いていくのに必死だったのを覚えています。そ

れでも自分の中の目標を忘れずに、その環境ですべきことをやり続ければそれが当たり前になり、また次のステップへと進むことが出来ます。辛い時、挫けそうな時も乗り越えようとしたその行動が、成長させてくれたのだと思います。

大学生活は社会に出る前の大切な期間でした。日々の授業、クリニックや大会の運営、集団生活や先輩後輩との上下関係など、コミュニケーションスキルや時間の使い方、忍耐力などは今でも役立っていると感じる場面が多々あります。あれ程までにひとつに打ち込み、熱くなれる時間は2度とないでしょう。周りのサポートがあったからこそ出来たことですが、リーグやインカレ、主将を経験し辛かった時期やあの緊張感は今では本当に良い経験であったと思います。

亜細亜大学は、自分次第でいくらかでも可能性が広げられる場所です。自分と向き合い、仲間と共に成長出来る素晴らしい4年間になるよう願っています。

たなか・あや◎1995年8月16日生まれ。愛知県出身。県立津島東高校卒。15.17年関東学生複ベスト4。15-18年インカレ出場。16年全日本複ベスト32。現在は、明治安田生命に勤務し実業団チームに在籍。19年日本リーグ準優勝。



橋本大貴

(株式会社NIPPPO)

人間性が磨かれた、
亜細亜大学での4年間

平成29年度卒業の橋本です。私は高校3年生の春までは他の大学への進学を考えていました。しかし、その年の夏に亜細亜大学の練習に参加させて頂いた際に10面のテニスコート、トレーニング器具が完備されたジム、そして堀内監督を筆頭に数多くの実績を誇るスタッフ陣。自分自身のテニスを追求するには十分過ぎる環境だと思い、進学を決意しました。

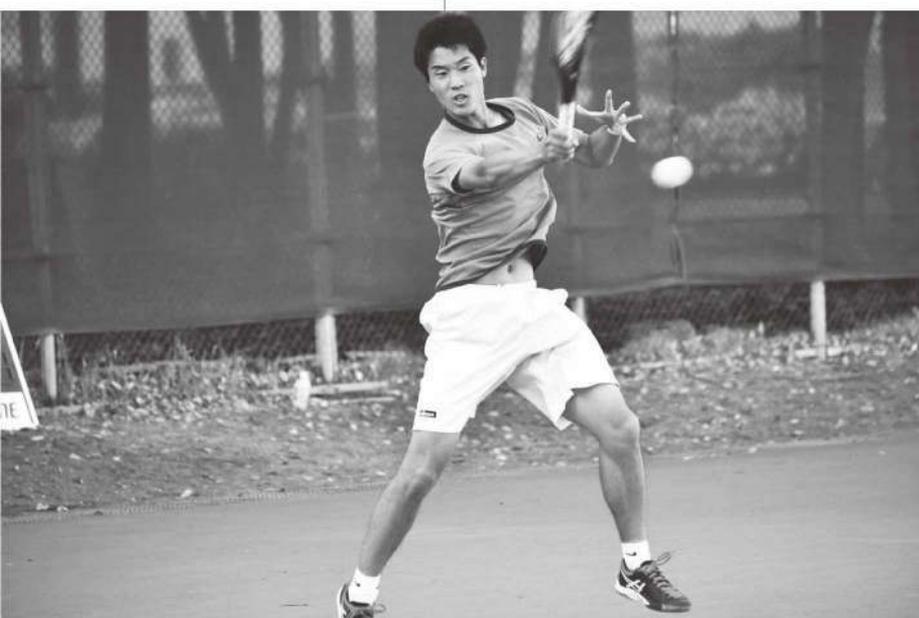
亜細亜大学は、学生主体で部活動を運営する意識がかなり高いと思います。私は、1年生からレギュラーとして活動し、4年生の時には主将も務めました。試合で上手く結果が出ない、部活動の運営に問題は無いかなど、現在の状況

を打破する為にどうすれば良いのか、自分で考えるのはもちろんですが、同期や先輩、後輩と日々話し合い解決策を模索していました。どんな状況でも決断を下すのは学生自身でした。この環境だからこそ自分で考え抜く力が磨かれ、テニスだけではなく人間性、心の部分が大きく成長したと思います。亜細亜大学での4年間は、私を人として大きく成長させてくれた一生忘れることのない時間だと確信しています。

高校生の皆さん、大学生活は一度きりの人生の中で各個人の中に色濃く残る大切な時間だと私は思います。そんな貴重な時間を、より良い環境で過ごしてみませんか。亜細亜大学には、4年間に余すことなく完全燃焼できる環境があります。

現在、私は株式会社NIPPPOの営業マンとして日々仕事に従事しています。毎日テニスに没頭していた大学4年間とは環境が大きく変化しましたが、常に人間性を磨き、心の成長を止めないことを考えています。これからも亜細亜大学での経験を活かして、人として大きく成長していきたいと思っています。

はしもと・たいぎ◎1995年8月14日生まれ。北海道出身。中学校まで北海道でテニス続ける。秀明英光高校進学を機に関東へ。埼玉県私立秀明英光高等学校卒。団体戦第35回全国選抜高校テニス大会3位。団体戦平成25年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)3位。個人戦平成25年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)単出場 複ベスト16。2014年亜細亜大学入学。平成28年度関東学生新進テニス選手権大会 複準優勝。全日本大学テニス選手権大会(インカレ) 複ベスト32(2015・2016)。関東学生リーグ4年間単複フル出場。大学卒業後は株式会社NIPPPOへ入社。



大学選びに悩んでいる高校生へ伝えたい事は、「チャレンジ出来る環境に身を置いて欲しい。きっと見た事のない絶景が見れる」という事です。高校生までの私は、全国大会に出場しても1、2回戦敗退ばかり。大学進学は2部か3部の有名大学に入ろうと考えていました。そんな私が亜細亜大学への進学した大きな理由は、堀内監督の存在です。高校まででテニスはやり切ったつもりでしたが、堀内監督の温かく情熱的な人柄と指導力に惹かれ、大学でも頑張ってみよ

うと思ったのです。そして厳しい練習を乗り越えて迎えた、インカレ、インカレ室内、王座で決勝へ進む事ができました。今でもあの時の感動、あの時の景色を思い出すたびに鳥肌が立ちます。それと同時に「亜細亜大学に進んでよかった」と思うのです。皆さんの中には大学卒業後の進路に不安がある方がいるかもしれませんが。しかし企業は「何かに全力で取り組んで成長した人」を求めています。亜細亜大学では学生主体となって国際大会を運営したり、コーチ陣帯同で国内外のITFの大会に挑戦できます。そのような経験は亜細亜大学テニス部でしか出来ない経験です。また、必然的にテニス界での繋がりも広がっていくので、卒業後に実業団を希望する学生に有利です。最後に冒頭でもお伝えした通り、「チャレンジ出来る環境」に飛び込むことで想像以上に充実した経験が出来ると思います。これは経験者である私だからこそ胸を張って伝えられます。

たかはし・れいな◎1996年8月8日生まれ。山形県出身。宮崎商業高等学校卒。2010年全国日本Jr.単ベスト16。2015年亜細亜大学に入学。2018年インカレ複準優勝、インカレインドア複優勝、王座準優勝。2019年に卒業し、リコーに就職。実業団で活躍中

高橋玲奈

(株式会社リコー)

卒業して間もない私だから言えること
チャレンジの先にある絶景を見に飛び込もう



三上英知

(伊藤忠商事株式会社)

あきらめずに頑張れば
報われるというのを、
身をもって経験できました

私は一般入試で亜細亜大学に入ったので、入部当初は、自分のレベルが周りの同期、先輩とかけ離れており、やっていけるのか不安に感じたのを憶えています。それでも自分を信じ、とにかく、毎日必死にボールを追いかけていました。途中、ケガなどもありましたが、堀内監督を信じ、あきらめずに4年間頑張った結果、入学当初は想像もしなかった成績を収められ、本当に良い経験となりました。ありきたりですが、あきらめずに頑張れば報われるということをもっと経験できたことと、主将をやらせても

らい、人をまとめることの難しさを勉強させていただきました。両方の経験がいまの人生に生きています。

楽しかったことと言えば、何と言っても素晴らしい同期と出会え、いっしょに時間を共有できたことです。ほとんど兄弟のように365日いっしょにいました。反対につらかったことは、毎日でしたが(笑)、それくらい必死に練習していたと思います。やはり4年のときに部の運営をしていて、なかなか全員が同じ方向を向いてくれなかったときはつらかったです。でもそれもいまとなっては良い思い出です。

亜細亜大学テニス部は、素晴らしい練習環境の下、テニスの大幅なスキルアップが図れることは間違いなし、同時に人間力を磨ける本当に素晴らしいチームだと自負しています。ぜひ入部して自分を試してください。

みかみ・えいち◎1970年9月18日生まれ。静岡県出身。静岡聖光学院高校卒。89年亜細亜大学入学。91、92年春季関東学生複ベスト8、インカレ複ベスト32、91年全国日本テニス選手権複出場、92年全国学生室内複出場。93年大学卒業後、伊藤忠商事株式会社、建設部門に配属。その後、食品流通部門へ異動しファミリーマート事業に携わる。06年より5年間中国広州市へ海外駐在。駐在中もテニスを通し日中交流を楽しむ。帰国後は、駐在の経験を生かし中国を担当



皆さんにとって「仲間と一緒に力を高め合いながら熱狂できること」は何ですか?それを見つけれらる人って残念ながら意外と少ないのではないのでしょうか...?私は亜細亜大学に一般入試で入学し、ほぼほぼ素人レベルでこの門をくぐりました。先輩そして同期にはインハイで大活躍していた選手、後から入ってくる後輩もとんでもない選手ばかり...私のようなテニス素人選手がこの環境で何に熱狂したのでしょうか?私はこの亜細亜大学で「チームで戦うという快感」に熱狂していたのです。テニスは究極の個人戦であり究極の団体戦です。コート上にいるのは一人...でもコートの外には多くの仲間がいます。一緒に汗を流し、時にはもめる事もある。でも我々はチームです。そして私が4年生の時、亜細亜大学硬式庭球部は大学王座で日本一になったのです。今私はオーストラリアで飲食という畑でチームを作り目標に向かって走り続けています。海外ならではの苦勞、思いも寄らぬ問題が毎日のように降りかかってきます。しかし亜細亜大学庭球部で培った「チームで戦うという快感」を求め日々奮闘しています。学生という

人生の中でも最も貴重な時間をこの亜細亜大学で堀内監督はじめコーチの方々の指導を受けながら、自ら考え行動しチーム一丸となって大学生生活を謳歌して行って下さい。そしてどんな分野でも結構です。海外で活躍できる力を身につけましょう!オーストラリアで待っています!

ひらぬま・かおる◎1971年10月18日生まれ。テニスの主な実績は無し。大学卒業後、旅行会社に就職。2年で退社しニュージーランドへ旅に出る。一時帰国したものの29歳でソニーの外資系旅行会社に就職。就職したその年に会社が倒産。30歳で飲食の道に進み現在ブリスベンに焼肉店を2店舗とラーメン店を2店舗、ゴールドコーストに居酒屋1店舗の合計5店舗のオーナーとして奮闘中。



平沼かおる

(オーストラリアで起業して)

テニスは究極の個人戦であり究極の団体戦。
そこで得られることとは...

柴廣一

(明治神宮外苑テニスクラブ)
人間力を高め、
充実した学生生活を

今から40数年前の昭和53年(1978年)成田空港が開港した年になりますが、私は縁あって亜細亜大学に入学いたしました。一般入学でありましたが、新入生勧誘を受けたこともあり、硬式庭球部に入部することにいたしました。高校でテニスの経験は少しあったものの、体育会というのは正直不安な気持ちだったこと今でも覚えております。

当時のテニス部にはホームコートがなくジブシー活動。また特定の指導者がいない中でも練習・規律は結構厳しく、部員皆で知恵を絞り一生懸命テニスをしながら、まず充実した学生生活を送っていたと自負しております。

戦績はといいますが、関東学生本戦にも上がれず、チームとしても4年間、関東リーグ最下部の7部にいた訳ですが、最後の年に7部の中で準優勝したことは、ちょっと自慢です。

卒業後、テニス関連の仕事に就いた後、昭和から平成に替わる年、明治神宮外苑という法

人に奉職することとなりましたが、それ以降も学生諸子の活躍はずっと見続けてきております。

さて、私はその明治神宮外苑で、神宮水泳場、神宮第二球場・ゴルフ練習場と実経験のない施設を回り、平成23年(2011年)20数年振りにテニスに復帰し、テニスクラブ支配人として着任し、現在に至っております。

テニスから離れていた20数年間、仕事以外でもテーマを自分自身で見つけ、乗り越える。達成出来たかは疑問がありますが、そんなことを常に考えていました。思い起こしますと、指導者不在でした学生時代、そこには仲間がいましたが、重要だったのはテニス以外のことも自分自身で考え、実施する「人間力」だったと思います。

最後になりますが、私もずいぶん人生送ってきました。学生時代の仲間はたった4年間の付き合いでしたが、今では生涯の友となっております。そんな仲間とテニスはだけでなく、様々な経験を積み、バランスの取れた素晴らしい学生生活をお送りくださいますよう、心より願っております。

しば・こういち◎1959年11月14日生まれ。東京都出身。都立桜町高校卒業。1978年 亜細亜大学経営学部入学。1982年卒業。フミヤテニススクールアルバイトを経て、1983年神宮テニスクラブにテニスコーチとして就職。その後、1988年明治神宮外苑入苑。



私は、経験豊富なコーチ陣が他の大学より多く在籍していること、また、国際大会を運営していることを魅力に感じ亜細亜大学の入学を決めました。

私が学生時代の中で一番心に残っている言葉は堀内監督の「社会人になるとミスをするのは許されないから学生の内にいっぱい挑戦をしてミスを怖がらず挑戦しろ」との言葉でした。国際大会では多くの企業に出向き国際大会のアピールや協賛をしていただいて企業に対してどのような利点があるのかなどを伝えることをしました。また、部活内では副将として部の運営のサポート、勧誘では多くの高校生や高校の先生方、親御さんに亜細亜大学のアピールをして多くの選手を獲得するために尽力しました。

仕事だけではなくテニスに関しても多く悩みましたが1年生の時よりかなり実力、結果ともに成長することが出来たと思います。自分の求めるプレーでどうやって結果を出すことが出来るかをコーチ陣と沢山の時間を使い議論したことは今でも感謝しています。

私自身、現在の仕事では職員同士でのチームワークが必要でミスが絶対に許されない仕事についておりますが、学生時代の4年間が凄く自分の力になっていると感じ、やってきたことが間違っていないと確信が持っています。

最後になりますが、成長するかしないかは自分自身だと思います。ただ、この亜細亜大学には自分自身をより良い人生に進むことの出来るきっかけがあります。また、プロになれる環境もあります。多くの経験をしてなりたい自分を見つけて頑張りたいと思います。

つねまつ・たくみ◎1996年1月26日生まれ。埼玉県出身。大成高校卒業。14年亜細亜大学入学。15年に単複インカレ予選出場、16年にインカレ本戦、新進複準優勝。また17年には単インカレ予選・複インカレ本戦出場、夏開複ベスト8。18年に卒業し、東急電鉄株式会社に入社。現在も東急電鉄株式会社に勤めている。



恒松拓未

(東急電鉄株式会社)
亜細亜大学で得た経験

卒業生の主な就職先

■就職状況

近年、学歴よりも人物重視の選考を多くの企業が取り入れてきています。

そこで就職状況を紹介するとともに亜細亜大学テニス部での活動がどのように就職に生きてくるかをお伝えしたいと思います。

★学歴重視よりも人物重視の採用

学歴＝大企業と思われる方も多いと思いますが、近年多くの企業が人物重視の採用を行っています。

これは本人が今までどのような学生生活を過ごしてきたが重要になるということです。

ではテニス部での活動がどう生きてくるのかをお伝えします。

POINT

- 国際テニス大会の運営(男女同開催)により実務力が向上
- クリニック(3時間受講生の方に監督、コーチ、学生でテニス指導)で接客能力向上
- 国際テニス大会の運営費(クリニック、スポンサー)の呼びかけ、集金など交渉力向上
- 派遣コーチで実践的なコーチスキルアップ(亜細亜大学と提携しているテニスクラブにアシスタントコーチとしてレッスンに加わる)
- 週6日の部活動(日々の活動の中で多くの体験をする事が出来る)による生活力向上
- その他、社会人として必要な幅広い能力が身につく

亜細亜大学テニス部◎主な就職先一覧

大正製薬／パイオニア／松下電工／NEC／パナソニック／豊田自動織機／朝日生命保険／大沢商会／セコム／伊藤忠商事／ゼネラル石油／ヤナセ／ワールド／東芝／島津製作所／NTT東京／日本舗道NIPPO／北日本物産／NTT北海道／福岡銀行／日本生命／平和堂貿易／東急百貨店／松下通信工業／大東銀行／アイシン精機／山陽新聞／ディスコ／野村証券／ヨネックス／みずほ銀行／レオパレス21／常磐薬品／ANA／プリンスホテル／警視庁／神奈川県警察／JR北海道／トヨタ自動車／プリヂストンスポーツ／アメアスポーツジャパン／イカイ／KONAMI／JA山梨／明治安田生命保険／三井住友海上火災保険／アドヴァン／エムサービス／ウェスティンホテル／株式会社三越伊勢丹／ウインザーテニスショップ／九州電力／福島工業株式会社／株式会社リコー／東急住宅リース／留学(イギリス・ドイツ)／学校教員

OBインタビュー(ウェスティンホテル東京)

「4年間で成長できた点」 島 亮太郎

(令和2年度卒業 法学部法律学科)

私は、亜細亜大学テニス部の活動を通して、テニスの能力だけでなく、人間的な部分で大きく成長することが出来ました。その中でも、特に成長を感じた点が3点あります。

1点目は、部員1人1人に役職があることです。亜細亜大学テニス部には様々な役職があり、練習メニューやトレーニングを考える部署や部活の物やお金の管理をする部署といったものから、イベントの企画やこのパンフレットを作成するという様々な部署があります。部員それぞれが各部署で仕事をする事によって、テニス部という1つの組織を動かすという意識が生まれます。また、練習と仕事を両立させるために、1ヶ月単位の計画を作ることや、部をより良くするために意見を話し合うためのミーティングも必要となります。大変な部分もありますが、様々な物の見方や考え方、伝え方が確実に身につきます。この経験を得ることが出来る事も、就職活動においての1つのアドバンテージだと思います。

2点目は、国際大会の運営に携われることです。自分達で大会を作り上げる経験や選手やスポンサーとの交流といった普通では出来ない事を体験出来ます。プレイヤーとしてではなく、大会のスタッフとして動く事で、新しい考え方や大会を最後まで運営する大変さ等様々な発見があります。相手の立場で考える事の大切さや何かを最後までやり遂げる素晴らしさを学ぶことが出来ました。

3点目は、素晴らしい環境の中で、テニスに向き合えることです。10面のテニスコートやトレーニングセンターといった環境は勿論ですが、「出来るまでやる練習」を行っていることが何よりの強みではないかと思います。

苦手な部分をそのままにせず、出来るようになるまで最後までやり遂げることで、強い精神力と自信が身に付きます。実際に、就職活動での筆記試験対策や面接対策でもこの経験がプラスになりました。

4年間で、社会人として必要な事を沢山学ぶことが出来ました。大変なこともありました、それも含めて今に繋がっているのだなという実感があります。4年間の大学生活の中で、テニスを通して様々な事に挑戦したい!という人にとっては最高の場所なのではないかと思います。



就職ガイダンス

卒業・就職までのスケジュール

1年 働く意味を知り、
なりたい自分を見つける

2年 自分の強み、興味、
関心を仕事に向ける

キャリアガイダンス

キャリア形成の取り組みをサポートする説明会で、ワークシートなどを用いてキャリアに関するレクチャーを実施します。

● キャリアフィールドワーク

「働くこと」をリアルに捉え、職業観をより明確にすることを目的としている。大学生版「社会見学」のようなもので、就職をより強く意識する絶好のチャンスです。

● 就職準備講座

夏季集中講座。就職活動の3大要素、「自己分析」「企業訪問」「模擬面接」を学びます。

● キャリア講演会

社会で活躍する著名人や卒業生を招いての講演会を行ない、学生時代に「何をすべきか」を知り、その後の「生き方」を考えていきます。

● 職業興味検査

進路の方向性を客観的に理解するための機会。「職業と自分」を考えていきます。

キャリア・就職支援プログラム

● 個人面談

「学生一人と徹底的に向き合い、同じ目線で将来を見つける」キャリアセンターは常に学生とひとつになり、各自の興味・関心や個性を見据え「進路」を模索します。

● グッドカンパニーフェア

2月、3月、5月に企業の人事担当者の方に来ていただき「学内企業説明会」が行われます。約200社を招き、業務内容などを細かく説明してもらえます。

● キャリアデザイン

なりたい自分への道を描くスキルを身につける。

● 卒業生との語り

亜細亜大学の卒業生をキャンパスに招き、就職活動体験や業界・企業に関する情報を教えもらうことができ、年齢が近く適切なアドバイスをもらうことができる。

● 業界研究セミナー

「業界」の概念を学び、志望企業をイメージする。日本を代表する企業約20社の人事担当者を招き、企業の動向や採用情報、求める人材像などを詳しく解説してもらいます。このセミナーをきっかけに進路を決定する学生も多数います。

資格取得支援および
各種講座も多数あり

- ✓ 公務員試験講座
[1講座6コース]
- ✓ 民間企業就職試験講座
[1講座2コース]
- ✓ 資格取得講座
[10講座15コース]
- ✓ TOEICテスト対策講座
[1講座16コース]
- ✓ 語学会話講座
[3講座15コース]
- ✓ 福祉関係講座
[3講座6コース]

専門課程

① 教職課程
【社会科、英語科(国際関係学部のみ)】

中学校、高校の一種教員免許状の取得を目指します。取得できる教科は、高等学校の公民・商業・英語高等学校の商業は、経営学部経営学科のみ。中学校の社会・英語中学校・高等学校の英語は国際関係学科のみ。学校図書館に配置される司書教諭の資格も取得できます。幅広いプログラムで実力のある教員を養成しています。

② 図書館学課程

図書館法によって定められている図書館司書の資格を取得できます。同時に、情報システムを駆使できる専門職を育成します。

③ 社会教育主事課程

生涯学習の企画・立案を行なう専門職を目指します。本課程修了で社会主事の講習を履修したことになります。

亜細亜大学では、入学時から多彩なキャリア・就活支援プログラムを展開。
自分に合った職業に就けるように全学年を通し、個別面談を中心に細かなサポートを行なっています。

3年 自分の適正を見極め、
目指す業界、
職種を絞り込む

4年 就職活動本番!
自信を持って選考へ

就職支援ガイダンス

キャリア・就職支援に関するセミナーや目的別講座を実施します。3年次には介護体験、4年次には教育実習が行われます。

● 自分を知る

自己理解、自己分析、履歴書作成を支援します。

● 業界・企業を知る

「人事担当による模擬面接」「ビジネスマナー講座」「文献情報入手講座」「内定者に聞く“就活の基礎”」「卒業生との語らい」「業界研究セミナー」などの実施。

● いざ就活!

「グッドカンパニーフェア」「学内企業説明会」「専任職員による個別面談」の実施。

Hop

Jump

インターンシップ体験

2、3年次の夏休みに「インターンシップ体験(就業体験)」に参加するのが一般的。1年次にも参加できます。

「教育実習だから感じられたこと」 清水 奎吾

(令和2年度卒業 経営学部経営学科)

私は、母校である滋賀県私立光泉カトリック高等学校・中学校に教育実習に行きました。コロナウイルスの影響で当初予定していた3週間が2週間となりましたが、感染対策がしっかりと行われた状態で実習をすることが出来ました。自身の大学では実習が1週間短くなったので、それらを補う補講プログラムが行われました。教師という仕事を体験できる貴重な機会であり、楽しみな反面不安でもありました。教員側に立ってみると生徒であった時とは異なる見え方や考え方を体験することが出来ました。

学級は高校1年生を担当し、教科は高校3年生の政治経済を担当させて頂きました。高校3年生ということで、受験を控えた時期でもあり、いい緊張感のなかで授業を行っていたと思います。実習3日目から早い段階で教壇での授業をしました。そのなかで感じたことは、より良い授業をするためには、準備が全てであることを思い知りました。準備をしっかりとすることが出来れば、生徒たちの反応も良かったのですが、一方で準備が怠ってしまうと自身で何を説明しているか分からず、同じことを何回も言うてしまうことがありました。何を教える、伝えるにも自身で十分に理解してからでない授業として生徒に情報を提供出来ないと思いました。それからは、毎日学校に残れる時間まで残り教材研究を行い、生徒たちが理解しやすいように例え話を考えるなどのことを行いました。また、情報を伝えるにも生徒たちが分かりやすい言葉を選んでいくことにも心掛けました。生徒にとっては、初めて学ぶ知識なので、教員の伝え方一つで生徒のなかに残る知識になるのかが決まります。そのようなことにも気を使って情報を共有していくことの重要性を感じる事が出来ました。実習生として高校に訪れたからこそこのような経験を出来たと感じます。

また、部活動でテニス部にも携わらせて頂きました。テニスを教えるにも学校内で感じたことに似ており、感覚的なことを伝える際



に生徒によってしっかりとくる感覚があるので、私は様々な言い回しをしながら指導を行いました。結果的に、多くの生徒が理解をしてくれ、理解が出来ない生徒は聞きに来るなど良い雰囲気のなか生徒の接することが出来たと思います。生徒と一緒に何かをすることで生徒との距離感を縮めることが出来たと思います。テニスでの活動はもちろんのこと、実習期間中に農業体験があり、それを通して生徒と自然に会話することが出来たので、対面の授業のなかでも教員と生徒が共に学んでいくような空気にしていき、生徒と一緒に成長していける教員を目指すべきだと感じました。

今回の教育実習を終えて、情報を正確に伝える難しさや何事も準備の重要性を身に染みて感じました。教師という職を経験することが出来たからこそ感じるものもありました。とてもやりがいを感じる仕事です。亜細亜大学では、法や経済、経営の勉強をすることに加えて教職課程も受講でき、教員免許も取得でき、多くのことに挑戦できます。また、テニス部では国際大会を主催しており、一般の大学生では経験出来ないことを行っています。挑戦することに妥協がなく、皆がなんでも挑戦できる環境が整っています。最高のチームだと思うので、ぜひ入部しましょう。



第1回「亜細亜大学国際オープンテニス2007」

国際大会開催までの全記録

2007年3月19-25日、私たち亜細亜大学テニス部は、日本初となる大学主催の男子フューチャーズ1万ドル大会「F1亜細亜大学国際オープンテニストーナメント」を開催しました。準備から運営にいたるまで、すべて学生が行なった手づくりの大会の全記録がここにあります。

記事協力◎テニスマガジン(2007年6月号掲載)

2006年9月

大会まであと6ヵ月

フューチャーズを開きたい!

堀内昌一監督が学生たちに「フューチャーズを開きたい」と言い始める。学生たちはまだ半信半疑で「無理ですよ」という雰囲気だった。

2006年10月

大会まであと5ヵ月

開催決定

堀内監督が学生に「フューチャーズを開催する」と正式に伝える。さらに「すべて学生でやってもらいたい。お金の集め方から運営の仕方まで、お前たちが全部考えてイチからやってみよう」との指示が。学生たちは「え? 本当に?」という感じだったが、同時にこれはもう引き下がれないという状況になる。

川廷さんの視察

10月24日、ITF(国際テニス連盟)で世界的に活躍している川廷尚弘さんが視察に訪れる。亜細亜大の施設がフューチャーズに使用できるか、コートの幅、審判台の高さなど細かいところまでチェック。



準備や運営についての講義も受けた。徐々に大会のイメージが膨らんできて、「やるならちゃんとやろう」という空気が全体にできあがる。

後日、川廷さんが視察レポートを学生全員に配ってくれた

2006年11月

大会まであと4ヵ月

第1回学生ミーティング

1回目のフューチャーズ・ミーティング。議題となったのは「資金集め」。最初の構想としては、毎年つくっている庭球部パンフレットで協賛してもらっている方、日の出町(コート所在地)、地元住民のみならず一般企業などに、フューチャーズの主旨を理解してもらい、協力を仰ごうというもの。しかし、実際には厳しさを知り、資金集めは堀内監督、森コーチ、OB・OGが行なうことに。学生はクリニックのスタッフとして携わることとなった。

2007年1月

大会まであと2ヵ月

強化期間開始

年明け、東レPPOテニスのボーラーなどで忙しく、あまり準備が進まず。30日から、フューチャーズを最終目標とするテニス強化期間に入る。

2006年12月

大会まであと3ヵ月



幹部ミーティングがさかんに

4年生の幹部が監督、コーチらとセミナーハウスに泊まり込んでミーティング。役割分担の項目を決めたり、協賛していただくメーカーや企業を探したり、何度も打ち合わせを行なう。

亜細亜大のセミナーハウス。フューチャーズの話し合いや準備で使用したほか、大会中は大会関係者の宿舎としても1泊3000円で貸し出した

資金集めの主な方法

- ・日頃お世話になっているテニスメーカー、一般企業、団体からの協賛金
- ・学校からの補助金
- ・OB・OG会からの寄付金
- ・父兄、テニス関係者など個人からの協賛金
- ・日の出町からの協賛金
- ・サポーターズクラブの発足(応援してくれる一般の方を募集。クリニック受講、記念Tシャツ、「つるつる温泉」入浴券、ドリンクサービスなどを付けて3000円で販売)
- ・チャリティークリニックの開催(一般クリニックは5000円、ジュニアクリニックは500円で開催。大会前、大会中合わせて10回ほど行なう)

※資金面だけでなく、地元商工会やたかさんのボランティアに支えられた

2007年2月

大会まであと1ヵ月

本格始動

フューチャーズ開催に向けて本格的に動き始める。まずは、資金集めとフューチャーズの宣伝のため、一般の方やジュニアを対象としたクリニックを開催。1日クリニックは10~12時、13~16時でひとり5000円。1日30~40人、多いときで50人くらい集まる。このクリニックを計10回ほど開催したことで、かなり資金が集まった。



部内WC選手権が突然の中止

2月9日からセミナーハウス(寮)にて合宿開始。ここで部内のワイルドカード(WC/主催者推薦枠)選手権を行なうはずが……「何も準備ができていないのに、予選会をやるなんてダメだ。そういうものは、全部決まってるからやるべきだ」と堀内監督に言われ中止に。

国際大会について調査

森コーチと世界で行なわれている大会について話をしたとき、学生は何も答えられず、これでは国際大会の運営者として失格だと痛感。デ杯やグランドスラムなど国際大会をはじめ、テニスの歴史についても勉強する。

2007年3月1日

大会まであと16日

「簡単に大会に出るな。大会をつくる苦勞を知った上で、大会に出ろ!」(堀内監督)

フューチャーズ開催の意義

部員全員で「フューチャーズの意義」について意見交換。運営するにも、選手として出場するにも、意義を知った上で臨んだほうが頑張れる、と思ったため。「学生はフューチャーズに出てもすぐに負けてしまう。大会を開くことの苦勞を知られば、試合にもっと執着心をもって臨めるんじゃないか」と堀内監督。なぜ監督が学生に運営を任せなのか、その理由を皆が理解した。

私たちが考える“フューチャーズの意義”

- 1年生の意見
 - ・外国選手との交流
 - ・ATPポイントの獲得
 - ・プロ選手を見て勉強する
 - ・多文化の理解と受け入れ
 - ・選手のルーティンを学ぶ
 - ・運営することでマネジメントを学ぶ
- 2年生の意見
 - ・社会勉強(運営、資金集め、マネジメント)
 - ・国際交流(コミュニケーション)
 - ・教養を身につける
 - ・国際大会を主観的に見られる
 - ・地域振興
 - ・大学での国際交流やスポーツ、地域振興への意欲の高さを示す
 - ・国内の他のスポーツに良い影響を与える
- 3年生の意見
 - ・大会ができあがるまでの過程を知る
 - ・大会に対する思いを知る
 - ・日本選手の強化
 - ・運営に携わることで自分自身とテニスの関わりを見出すことができる
 - ・亜細亜大学の活性化
- 4年生の意見
 - ・日本選手の強化
 - ・学生テニスのレベルアップ
 - ・学生の学習の場の提供
 - ・国際大会数が世界ランカー数と相関関係にあるため、日本の国際大会数を増やさなければならぬ
 - ・企業、団体、地域、マスコミなどのあらたな関わり
 - ・各企業、メーカーの宣伝
 - ・亜細亜大学テニス部と世界のつながりをつくる
 - ・大会運営の過程を学ぶ

3月2日

大会まであと15日

役割分担

誰がどんな仕事に就くのか、係を決定(項目は下記)。それぞれが部の役割や得意分野が活かせる係に就けるように話し合う。部のブログ担当はメディア係に、財務担当は賞金係に、機械関係に強い人はビデオ係に、英語が話せる人は通訳係に、など全員が能力を發揮できるように振り分け、各係でチームを決めた。細かいところまで、考えられるすべて、全力でやろうということで意見が一致。この役割分担が、大会成功のカギだった。

係と主な仕事内容～運営の軸となる大会進行係

●幹部

ディレクター◎堀内昌一監督
アシスタントディレクター◎森稔詞コーチ、小野塚弓乃
スーパーバイザー◎川廷尚弘(国際テニス連盟)事務局◎宇田川裕(テニス部副部長)、金子国彦(亜細亜大職員)

3月4日

大会まであと13日

パンフレット作成開始

もともとつくる予定はなかったが、協賛してくれた方々へのお礼、記者発表への対応を考え、急遽作成することに。「パンフレットって何だ?」というところから始まったので、マスコミ関係者につくり方を聞きにいったり、これまでの大会パンフレットを集めたり、一気に慌ただしくなる。監督、コーチ、大学事務局と話し合いながら、掲載内容やレイアウトを決定。同時にプレスリリースやポスターもつくり始める。

- 運営係
全体への指示
- 賞金係
選手、スタッフへのギャランティの計算と管理。大会サポーターからの寄付金受け取り
- 会場・施設係
プレーヤーズルーム、コンピュータールーム、メディアールームの設置、学校の備品の持ち出し、管理、ドローボードの作成



- トレーナー係
トレーナールームの管理
- メディア・広告係
マスコミへの対応、ブログの更新、デイリーパンフレットの作成
- イベント係
クリニック、試打会の運営、観客席の準備、式典の運営
- 練習コート、ボール係
プラクティスコート予約の対応、ボールの管理
- ホテル、トランスポート係
オフィシャルホテル、セミナーハウスの予約代行、トランスポートの案内

- レフェリー係
ワイルドカード選手権の運営
- チーフアンパイア係
ポラー、ラインズマンの配置、チェック、指導
- 物品係
マイク、パイプ椅子、メーカーのパナー、紙コップなど備品の小さい管理、ネームボードの作成

- 通訳係
外国人選手への対応、表彰式でのスピーチ通訳
- 写真係
ブログ用、記録用写真の撮影
- 電話番係
選手、関係者からの電話対応

3月7日

大会まであと10日

部内WC選手権開催

2月上旬に行なうはずだった部内ワイルドカード選手権をようやく開催する。「皆に機会を与える」というのが目的だったので、学生全員が参加。実力によって、上からABCDブロックに分け、8ゲームマッチの総当たり戦を行なう。下部で勝ち上がった2名が上のブロックへ移動、というのを繰り返し、最終的に本戦ワイルドカード4名(大塚、富田、篠川、井上)、予選ワイルドカード3名(古城、牛田、風早)を決定。また、この頃からストーブ、テント、パイプ椅子など学校から備品運び出し、施設の設営準備が進む。

選手に戦いやすい環境を提供する係

- 洗濯係
ランドリーサービス(セミナーハウスの洗濯機を使用、乾燥室用の部屋を借りて乾かす)
- インフォメーション係
会場の地図や案内板の作成と設置、自転車の貸し出し



今後の検証材料として、選手のデータを集める係

- アンケート係
選手へのアンケート調査(アンケート用紙を製し、選手の実態を調査)
- ビデオ係
本戦の全試合をビデオ撮影(販売も行なう)
- スコアシート係
全試合のスコア記入(ウインブルドンの集計用紙と同じものを使用。確率やミスの種類まで細かくチェックし、試合後に渡す)
- 体力測定係
プロの体力測定(握力、垂直跳びなど、プロの体力や筋力を測定)



- マニュアルづくり係
来年以降の資料として役立てるため、各役職の仕事内容などを記録

- Tシャツ係～記念Tシャツの作成、販売
「亜細亜大学硬式庭球部」「日の出」「未来」「一球入魂」「一期一会」と描かれた5種類の大会記念Tシャツを販売。文字は監督のお母さん(習字の先生)に描いてもらい、テニスショップ「テニスファクトリー」の八田修孝さんに協力してもらって作成。一般の方たちが着ることも考えて、落ち着いたカラーにした。



3月12日

大会まであと5日

泊まり込みのホチキス止め

パンフレットの中身がやっと完成。しかし、装丁に予想以上の時間がかかる。コピー、ホチキス止めを泊まり込みで行ない、200部を作製(パンフは大会期間中に何度か足りなくなつて、そのたび追加し、結局300部くらいつくれた)。このあたりが焦りのピークだった。

3月13日

大会まであと4日

学生ワイルドカード選手権

関東リーグ1部校からの各4名と学生連盟からの推薦8名で、大学生だけのワイルドカード選手権が始まる。ワイルドカード予選3大会は川廷さんが不在なので、レフェリー係を中心に大会を運営する。

3月14日

大会まであと3日

記者発表資料が完成

できあがった大会パンフレットとプレスリリースを、庭球部パンフレットと大学パンフレットといっしょにファイルにセットし、記者発表用の資料が完成。また、学生ワイルドカードが早稲田大学の佐藤文平、吉備雄也に決定。



3月15日

大会まであと2日

初めての記者発表

堀内監督、小野塚AD、メディア担当・蒲谷の3名で岸記念体育館へ。集まった新聞記者、雑誌記者、スポーツライターなどにパンフレットの入ったファイルを手渡す。堀内監督が大会開催の主旨について発表する。



初めての記者発表に緊張気味の監督

一般WC予選サインアップ

一般ワイルドカード予選のラインアップが始まる。海外選手も含め、107名がサインをしにきてくれた。部員も全員がサイン。そのうち出場できるのは64名。

3月18日

予選2日目

ドローボード準備!

本戦ドロー抽選会の結果を受けて、ドローボードを作成。本戦1日目のデイリーパンフレットもできあがる。



3月17日

予選1日目

予選開始!

役割分担でやるべきことは決めてあったが、実際に試合が始まるとわからないことだらけで慌てる。OPやドローに掲載している韓国人選手や中国人選手のアルファベット表記が見にくいということで、漢字表記に直すことになり、選手個人に直接聞きに行く。スコアシート係は本戦から行なうということだったが、予選も準備期間として始めることに。

SUN, Peng [1]	孙鹏
OKI, Ryo	大木 晃
FURUTA, Takeshi	藤田 健史
CHANG, Kal-Lung	张嘉麟
DOERNER, Scott	ドゥーナー スコット
TOYOTA, Selya	豊田 聖也
KOGA, Kunio	古賀 公仁志
SIMPSON, Matthew [13]	シンプソン マシュー
GONG, Mao-Xin [2]	龚 毛欣
LIN, Tzu-Yang	林 子洋
KOJIMA, Tatsuji	小島 辰士
ASAKURA, Makoto	浅倉 誠

3月16日

大会まであと1日

宿泊開始

一般ワイルドカードの予選が始まる。本戦選手がコートにやってきて、サイン&ブラクティス。この日からセミナーハウスに宿泊開始。



セミナーハウスは8人部屋。大会終了まで全員が宿泊

3月19日

本戦1日目

本戦スタート!

いよいよ本戦開始。専門誌をはじめ、マスコミの方が多く集まり、プレスバスやパンフレットを渡して対応する。今日からラインズマンが入るので、朝から気合いを入れて練習。試合後、初の洗濯注文を受ける。夜中にブラクティスコート予約の電話がかかってきたり、デイリーパンフレットやブログの更新に追われたりと、慌しい雰囲気。試合は篠川が1回戦を突破してATP1ポイントを獲得、学生として2人目のATPランカーに。



ラインズマンは毎朝、大声で練習

3月20日

本戦2日目

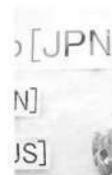
杉田選手が登場!!

シングルス1R、ダブルス1Rが行なわれる。デ杯の活躍もあって注目された杉田祐一選手が勝利し、盛り上がる。



ランドリーサービスは外国人選手がよく利用してくれた。最初500円だったがちょっと高いのではという話になり、300円にしたところ急に注文が増えた

デイリーパンフレットは夜原稿を書き、翌朝にコピー。学校も印刷所も開いていないので、近くの病院の売店でコピー機を使わせてもらう



ドローボードに本戦選手の顔写真を貼ろうというアイデアが出る。多くの選手が快く協力してくれた

1日のスケジュール

- 06:30 起床
- 07:00 朝食
(食べ終わったら各自コートへ)
- 07:30 コート集合
掃除、準備
- 08:30 選手が来始める、サインアップ
- 09:00 ブラクティス
- 10:00 試合開始
(各係が就く。時間があつたら試合観戦。運営に慣れてきた大会後半は夕方から練習練習練習...)
- 18:30 試合終了後、片付け
- 19:00 夕食→入浴
- 21:00 ミーティング
(係ごとに今日の報告、反省点、意見などをチーフが発表。こうしたらいいんじゃないかと思うことを毎日話し合う)。ミーティング後は自由時間(自分の仕事が終わったら就寝)

3月21日

本戦3日目

祝日で大盛況

シングルス2R、ダブルス1Rが行なわれる。祝日だったので、地元の方やOBの方もたくさんきてくれた。小学生対象のクリニックも開催。また、鈴木貴男選手がきてくれたので、体力測定に参加してもらおう。次週の早稲田大フューチャーズに参戦する韓国と中国のデ杯選手が練習しに来たので、どんなメニューを行なっているか調査する。



茶園鉄也選手(左)、寺地貴弘選手(右)がアンケートに答えてくれた

3月22日

本戦4日目



選手のサインを集めたサインボードはすばらしい記念

折り返し地点

大会も折り返し地点。みんな気持ちに少し余裕が出てきて、細かいことにも気づくようになる。シングルスは2R、ダブルスは準決勝が行なわれる。注目の杉田選手はフルセットで惜敗。

3月23日

本戦5日目

強風が吹き荒れる

シングルスは準々決勝、ダブルスは準決勝に突入。風が強く、本部の資料が飛んでいってしまったり、スコアボードが倒れそうになったり……。夜のミーティングでは、明日のダブルス表彰式に向けて会議を行なう。

杉田選手にサインをもらおう



近藤大生選手(左)がTシャツをお買い上げ。漢字が受けて、外国人選手も購入してくれた

OGでもある岡本聖子さんが会場を訪れ、体力測定に参加してくれた



杉田選手にサインをもらおう

3月24日

本戦6日目

ダブルス表彰式で感激

ダブルス決勝戦でOBの佐藤博康選手が登場。選手入場では、学生が花道をつくり、会場を盛り上げる。惜しくも準優勝だったが、「母校のフューチャーズに出られるとは思っていませんでした。学生が本当にがんばってくれて、よい一週間を過ごせました。今後も継続して頑張ってください」と激励の言葉をもらった。最後に選手、スタッフ、そして観客の方もいっしょに写真撮影を行なう。



ダブルス表彰式



初めてボーラーが入る



クリニックおよびブリヂストン試打会を開催

最終ミーティング

決勝戦に向けての最終ミーティング。学生の疲れはピークに達するが、監督からは「明日、達成感を感じたとしても、それで終わりじゃない。この経験をどう生かすか、すぐに考える。『やりっぱなし』で終わるな!と喝を入れられる。川廷さんからは表彰式の改善点、雨天時の対処法など、細かいチェックが入る。



サプライズパーティー

ミーティング後、4年生から再び招集がかかる。何が始まるのかと思いきや…「これまでできてくれてありがとう」と特大ケーキのプレゼント! 体はきつかったが、「最終日、これまでの総決算として絶対に成功させよう!」という元気が湧いてくる。



3月25日

本戦最終日

初代チャンピオンに林(イム)選手

最終日の早朝は土砂降りの雨。午前中に止んで、素早くコート整備を行なうも、またすぐに降り出すというアンラッキーな事態に。しかし、雨天時の対処法は前日に確認できていたので、みんな慌てず臨機応変に対応。こうして14時に決勝が開始し、韓国のイム選手がベテラン茶園選手をフルセットで下して優勝した。表彰式は昨日の反省を生かしてスムーズに進む。



新聞紙やタオルも使い、大急ぎで乾かす



記念すべき初代チャンピオンは韓国のイム選手(左)、右は準優勝の茶園選手をアナウンス



雨だったにもかかわらず、多くの観客が集まった

感動のフィナーレ

表彰式後、花道をつつて選手を送り出す。すると、学生から「監督も通ってください!」との声が。コートの隅でひとり号泣していた監督を、学生が引っ張り出し、拍手喝采の花道を通す。「学生たちが日に日に成長していくんだよ。みんなエキサイトして一生懸命やっている姿がうれしくて。こいつら、すごいな。本当にやってくれたんだなと思ったら…感動しちゃったよ」(監督)。



学生たちに囲まれ、監督は大粒の涙



最後に皆で写真撮影

「世界の壁は厚い。でもそれを破っていくことが大事だ。そのエネルギーを感じたんだから、やるしかないだろう」(堀内監督)

亜細亜大学国際オープンテニス2021 開催「延期」のお知らせ

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和3年3月7日(日)～14日(日)に開催予定であった「亜細亜大学国際オープンテニス2021」は、いまだ世界的に感染拡大する新型コロナウイルス感染症により、2020年大会「延期」の後「中止」に続き、2021年大会開催の「延期」を決定しました。

現段階で我々は、世界各国から参加の選手やご来場の観客・関係者の皆様の健康と安全を十分に確保できない事に加え、大学構内での開催という多くのハードルをクリアすることが出来ませんでした。

今後は、感染症が終息することを願いつつ15回目の開催(開催時期未定)に向けて、選手をはじめとし協賛協力頂いている各社・関係者の皆様のご理解とご協力のもと、大学とも話を進めて参ります。

何卒ご理解の程よろしく申し上げます。

亜細亜大学国際オープンテニス2021
大会ディレクター 森 稔詞

思

い出せば、けっこう不思議な光景だった——。

東京の西の最果、武蔵野の面影残る日の出町は土砂降りの日曜。上がった雨が、また泣き出しそうな黄昏どきだ。ジャージ姿の学生たちがコートサイドに集まり、そこから女子大生の肩を抱いた中尾彬が転がるように現れた。女子大生は泣きじゃくり、中尾も大粒の涙。学生たちは胸上げとか笑いながら、いや、泣いている者もいた……。

よく見ると、中尾彬ではなく“ホッチ”こと亜細亜大学硬式テニス部の堀内昌一監督、よく見れば、英文の横断幕がネットに揺れている。〈F1亜細亜大学国際オープンテニス2007〉——3月から展開された男子テニスのフューチャーズ5大会、その幕開け、F1亜細亜が終わったところ。監督と女子学生が涙する昭和の卒業式のような光景は、彼らにしかわからない物語だった。しかし、彼らだけの物語ではなかった。

フューチャーズは、ATPツアーのもっとも下位の大会である。本戦で1勝して1ポイント、優勝すれば12ポイント獲得できる。F1亜細亜は本戦32ドローに予選は64ドロー、さらに予選のワイルドカード8本のうち4本を公開して予備予選（32ドロー）を行なっている。8勝してやっと1ポイントを手にする勘定になる。

1ポイントで念願の世界ランク1518位タイ、ざっと500人の名前が並んでいる。四大大会の予選カットは250位前後で、最低150ポイントは必要だ。ロジャー・フェデラーの7715ポイントは、なんと遥かなるアラモだろう。

「学生たちにランキングを持つチャンスを与え、学生テニスも世界と結びついていることを再確認したい」というのがフューチャーズ主催に名乗を上げた理由だが、堀内監督の思惑はそこだけに止まら

平成19・20年卒業生がこの石碑を部室の前に立ててくれた。F1亜細亜大学国際オープンテニス2007開催を記念して、ここに紹介したテニスマガジン掲載記事と「大学から世界へ」の学生による学生のための国際大会開催の地」という文字が彫られている



ない。

日本には、以前からこうした大会は存在した。堀内監督も日本体育大学で活躍していた80年代前半、メーカーなどが主催して春季サーキットが開かれ、ジャパンオープン（現・楽天オープン）もそうした流れから誕生している。90年代にもサテライトが開かれたものの、辛うじて鈴木貴男をグランドスラムに送り出したくらいの成果しかなかった。

フューチャーズの登場でポイントが取りやすくなるとはいえ、世界と結びつければ近隣の強敵たちも来日する。終わってみればF1亜細亜では、ベテラン茶園鉄也の8ポイントを筆頭に近藤大生が2、ほかに6選手が1ポイント獲得し、学生は杉田祐一（早稲田大・三菱電機）と亜大の新1年生・篠川智大がゲット。

杉田は〈学生〉の対象外だから、日本選手、まして学生のポイント獲得が難しいことには変わりがないのだ。ただ、これは想定内だった。テニスはやって楽しく、見て楽しい。読んで楽しい人は少なく、運営の楽しさを知った人も多くない。F1亜細亜は日本初、川廷尚弘スーパーバイザーによればアジア初の学生の自主運営による大会だった。

学生運営の大会は、堀内監督の20年来の夢だったという。早稲田大学との絡みでその機が巡ってきた。この秋、早稲田大は創立125周年を迎え、大々的に記念行事が行なわれる。杉田や卓球の福原愛の部外入学、ハンカチ王子こと斉藤祐樹投手の話題づくりとともに、早稲田大庭球部のフューチャーズ開催も記念行事活動と連動している。この動きを見て、単独では名乗りを上げられなかった亜細亜大が、千載一遇のチャンスとばかりアプローチショットを放って、ネットに出たのである。

「僕もアメリカに留学してサテライトを回りました。大会は手づくりの素朴なものでした。これまでの日本のフューチャーズも、みなさんが一生懸命手伝って温かい大会になりましたが、それを学生にやらせたかった。人と接することでたくさんの方のことを学び、テニスを別の角度から見ることで、テニスがもっと面白く、好きになれるはず」



2007年亜細亜大学国際オープンテニス・総括

日の出に 世界がやってきた。

文◎武田薫 記事提供◎テニスマガジン(2007年6月号)

自分たちのポイント獲得だけが目的ではないから、ワイルドカードの特権を他校の学生にもジュニアにも分けている。

予選には、内外から107人のプレーヤーが日の出町までサインアップにきた。55人の部員は選手全員の練習コートを手配、準備しなければならない。セミナーハウスを一泊二食付3000円で宿舎に開放し、近郊の昭島や八王子に滞在した選手の送迎の世話、洗濯の案内、自転車のレンタル、ツアープロの命綱・インターネット利用のため、大学から10台のコンピューターを借りた。画期的なデイリープログラムの作成にブログの逐次更新。国際大会だから英語表記あり……。予算は限られていたから、試合進行とこうした周辺作業すべてを、学生自らの手でこなさなければならない。

運営が学生だろうが、選手からは手厳しい注文が飛び込んでくる。

「使わなかったボールは練習で使うから、返さないよ。練習ボールと質が違う」と言い張ったのは、ニュージーランドから予選参加したアダム・トンプソン、テ杯代表でもある。

「一応プロだ。いまは親が援助してくれる。もう24歳だから精神的にきつくてね。ホテルは一泊80ドルだぜ。ニュージーランドならヒルトンホテルに泊まれる。どうしてもランキングを上げたいんだ」

健闘空しく予選落ちすれば、日本選手は恵まれているとヤケにもなる。シングルス本戦のWCをもらった大塚真之助は、1回戦敗退と同時に賞金・会計担当補佐に回っている。

「ボールの手配や水の準備、これまで当たり前前に思ってきたことがけっこうたいへんで、貴重な経験でした」

あとから「何度計算しても5000円少なくて」と電話が入り、慌てたこともあっ

た。デスクの向こう側に座って初めて聞くツアープロのナマの声——間違いなく、学生たちがテニスを見る目は変わっただろう。

ダブルスで準優勝した亜細亜大OBの佐藤博康がこんな感想を話した。

「日の出町でフューチャーズをやるとは思わなかった。OBとしてうれしいし、決勝を戦えてよかった」

日の出町という地域性も、このF1亜細亜の特徴だ。

日の出町は、1983年、中曽根康弘元首相の別荘での米国ロナルド・レーガン大統領とのロンヤス会談で話題になったことがある。新宿から中央線の立川で乗り換え、拝島で単線の五日市線に移って武蔵引田駅下車——駅からの道端に野菜の無人販売所があり、テニスのプロ大会の開催地でこれほどの遠隔地はかつてのハヶ岳くらいなものだろう。だが、フューチャーズは観客ではなく選手のための大会というところがミソなのだ。雨の中を訪れた青木國太郎町長はご祝儀を手にもうれしそうである。

「26年前にゴミ焼却場を誘致してから、自然とスポーツがこの町のテーマでした。モラルを尊重するスポーツは、町民平和に結びつく。まして初めての国際大会です。ますます発展することを切に願っています」

学生は近隣住民にテニスクリニックを行い、地元の人たちはうどんコーナーを切り盛りし、商工会が特産品を並べて一体感を味わっていた。

かつて、デビューしたてのアンドレ・アガシが出場したボストン郊外の大会を取材した。夕方になるとパーベキューの煙がコートに流れ、近所の人たちがビール片手にワイワイと賑やかだった。堀内監督にはそんなイメージもあり、地元ア

ピールの場になればそれはまた別のおもしろい展開になるかもしれない。

「世界は日の出を待っている」ではなく、日の出に世界がやってきた……。

大会中、寝泊りをともにした川廷スーパーバイザーは二重丸をつけた。

「学生たちは毎晩反省会を開き、いつボール交換するかなど自分たちで決めてアドバイスを求めてきた。もっと教えなければいけないと思っていたんですが、いやあ、楽でした」

茶園も「若いから、テキパキして気持ちよかったね」と拍手を送り、優勝した韓国の林奎泰はこうだ。

「学生だけで大会運営をやるなんて信じられませんよ。残念ながら、韓国の学生には真似できないな」

そんな声を聞けば、小川春男学長も、決勝戦の寒い中、朝から夕方まで付き合った甲斐があった。

「国際大会に相応しい緊張感あふれる試合でした。学生諸君も、雨の中で緊張感を維持し立派だった。いい勉強になったでしょう」

最終日は雨で試合開始が5時間も延期され、そのことも運営の経験になったと言はたやすい。だが、すべてが初めてであり大きなリスクをとまなう賭けだった。冒頭の不思議な光景、堀内監督の涙がその舞台裏を思わず物語っていた。

さて、このチャレンジは誰にでも可能だっただろうか。誰もが、いきなりアプローチショットを叩いてネットに出られるとは限らない。

テニスは大学の中だけでも日本の中だけでもない、世界を目指すことを忘れるな——堀内監督、森稔詞コーチの日常的な指導方針が下地にあることを忘れてはいけない。日の出町に出現した日本の新しいテニス風景に、期待したい。

「2007亜細亜大学国際オープンテニス」ダブルス決勝のあと、大会スタッフとして働いたテニス部員も加わり、入賞選手を囲んで記念撮影。中央にいる2ペアが優勝、準優勝ペア。右の2人が、惜しくも準優勝だった亜細亜大学OBの佐藤博康とそのパートナーの李明



亜細亜大学国際オープンテニス チャリティーテニスクリニックに ご参加ください!

あなたも
サポーター

このクリニックの収益はすべて国際大会運営費に充てられます。
よってクリニック参加のみなさまは
大会サポーターであるとともに亜細亜大学テニス部のサポーターでもあります!

“テクニカルシリーズ”開講中!

2007年にスタートした『亜細亜大学国際テニス大会～チャリティーテニスクリニック“テクニカルシリーズ”』は、これまでに年間およそ20回、2020年現在までを数えるとおよそ200回ほど開催してきました。

クリニック開催の目的は大きく分けて2つあります。ひとつはテニス部員と一

般プレーヤーのみなさまとの交流機会を増やしたいということ。そしてもうひとつは、このクリニックでいただく参加費を『亜細亜大学国際テニス大会』の大会運営費用に充て、みなさま方ひとりひとりに大会サポーターとなっていただき、さらには、亜細亜大学テニス部のサポーターになって、応援していただきたいという思いがあります。

クリニックの講師は、テニス部の堀内

昌一監督、森稔詞コーチ、長久保大樹コーチのいずれかが務め、現役部員がサポートして、各回テーマに沿ったいい指導を心掛けています。もう一段階向上したいとお考えのテニスプレーヤーのみなさまに対して、期待に応える内容をご提供したいと思います。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

亜細亜大学テニス部一同

テーマは“テクニカルシリーズ”として細かく設定

例 サービス編 | レシーブ編 | ストローク編 | ボレー編 | プライベート編 など



情報およびお申し込み方法は、随時ブログに更新中!

亜細亜大学テニス部ブログEVER UPWARD!(意味は「限りなく向上せよ」)

<http://www.asia-tennis.com/sns/index.html>

亜細亜大学国際テニス大会チャリティークリニック 参加者を代表して

下田 敏雅さん



亜細亜大学テニス部との出会いで、テニスの面白さを実感出来、また改めて継続していきたいと感じました。

亜細亜大学庭球部関係者各位殿

この度は、テニスクリニックの感想の御依頼、御指名頂きまして誠に有難うございます。

私は、文才は御座いませんが少しでもクリニックの体験の良さをお伝え出来ればと思っております。

まず、参加の切っ掛けは、他所で堀内監督・森コーチにテニスの御指導を受ける機会が有り、亜細亜大学でもクリニックをされる事を知り、幾度も参加させて頂くようになりました。

次にクリニックの感想です。

私にとって最初の収穫は、テニスエルボーになりかけた時、クリニックに参加したことで、体の機能的な使い方を教わり、大きな故障を未然に回避しテニスが出来た事です。テニス仲間は、現在テニス肘で痛みと戦っております。おかげさまで私は痛みとは現在無縁です。

次の収穫は、今更ですが再度基本を教わったことにより、少しずつ試合でのラリーが安定してきました。各上の対戦相手に対して以前は不安を抱えておりましたが、勝敗は別にしてミスが少なくなりゲームが少し楽しめるようになりました。現在下部ですが、実業団の対抗試合に出場させて頂き、団体戦なので特に勝ちを意識しますが、ベースになる球が安定的に打てるようになってから、戦術戦略を考えられるようになりました。勝ち進めるのは大変嬉しいです。

次の収穫ですが、クリニック参加で御指導頂く学生さんやテニスを上達したいと志が同じ他のクリニック生の方々と多くお知り合いにな

れた事です。知り合いになった学生さんが学生の大会で御活躍されている試合を観に行きますと、試合のテクニックや応援が自分にとってとても参考になり、実業団の試合にも生かれます。また、他のクリニック生様とは、志が同じいか意外と悩みが共通なので、第三者的立場から悩みを理解でき、自分の弱点の改善に役立ちました。

最後の収穫ですが、クリニックの参加費用が、フューチャーズ大会に充てられ開催されますので、プロ選手の試合やテクニックが大学のコートで間近で観戦出来ます。また、プロ選手と知り合える切っ掛けが有り、その選手が他の大会でも御活躍されますと、何か訳もなく大変嬉しいです。有明コロシアムでお会い出来ますと、声を掛けずにいられません。

このような素晴らしい機会をお与え下さいまして大変感謝しております。

堀内監督・森コーチ・宮崎プロ

今後とも末永く、このクリニックを継続されることを切に願っております。



小原 崇さん



熱心に取り組んでくれるテニス部の皆さんとテニスをするのが楽しくて楽しくてしょうがないのです。

チャリティークリニックのことを知ったのは2012年にテニスマガジン主催で行われた秩父での「大練習会」に参加した際でした。堀内監督や森コーチのクリニックが行われたこともあり亜細亜大学のテニス部の皆さんが手伝いで参加されていたのですが、接するテニス部の皆さんが非常に丁寧かつ熱心で感心したのを覚えています。以降、チャリティークリニックには都合が合う限り参加させていただくという形で今に至っています。

自宅は横浜で日の出のコートまでは片道2時間ほどかかるためクリニックへの参加はほぼ半日作業となります。夫婦でテニスをしているため二人で3時間のクリニックを受けるために4時間かけて通っていることになり、周囲にその話をすると首を傾げられることが多いのですが私たち夫婦はその価値が十分にあると考えています。そこで、ここでは一参加者として私たちが感じているクリニックの価値を述べさせていただきます。

ます。

1. 指導者(監督、コーチ)の説明が

分かりやすく、実行しやすい

夫婦そろって30過ぎてからテニスを始めこともありある程度理論的に説明してもらえないとなかなか実行できないことが多いのですが、説明が非常にわかりやすく納得して取り組むことが出来ます。また、個別へのアドバイスが非常に適切ですぐに成果が出る事が多いです。この辺りは多種多様な部員を一人前の選手になるように指導してきた経験が大きくものを言っているように感じます。

2. テニス部の皆さんが熱心で

接している心地よい

クリニックでは生徒2~3人に一人といった割合でテニス部の皆さんが指導についてしっかりこちらのプレーを見てサポートしてくれる体制になっています。テニス愛好家という立場でこのレベルのプレーヤーがマンツーマンに近い形で見てくれるという環境はなかなか無いと思います。

また、教える事の上手い下手といった個人差は当然ありますが皆さん非常に熱心でなんとか上手くなって欲しいという熱意が伝わってきますので自ずとこちらもその思いに答えたいという気持ちが出てきてモチベーションが高まります。

3. 日本テニスの発展に

多少なりとも貢献できる

チャリティークリニックの収益は毎年3月に亜

細亜大学で行われるフューチャーズ大会の開催資金に充てられます。錦織圭選手らの活躍でグランドスラムなどでの大会の注目度が高まっていますが、ほとんどのプロテニス選手はまずフューチャーズ大会でポイントを稼ぐことによってさらに上のレベルにチャレンジしていきます。この登竜門であるフューチャーズ大会はアメリカやヨーロッパではほぼ毎週のようにどこかで開催されていますが日本では数が少なくプロとして活躍する最初の時点で日本の選手はハンデを抱えていると言えます。そういう意味でも亜細亜大学などで春先に開催されるフューチャーズのシリーズは日本人選手にとって非常に重要な位置づけとなっています。チャリティークリニックに参加することでフューチャーズ大会の開催に協力できるという事は日本テニスの発展に多少なりとも貢献できるということにつながると言えると思います。テニスを教えてもらう上に日本のテニスにも貢献できるなんてなんて素晴らしいことでしょう!

これから出てくる若いプレーヤーのためにもフューチャーズ大会は続けて欲しいですし、そのための協力は続けたいと思っています。ただ、そういうのを抜きにしても素晴らしい指導者の教えを請いながら熱心に取り組んでくれるテニス部の皆さんとテニスをするのが楽しくて楽しくてしょうがないのです。夫婦してこれからも片道2時間の道のりを通い続けるつもりですので今後ともよろしくお願い致します。

亜細亜大学国際オープンテニス2021

F1 Asia University International Open Tennis

大会要項 (予定)

日程

予選	2021年 秋予定	シングルス	48名
本戦	2021年 秋予定	シングルス	32名
		ダブルス	16組

賞金ブレイクダウン US\$15,000

試合方法 ●トーナメント方式(ベストオブ3セットマッチ6ゲームオール後タイブレイク採用)

会場 ●亜細亜大学 日の出キャンパス テニスコート(ハードコート8面)

〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井1449-1 TEL042-588-5817 FAX042-588-5817

男子	優勝
第1回	シングルス イム・キューテ(韓国) ダブルス ユ/ザン(中国)
第2回	シングルス 伊藤竜馬(ミキブルーン) ダブルス 近藤/佐藤(アイシン精機/フリー)
第3回	シングルス イ・チュハン(台湾) ダブルス 佐藤/イ(フリー/台湾)
第4回	シングルス 井藤祐一(空旅ドットコム) ダブルス 佐藤/イ(橋本総業/台湾)
第5回	東日本大震災のため中止
第6回	シングルス 内山靖崇(北日本物産) ダブルス 近藤/イ(アイシン精機/台湾)
第7回	シングルス 近藤大生(アイシン精機) ダブルス 関口/エイドリアン(三菱電機/スロバキア)
第8回	シングルス ディウ(中国) ダブルス 松井/小ノ澤(ライフ・エヌ・ビー/北日本物産)
第9回	シングルス 仁木拓人(三菱電機) ダブルス 吉備/仁木(ノア・インドアステージ/三菱電機)
第10回	シングルス ハン・リャン・チー(台湾) ダブルス 吉備/松井(ノア・インドアステージ/ASIA PARTNERSHIP FUND)
第11回	シングルス 高橋悠介(フリー) ダブルス 長尾/奥(エキスパートシズオカ)
第12回	シングルス ニューゲン・ダニエル(アメリカ) ダブルス 仁木/今井(三菱電機/イカイ)
第13回	シングルス 今井慎太郎(イカイ) ダブルス 仁木/今井(三菱電機/イカイ)
第14回	新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催中止

女子	優勝
第1回	シングルス 米村明子(島津製作所) ダブルス 穂積/手塚(フリー/ミキハウス)
第2回	シングルス ユ・ミ(韓国) ダブルス ハン/カン(韓国)
第3回	シングルス 井上雅(テニスラウンジ) ダブルス 波形/米村(北日本物産/島津製作所)
第4回	シングルス スー・チー・ウェン(台湾) ダブルス 岡村/米村(橋本総業/島津製作所)
第5回	シングルス フレッチ・マグダレナ(ポーランド) ダブルス 梶谷/宮原(早稲田大学/TEAM 自由が丘)
第6回	シングルス セクリッチ・サラ・レベッカ(ドイツ) ダブルス 小堀/高畑(橋本総業)
第7回	シングルス リー・ソ・ラ(韓国) ダブルス リー/キム(韓国)
第8回	シングルス ダリア・ロバテスカ(ウクライナ) ダブルス 米原/荒川(明治安田生命/プロ・フリー)

詳細は…

国際テニス連盟 (ITF) <http://www.itftennis.com/procircuit/>日本テニス協会 (JTA) <http://www.jta-tennis.or.jp/>亜細亜大学テニス部公式サイト <http://www.asia-tennis.com>

※2021年6月現在の予定。大会開催時期は申請予定です。